平成 20 年度「総合的な放課後対策推進のための調査研究」

「放課後子ども教室における
地域スポーツ団体との連携方策に関する調査」
報告書

平成２１年３月

パシフィックコンサルタンツ株式会社

目　　次

１．調査の概要 1-1

２．アンケート調査（全国調査） 2-1
　２．１ 調査概要 2-1
　　２．１．１　調査目的
　　２．１．２　調査方法
　２．２ 調査結果 2-3
　　２．２．１　回答状況
　　２．２．２　放課後子ども教室におけるスポーツプログラムの実施状況等
　　２．２．３　放課後子ども教室と総合型地域スポーツクラブの関係
　　２．２．４　課題の整理

３．関係団体からの情報収集 3-1
　３．１ 調査概要 3-1
　３．２ クラブやクラブ育成アドバイザーから寄せられた情報 3-2

４．事例調査 4-1
　４．１ 調査概要 4-1
　４．２ 調査結果 4-3
　　４．２．１　ヒアリング調査結果
　　４．２．２　参加者等アンケート調査
　４．３ 課題等への対応状況 4-30
　　４．３．１　各論
　　４．３．２　まとめ

５．連携推進のための検討 5-1
　５．１ 放課後子ども教室と地域ＳＣの連携の現状 5-1
　　５．１．１　参加・協力状況
　　５．１．２　連携における地域ＳＣの役割
　５．２ 放課後子ども教室と地域ＳＣ連携の効果 5-4
　　５．２．１　市区町村行政の立場から
　　５．２．２　放課後子ども教室を運営する地域組織の立場から
　　５．２．３　地域ＳＣの立場から
　５．３ 放課後子ども教室と地域ＳＣ連携上の課題の解決にむけて 5-7
　　５．３．１　連携上の課題
　　５．３．２　課題の解決のための方策（案）

６．まとめ 6-1
　６．１ 連携のすすめ 6-1
　６．２ 地域からの要望 6-8

（参考） ……参考-1-1

１．アンケート調査について……参考-1-1
（１）アンケート調査先
（２）アンケート調査票

２．アドバイザー会議記録……参考-2-1

３．啓発資料（案）

１．調査の概要

１．１　調査の目的

１．１．１　調査の背景

近年、子どもの体力や運動能力の著しい低下が認められる中、遊びの中で十分に体を動かす機会をつくり、体力の向上を図ることの機会創出が求められている。放課後子ども教室にもこのような役割が期待されるところであるが、子ども達が楽しく継続して取り組むことを支援できるスポーツ指導者の不在（欠乏）により、スポーツ系のプログラムの充実を図れない地域も少なくないものと思われる。

さらに、放課後子ども教室の現場においては、これを支えるメンバーの高齢化による体力的な課題、プログラムの偏りなどの問題が起きている地域もあり、多世代の地域住民の参加が求められている。

一方、学校施設の開放事業は、多くのスポーツ団体が利用している。このような地域スポーツ団体には、スポーツやレクリエーションの専門の指導者や、多くの大人の参加者がおり、放課後子ども教室におけるプログラム実施を支援する人材を多く有している

特に、文部科学省がスポーツ振興基本計画に基づき推進する総合型地域スポーツクラブ（以下、地域ＳＣ）は、全国で894市町村（H19.7.1現在文部科学省調査）に設立されており、子どもの健康・体力づくり、多世代の交流など様々な活動を展開している。これらの活動は放課後子ども教室の主旨と合致するところが多い。

しかし、放課後子ども教室の実施地域にこのような地域スポーツ団体があっても、その連携が効果的になされている地域とそうでない地域があるものと思われる。中には、「放課後子ども教室の充実により自分たちの活動機会が減少する」「受益者負担で自主運営をしているので整合がつかない」などといった理由から、放課後子ども教室への参加に否定的な意見もあることが聞こえている。

多くの地域ＳＣは、受益者負担の原則から参加者の会費による自主財源を有し、組織の運営力なども向上していることから、これらの団体と連携することで、放課後子ども教室の現場における運営力の脆弱さなどの課題の解決も期待できる。さらに、地域ＳＣには多世代の住民が参加していることから、連携をきっかけとして地域の多世代の住民が子ども達の放課後の過ごし方に関心を持つ機会が増えることは、大きな意義を持つものと考えられる。

文部科学省においては、将来的には全国の中学校区に一つ程度を目安として地域SCが設立されることを目指していることから、今後の放課後子ども教室の充実にむけて、地域資源としての地域のスポーツ団体、特に地域ＳＣと放課後子ども教室の効果的連携を促進することの必要性は高い。

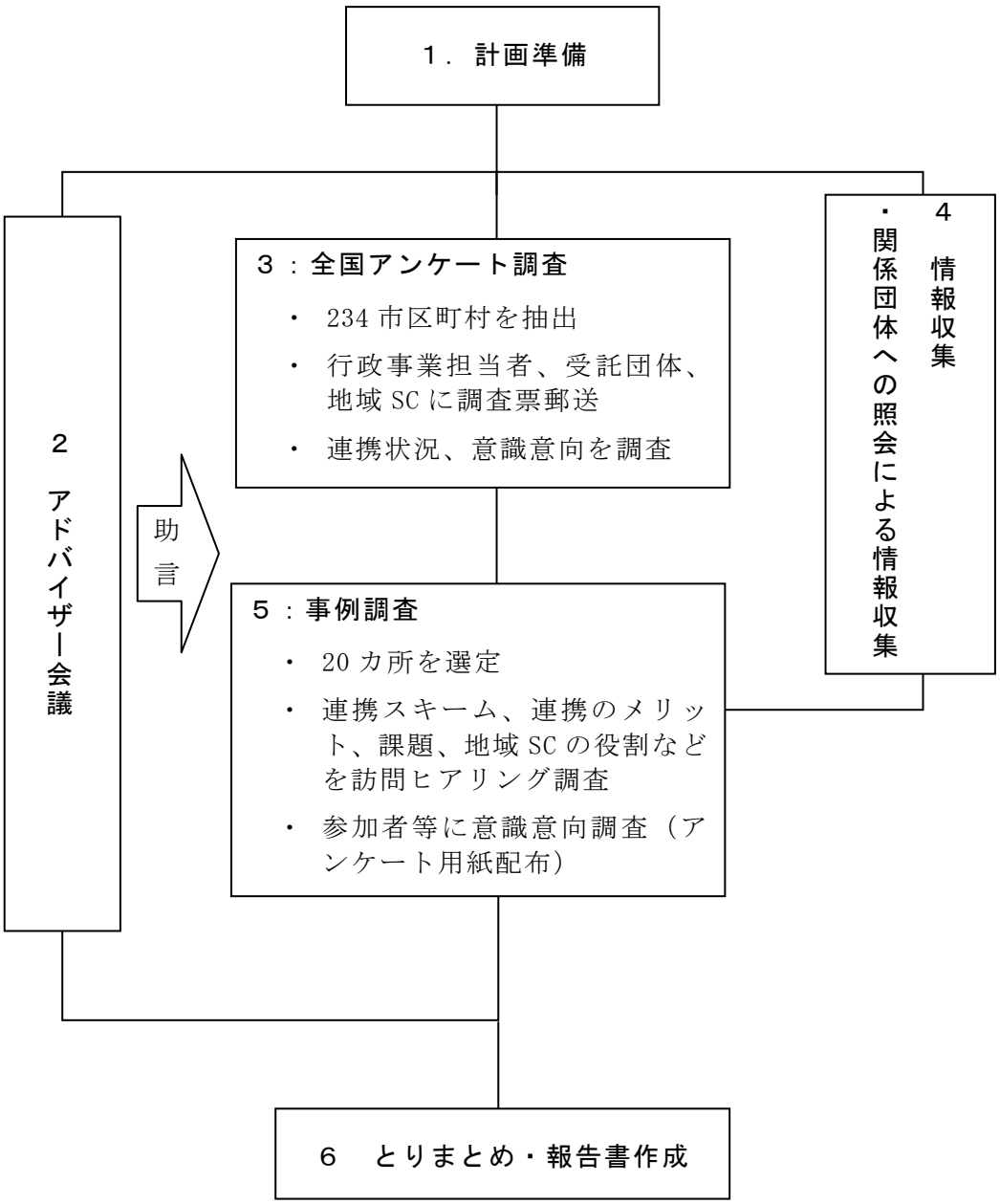
そのためには、全国の先進的事例のノウハウやその効果を明かにし、地域ＳＣに伝えていく本調査は意義のあるものと考えられる。

１．１．２　調査の目的

放課後子ども教室には、子どもの体力・健康づくりや、多世代交流などの効果も期待されているが、そのためには、体力・健康づくりに寄与するスポーツ系プログラムの充実と地域の多世代の住民の参画が図れる総合型地域スポーツクラブ（以下、地域ＳＣ）や少年団等の地域スポーツ団体との連携が有効であると考えられる。

本調査は、放課後子ども教室における地域スポーツ団体との連携を促進するため、連携方法や連携による効果について事例及び、ノウハウをとりまとめ、全国の地域スポーツ団体等に向けた啓発資料を作成することを目的とするものである。

１．２　調査フロー


１．計画準備
２　アドバイザー会議
助言
３：全国アンケート調査
・ 234 市区町村を抽出
・ 行政事業担当者、受託団体、地域 SC に調査票郵送
・ 連携状況、意識意向を調査
４　情報収集
・関係団体への照会による情報収集
５：事例調査
・ 20 カ所を選定
・ 連携スキーム、連携のメリット、課題、地域 SC の役割などを訪問ヒアリング調査
・ 参加者等に意識意向調査（アンケート用紙配布）
６　とりまとめ・報告書作成

２．アンケート調査（全国アンケート調査）

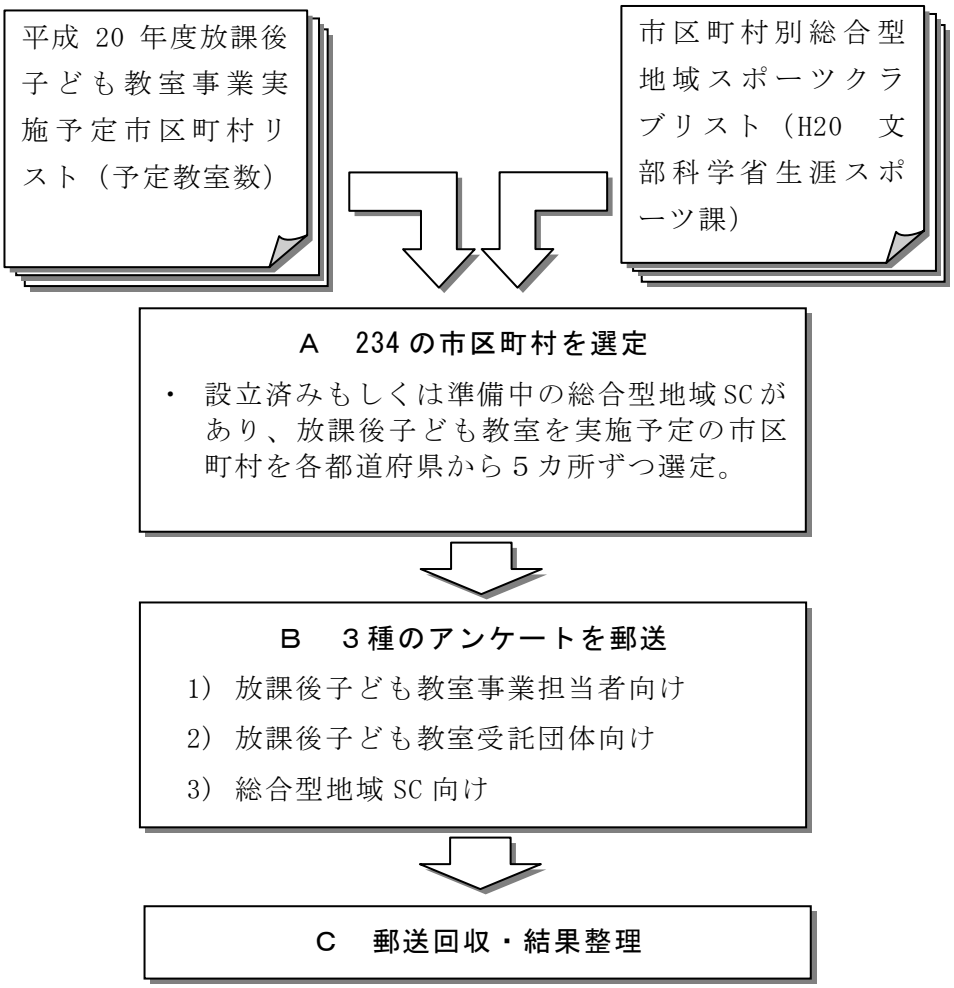
２．１　調査の概要

２．１．１　調査の目的

地域ＳＣの設立済み（設立準備中を含む）市町村のうち放課後子ども教室を実施している地域を対象に、行政（市区町村）の放課後子ども教室事業担当者、放課後子ども教室受託団体（地域に事業を受託している運営組織がある場合）と地域ＳＣの３者にアンケート調査を実施し、連携状況、効果、課題等について把握することを目的として実施した。

２．１．２　調査方法

（１）アンケートの流れ



（２）対象選定の考え方

①市区町村の選定

「H20年度放課後子ども教室事業内定自治体リスト」と「総合型地域スポーツクラブ（以下、地域ＳＣ）のリスト（設立済み及び設立準備中)」(両資料と文部科学省提供）を照合し、「放課後子ども教室が実施されており、かつ地域ＳＣがある市区町村」から、都道府県ごとに市区町村規模等を考慮しながら４～５箇所を抽出した。

②放課後子ども教室と総合型地域ＳＣの選定

市区町村の「放課後子ども教室推進事業担当者」と「総合型地域ＳＣ担当者」に以下のとおり、団体の選定を依頼した。

放課後子ども教室推進事業担当者と総合型地域ＳＣご担当者と協議の上、以下の手順で調査対象団体をお選びください。

１）貴自治体内で、総合型地域ＳＣが近くで活動している放課後子ども教室と、その総合型地域ＳＣを調査対象としてお選びください。

２）上記１）の条件に該当する団体が複数有る場合には、ご存じの範囲で、放課後子ども教室と地域ＳＣの連携がとれていると思われる団体をお選びください。

３）放課後子ども教室が実施されている学校や施設と地域ＳＣの活動地域が離れている場合には、できるだけ活動地域に近い放課後子ども教室をお選びください。

４）放課後子ども教室と地域ＳＣが距離的にも離れており、特に連携等もとられていない場合には、任意の放課後子ども教室と地域ＳＣをそれぞれお選びください。

２．２　調査結果

２．２．１　回答回収状況

全国２３４の市区町村にアンケートを郵送配布したところ、以下の通り回答を得た。

	配布数	該当無し 市区町村数	実配布数	回答数	回収率 （%）
市区町村担当者	２３４	４	２３０	１３４	58.3
受託団体	－	８３	１５１	５３	35.1
総合型地域ＳＣ	－	7	２２７	１３１	57.8

「該当無し」とは、以下の場合を示している。

・市区町村：今年度、放課後子ども教室の実施を予定していたが、今年度中に開始できなかったと連絡がきた市区町村

・受託団体：教室の運営組織として、自立的に活動している組織がないなどで、アンケートに回答する主体がないと市区町村から連絡がきたもの

・地域ＳＣ：総合型地域ＳＣが実質的に活動をしていない場合等で当該自治体の事業担当者が回答依頼の要はないとの判断をして連絡がきたもの

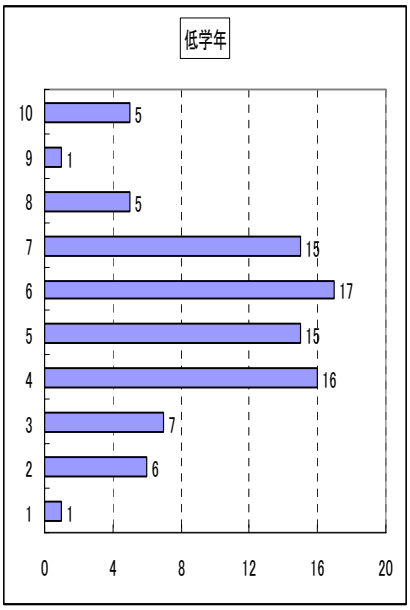
２．２．２　放課後子ども教室におけるスポーツプログラムの実施状況等

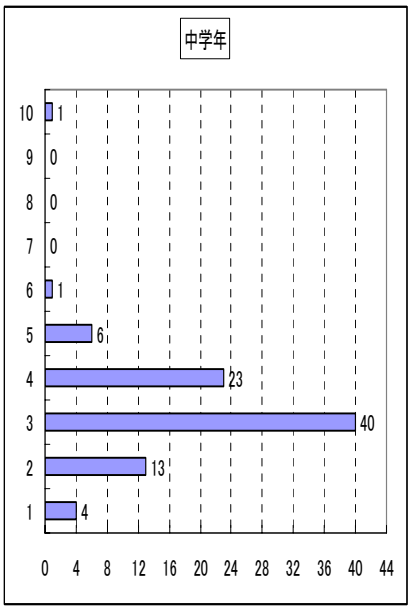
（１）市区町村の教育委員会が主に運営している場合

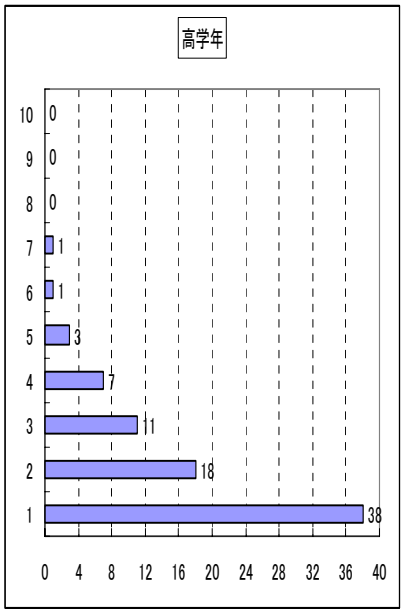
- 参加者は低学年が多く、高学年は１～２割程度の教室が多い
- ７割以上が平日の放課後に教室を実施しており、２割強が週末に実施している。
- ７割以上の教室でスポーツプログラムを実施している。
- スポーツプログラムには、「コミュニケーションの向上」や「体力づくり」「礼儀やルールを守ることを覚える」ことを期待している。
- 実際に「コミュニケーションの向上」の効果があると感じている。
- 実施に際しては、適当な指導者の不足と、怪我等への安全管理が課題であると考えている。

①参加している子ども達の学年構成を教えてください。全体を１０としておおよその割合でお答えください。

・低学年が４～７割で、中学年が２～３割、高学年は１～２割程度の教室が多かった。

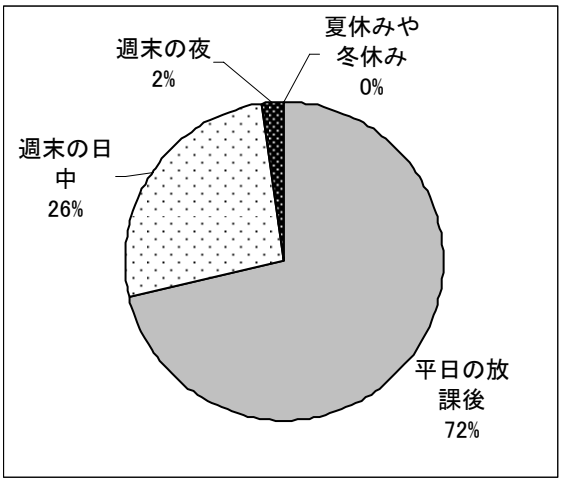






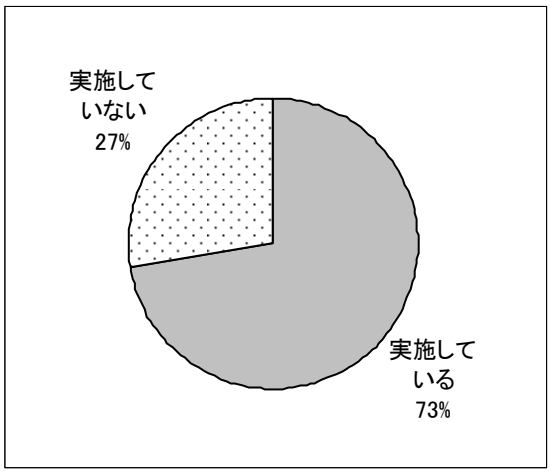
②放課後子ども教室のプログラムは、主にいつ実施していますか。

・　７２％が、平日の放課後に実施していた
・　週末（土、日）の日中に実施している教室も２６％あった。



③放課後子ども教室では、スポーツのプログラムを実施していますか？　実施しているのは、どんなスポーツですか？

・７３％の教室事業でスポーツプログラムを実施していた。
・ドッジボールや、バドミントン、トッジビーなどを実施している教室が多かった。

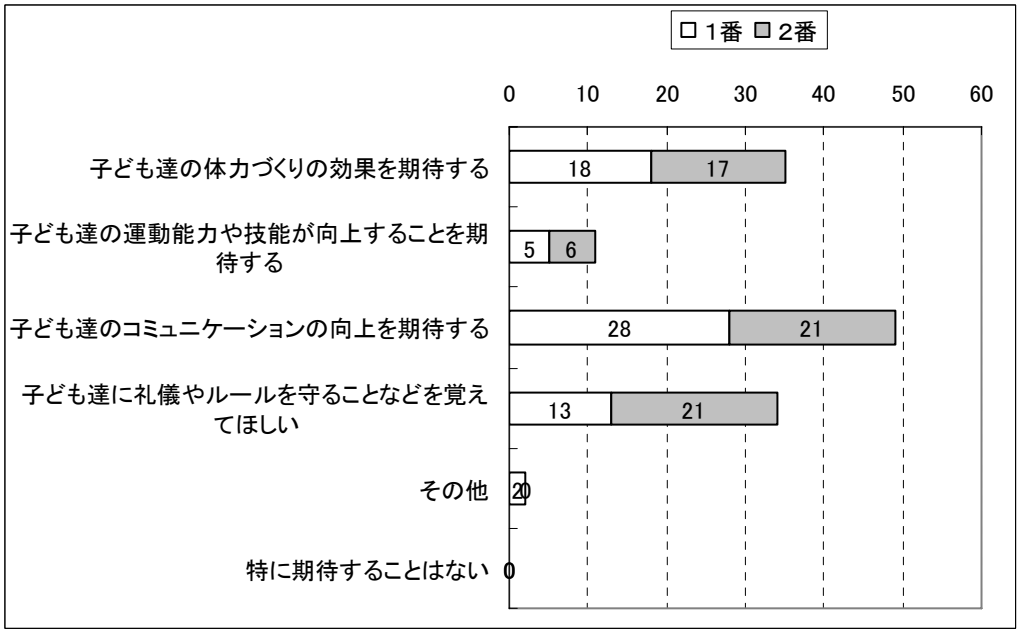


（n=64）

ドッジボール	17
バドミントン	14
ドッチビー	11
グラウンドゴルフ	10
卓球	8
サッカー	8
ニュースポーツ	5
体操	4
キンボール	4
なわとび	4
ボール遊び	4

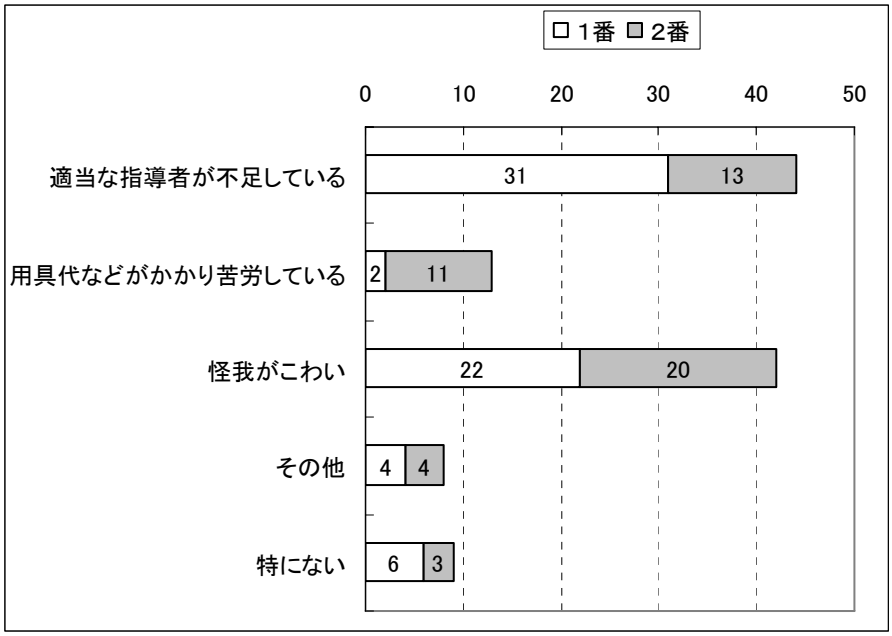
④放課後子ども教室のスポーツプログラムに期待することはありますか？

・子ども達のコミュニケーションの向上を期待する意見が最も多かった
・また、子ども達の体力づくりや、礼儀やルールを守ることを覚えてほしいことを期待する意見も多かった



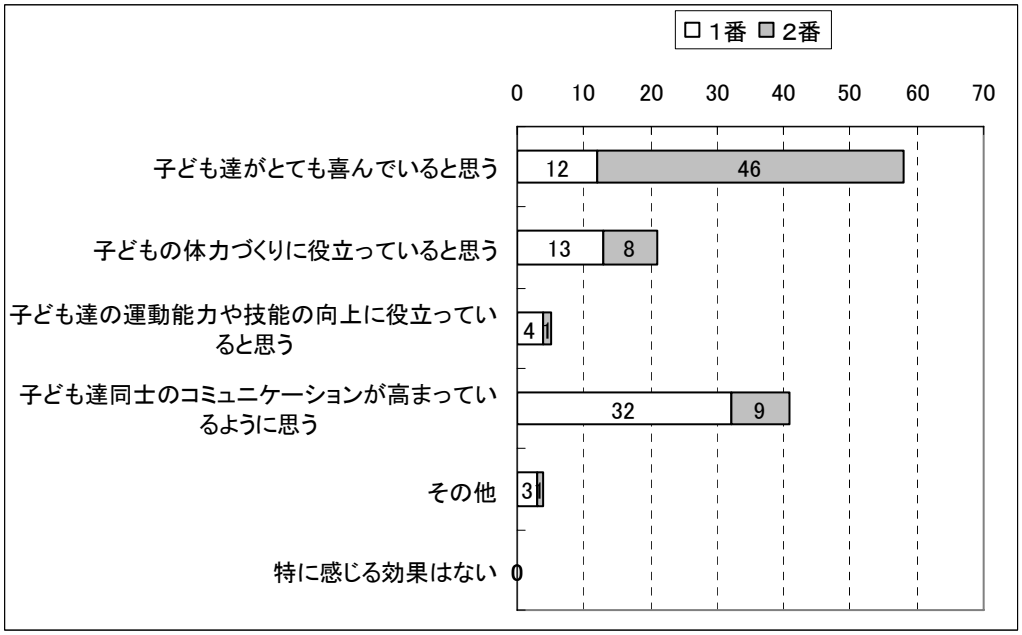
⑤スポーツのプログラムを実施する中で、何か課題を感じていますか？

・適当な指導者の不足が課題とする意見が多かった
・怪我がこわいという意見も多かった



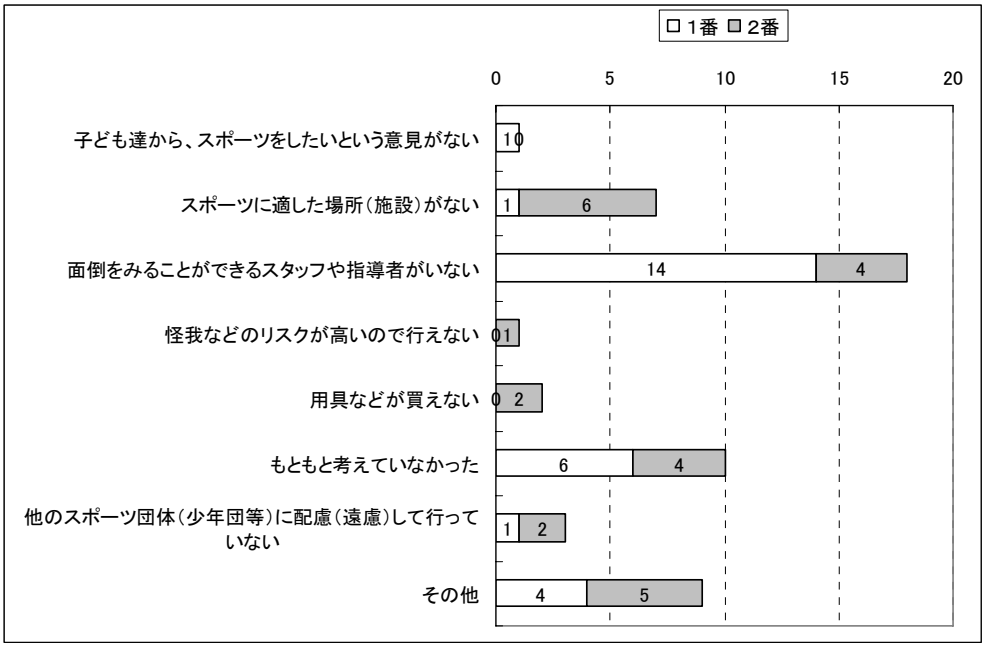
⑥実施している効果は感じますか？

・「コミュニケーションが高まっている」とする意見が多かった
・「子ども達がとても喜んでいる」とする意見も多かった



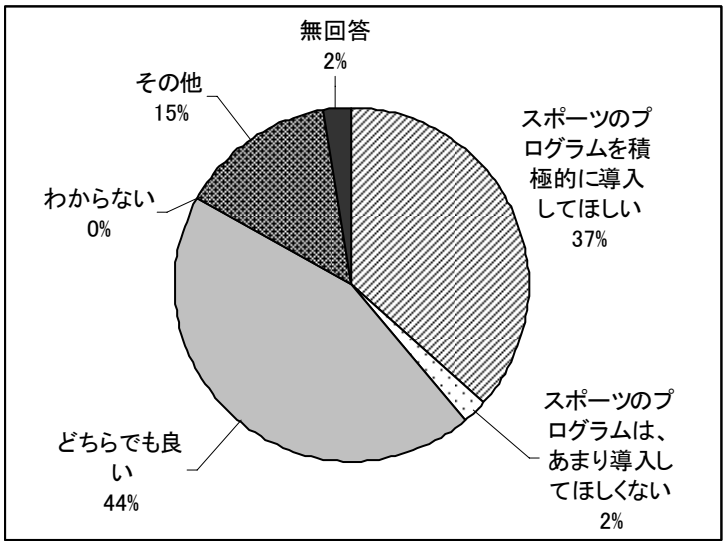
⑦スポーツプログラムを実施していない教室の「実施していない理由」は何ですか？

・一番の課題は、「面倒をみることができるスタッフや指導者が不足している」ことであった



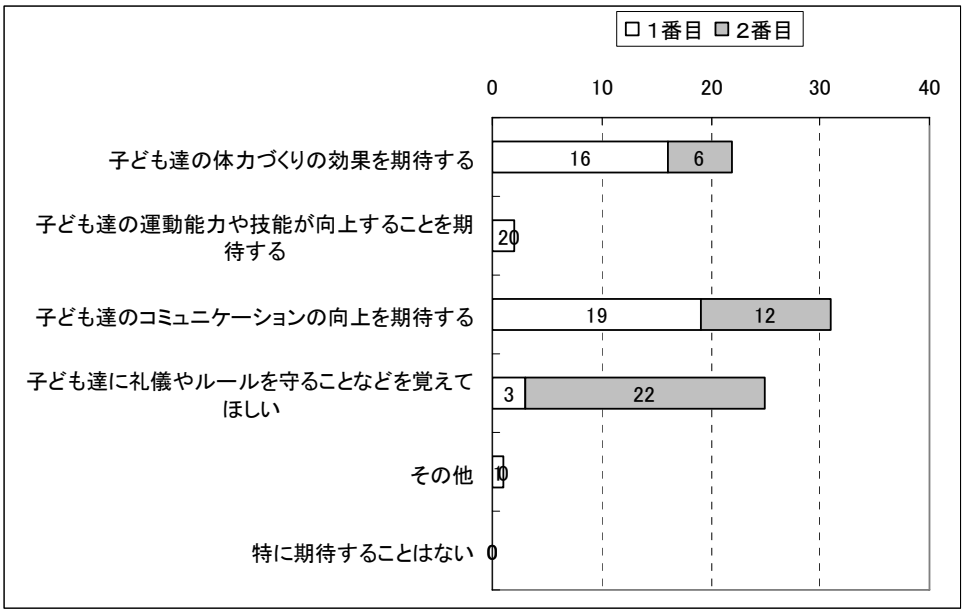
⑧運営を委託している教室でスポーツプログラムを実施してほしいと思いますか？

・導入を望む意見が３７％であった。
・どちらでも良いが４４％であった。



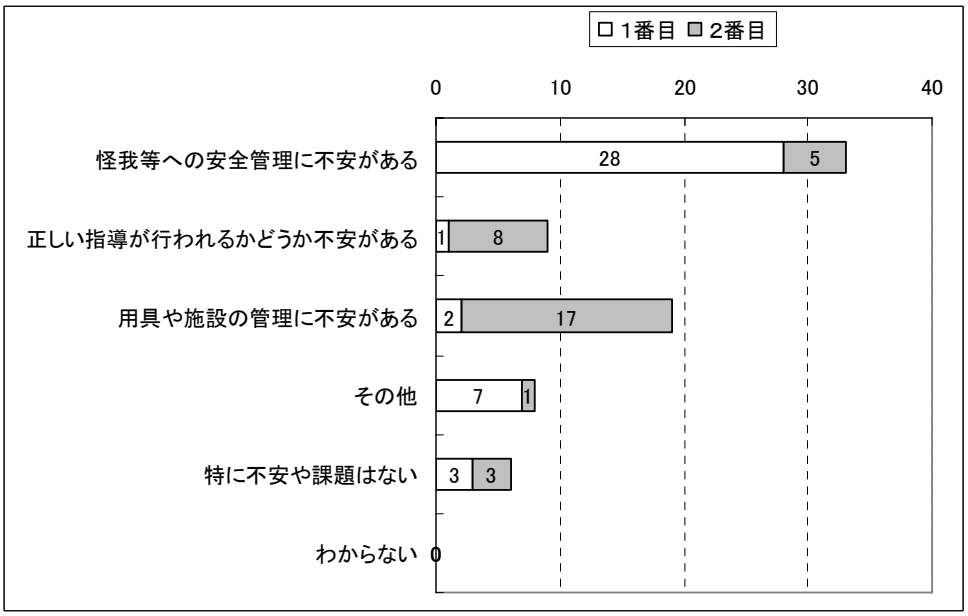
⑨委託団体が行うスポーツプログラムに期待することはありますか？

・「子ども達のコミュニケーションの向上を期待する」意見が最も多かった



⑩放課後子ども教室においてスポーツプログラムを実施する上で課題だと思うことはありますか？

・怪我等への安全管理が課題という意見が多かった

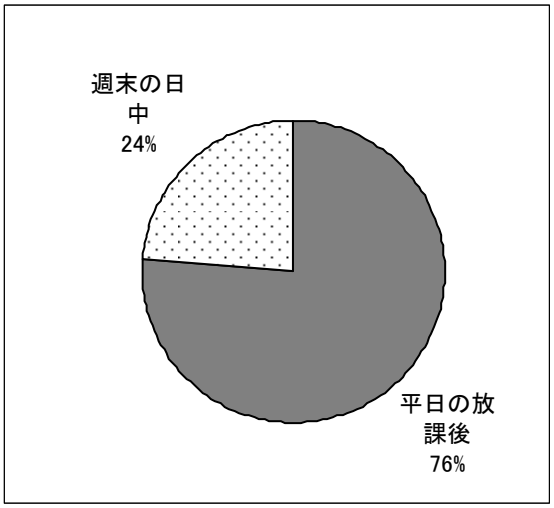


（２）放課後子ども教室を地元団体等に委託している場合

- ７６％の地域が、平日の放課後に実施していた。
- ７３％の地域が、スポーツプログラムを実施していた。
- スポーツプログラム導入の効果は、子ども達が喜んでいることや、子ども同士のコミュニケーションが高まっていることと感じている。
- スポーツプログラム実施上の課題は、「怪我がこわいこと」や「指導者が不足していること」だと感じている
- スポーツプログラムを実施していない理由は、もともとスポーツ以外のプログラムで考えていたり、指導をできるスタッフが確保できなかったりすることであった。

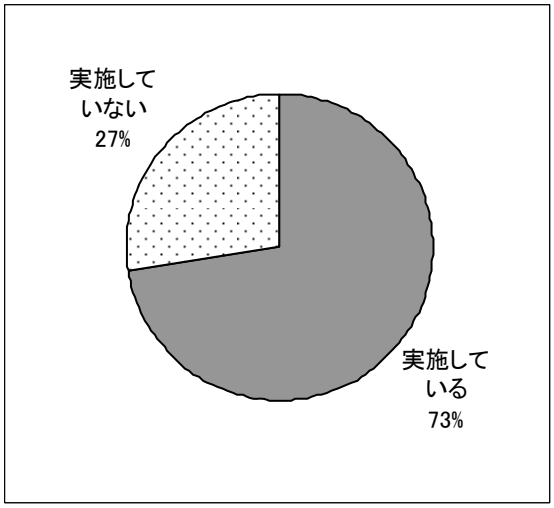
①放課後子ども教室のプログラムは、主にいつ実施していますか。（１つ選択）

・平日の放課後実施している地域は７６％であった。



②放課後子ども教室では、スポーツのプログラムを実施していますか？　どんなスポーツですか？

・７３％がスポーツプログラムを実施している
・ドッジボールやバトミントン、サッカー

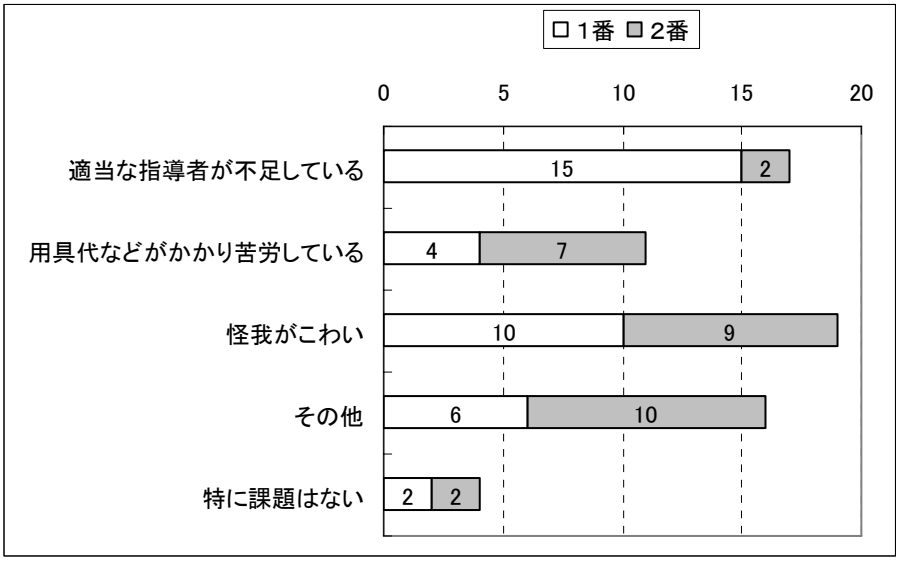


(n=117)

ドッジボール	8
卓球	8
バドミントン	7
サッカー	6
ドッチビー	5
グラウンドゴルフ	5
なわとび	4
バスケットボール	4
ソフトバレー	4

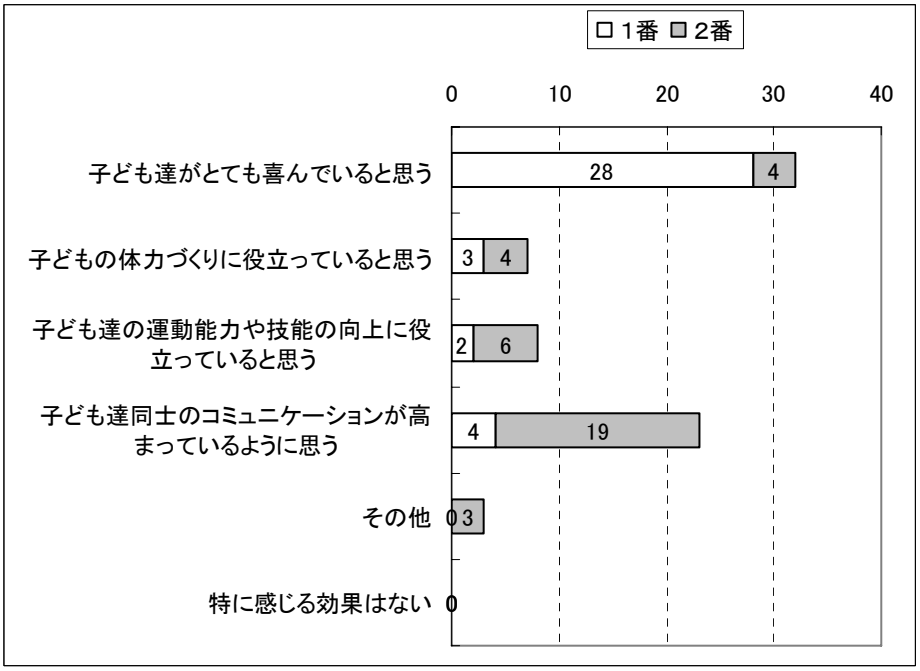
③スポーツのプログラムを実施する中で、何か課題を感じていますか？

・課題は、「怪我がこわいこと」や「指導者が不足していること」だと感じている、



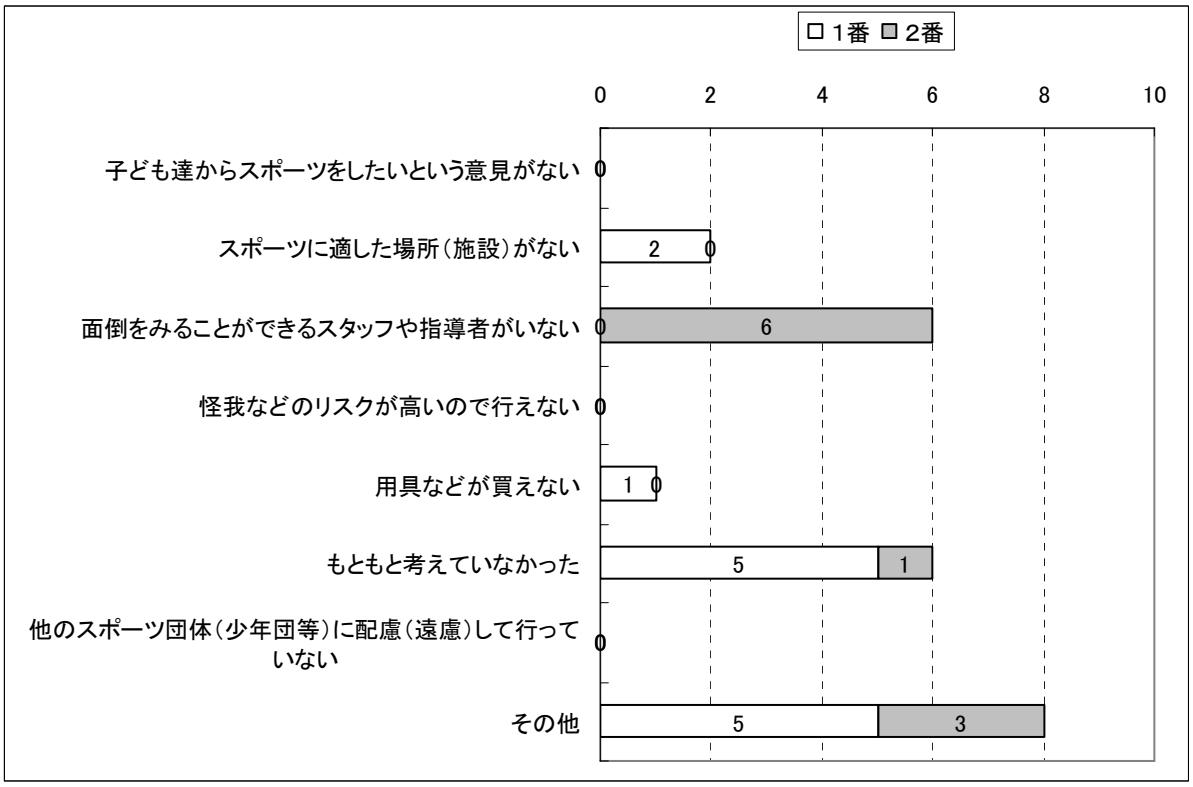
④実施している効果は感じますか？

・「子ども達が喜んでいる」が多く、ついで「コミュニケーションが高まっている」を効果として考えている



⑤実施していない理由は何ですか？

・スポーツ以外のプログラムを予定していたり、面倒をみることができるスタッフや指導者がいないことが主な理由である。



２．２．３　放課後子ども教室と総合型地域スポーツクラブの関係

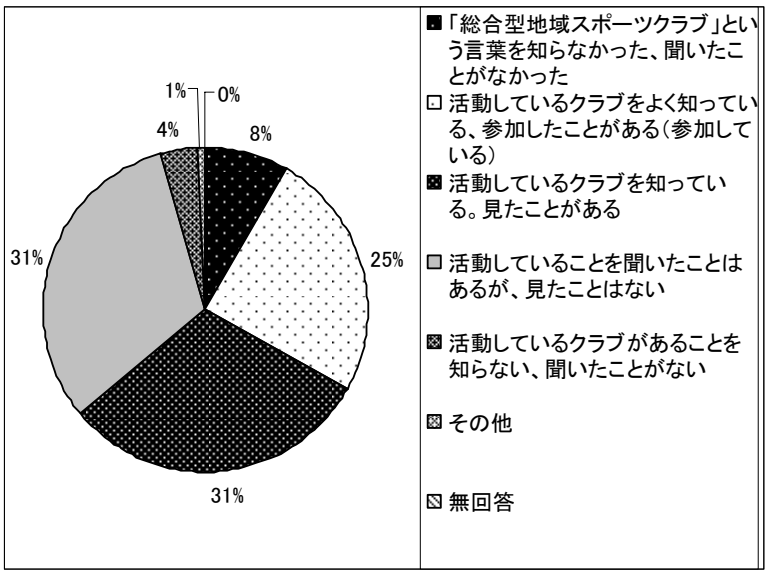
（１）市区町村の放課後子ども教室事業担当者の認識

- 「総合型地域スポーツクラブ」は、高い割合（８７％）で認知されていた。
- しかし、放課後子ども教室の実施組織として、あまり認識されていなかった（呼びかけをしたのは２１％だけ）
- 現時点では、連携を期待する割合が高まっている。（６５％が関与を期待）

①貴自治体内で「総合型地域スポーツクラブ」が活動している（もしくは準備中である）ことをご存じですか？

・ 放課後子ども教室事業担当者の８７％が、総合型地域ＳＣを知っていて、５６％は、実際に見たり参加したりしたことがあった。

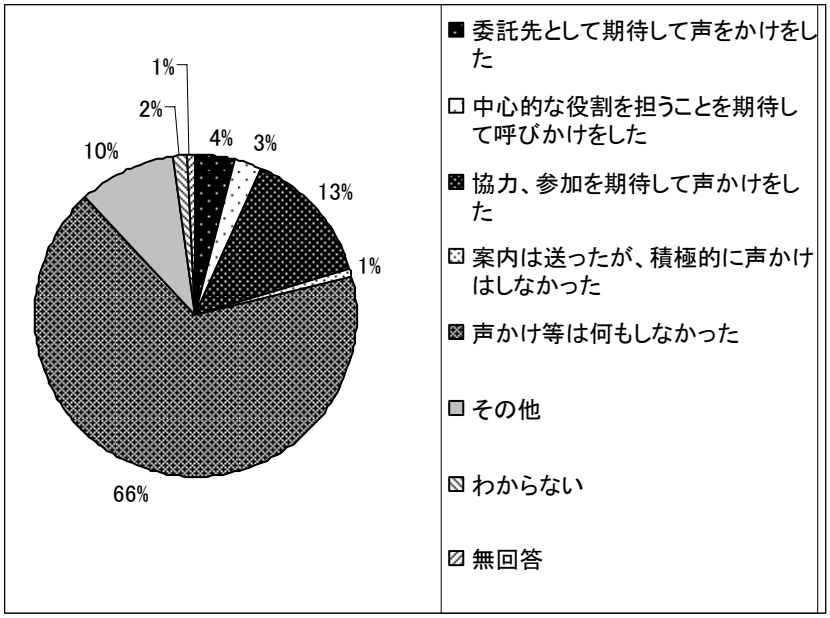
・ 事業担当者のうちの８％が、「総合型地域ＳＣ」という言葉を知らず、管内で活動していることを知らなかった方をあわせると１２％が「総合型地域ＳＣ」を認知していなかった。



②放課後子ども教室の実施に関し、総合型地域スポーツクラブに事業の紹介や協力を呼びかけたことはありますか？

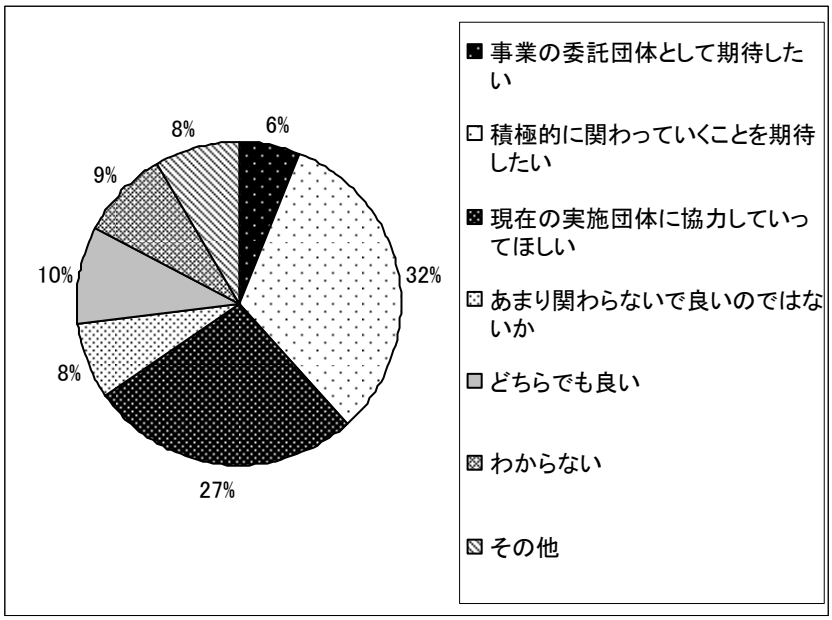
・ 何らかの案内をした方は２１％であった。

・ 特に声かけなどをしなかった方が６６％であった。



③総合型地域スポーツクラブが放課後子ども教室に、関わることについて、どう思いますか？

・ 総合型地域ＳＣの積極的な関与を期待する方は３８％であり、協力してほしいを含めると６５％となった。
・ どちらでも良い、関わらない方が良いという方は、あわせて１８％であった。



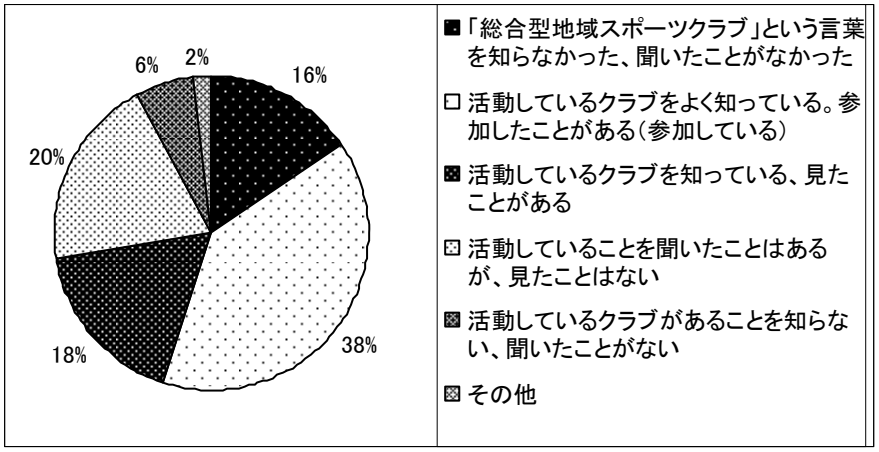
（２）受託団体（地域の運営団体）の認識

- 「総合型地域スポーツクラブ」は、高い割合（７６％）で認知されていた。
- 「総合型地域ＳＣ」は、そのほかのスポーツ団体と比べると、放課後子ども教室に協力的であると考えられている。
- 総合型地域ＳＣが連携することで、「スポーツプログラムを実施しやすくなる」ことや「スタッフの確保に役立つ」と考えられている。
- 総合型地域ＳＣが関与すると、「関係する組織や活動の種類が増えることでの各種調整・準備が大変になる」ことや、「事業主旨の整合への不安」などを懸念する意見がある。

①あなたのいる地域で「総合型地域スポーツクラブ」が活動している（もしくは準備中である）ことをご存じですか？　（１つ選択）

・ 放課後子ども教室受託団体の７６％が、総合型地域ＳＣを知っていて、５６％は、実際に見たり参加したりしたことがあった。

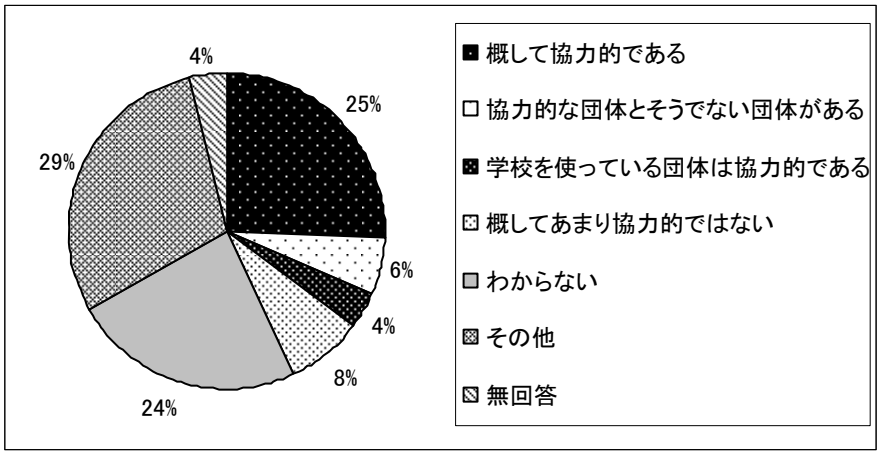
・ 受託団体のうちの１６％が、「総合型地域ＳＣ」という言葉を知らず、地域で活動していることを知らなかった方をあわせると２２％が「総合型地域ＳＣ」を認知していなかった。

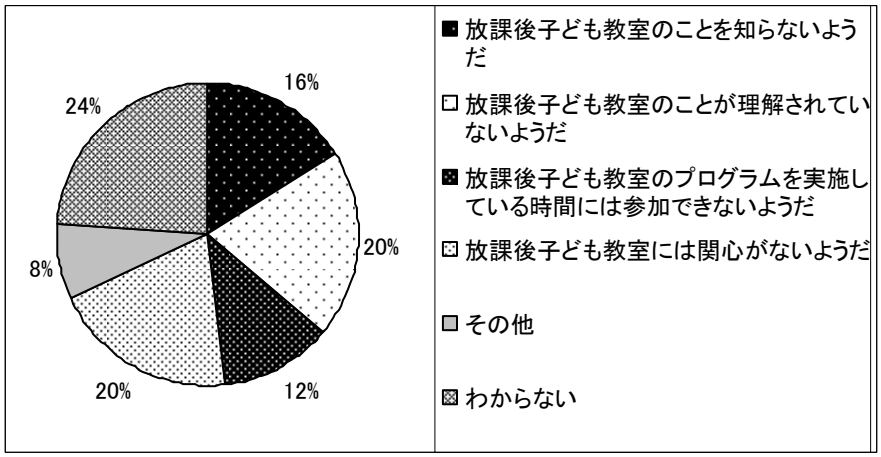


②総合型地域スポーツクラブ以外の地域のスポーツ団体（少年団や大人のスポーツサークルなど）は、放課後子ども教室に協力的ですか？　「協力的でない」団体が協力的でない理由は？

・ 地域のスポーツ団体が放課後子ども教室に協力的である、と考えている受託団体は２９％であった。

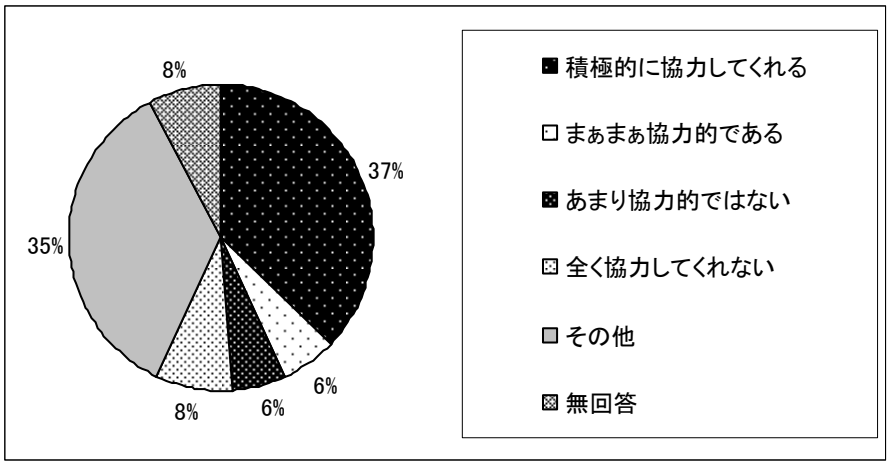
・ 協力的でない理由は、放課後子ども教室の情報が不足していることや、関心を持っていないことなどを原因として考えられている。

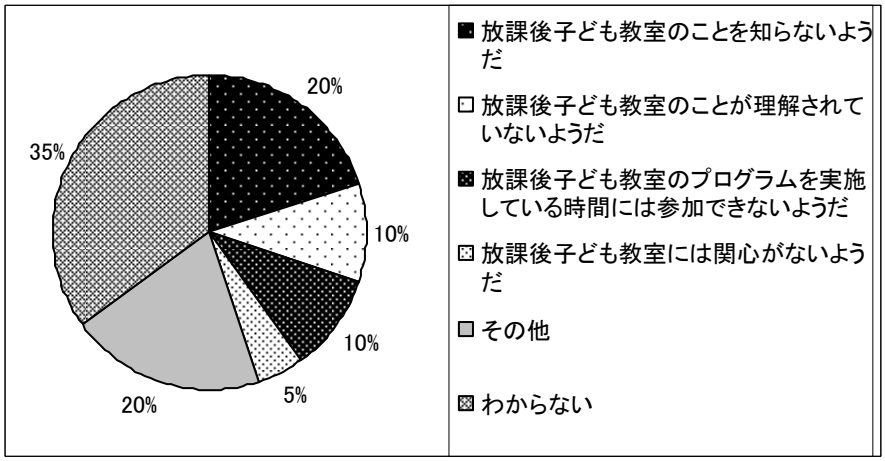




③あなたの地域で活動している総合型地域スポーツクラブは、放課後子ども教室に協力的ですか？　「協力的でない」団体が協力的でない理由は？

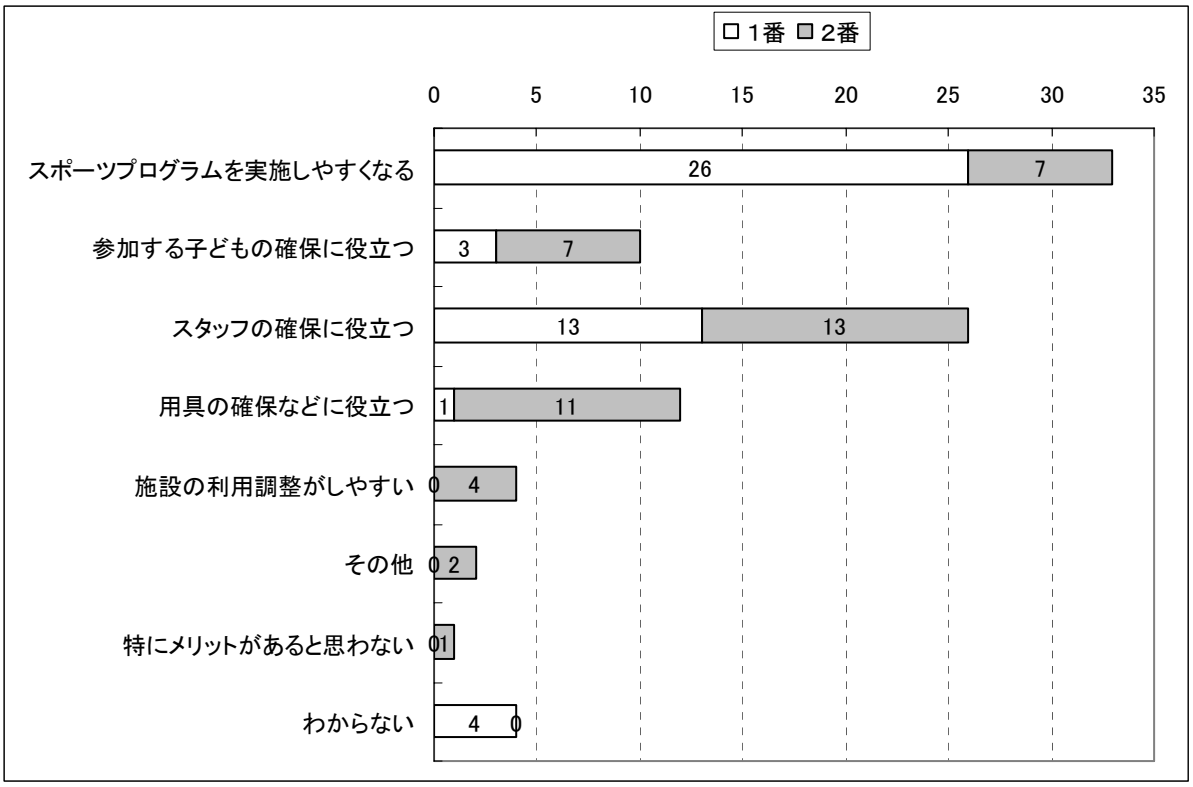
- 総合型地域スポーツクラブは放課後子ども教室に協力的であると考えている受託団体は４３％であった。
- 協力的でないと考えている受託団体は１４％であった。
- 協力的でない理由は、放課後子ども教室の情報が不足していることや、関心を持っていないことなどを原因として考えられている





④放課後子ども教室の活動に、総合型地域スポーツクラブが協力し、スタッフや指導者が参加することに、どのようなメリットがあると思いますか？

・ 総合型地域ＳＣが加わることのメリットとして、スポーツプログラムを実施しやすくなることがあげられた
・ また、スタッフの確保に役立つという意見も多かった。



⑤放課後子ども教室の活動に、総合型地域スポーツクラブが協力し、スタッフや指導者が参加することに、どのようなデメリットがあると思いますか？

○関係する組織や活動の種類が増えることでの各種調整・準備が大変になること

- 現スタッフとの調整。用具代や諸経費の負担増が懸念される。
- 教室の活動時間に制限があり、不十分な活動になりそう
- 急な時間調整の対応が大変。
- 指導者との調整やプログラムづくり、運営方法の話し合いに時間がとられる
- スタッフとの調整や打合せに時間を取られそうだ／参加数が多いので、子どもが満足する活動になるのか
- ボランティアには良いかもしれないが謝金を伴うスタッフへの支払いがややこしくなる
- 子どもたちが慣れ親しんでいる、今までの指導者との連絡調整がうまくいくかどうかが不安
- 場所がない
- 分散型となる

○事業主旨の整合への不安

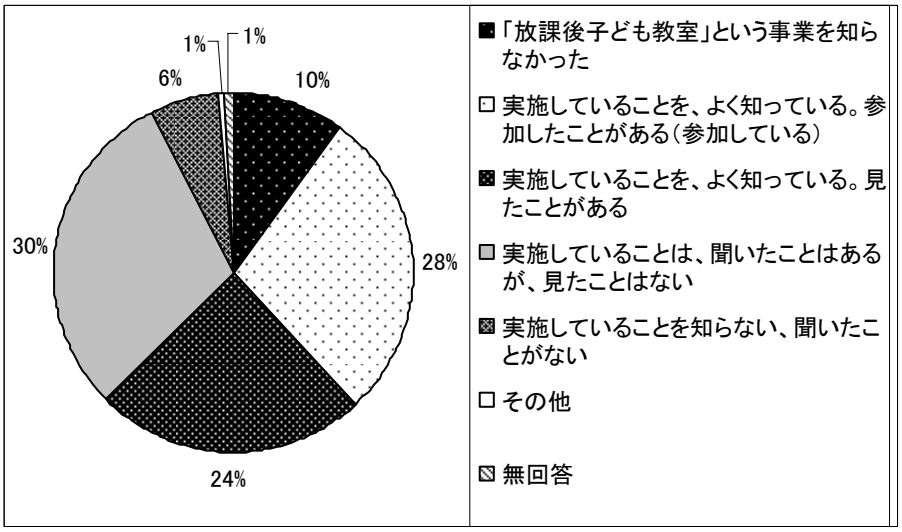
- 総合型地域ＳＣというものが良くわからない
- 総合型ＳＣの活動がよくわからない。全学年に対応できるか、費用等不明
- スポーツ少年団やクラブなどの内容の重複
- 子供会活動と共生できるか（子どもの取り合い）
- 教室の主旨は子ども達の中から、自然とおこる遊びを見守ること。提供するのはやや主旨に反する
- 自由に参加できるのであれば良いが、プログラムが固定化する恐れがある。
- 運動の苦手な子どもが参加しなくなるのではないか
- ルールに沿うスポーツとルールを自由に変えていく遊びとでは根本的に異なるものと考える。スポーツ指導者が入っていくと、異年齢の子ども同士の育ち合いを邪魔してしまうかと思う
- 指導が先行すると、自分達で考えなくなる事
- スナッグゴルフは新しいスポーツのため指導者がいない。参加者は多いが、全員に細かな技術の伝達が行き届かない

（３）総合型地域スポーツクラブの認識

- ８割以上のクラブが、放課後子ども教室事業を知っていた。
- 受託を含め、何らかの協力・連携をしている団体は３２％であり、協力していない団体が６１％であった。
- 参加・協力していない理由の５４％は、放課後子ども教室事業を知らないことであった。
- 参加・協力していて良かったことは、地域の諸団体や学校との連携がしやすくなったことであり、良くなかったことは「特にない」と考えているクラブが多い。
- 現在、連携しているクラブのほとんどが、受託や参加・協力関係を継続していきたいと考えていた。
- 連携していないクラブも含めて９０％が、放課後子ども教室に何らかの形で協力していくべきと考えている。

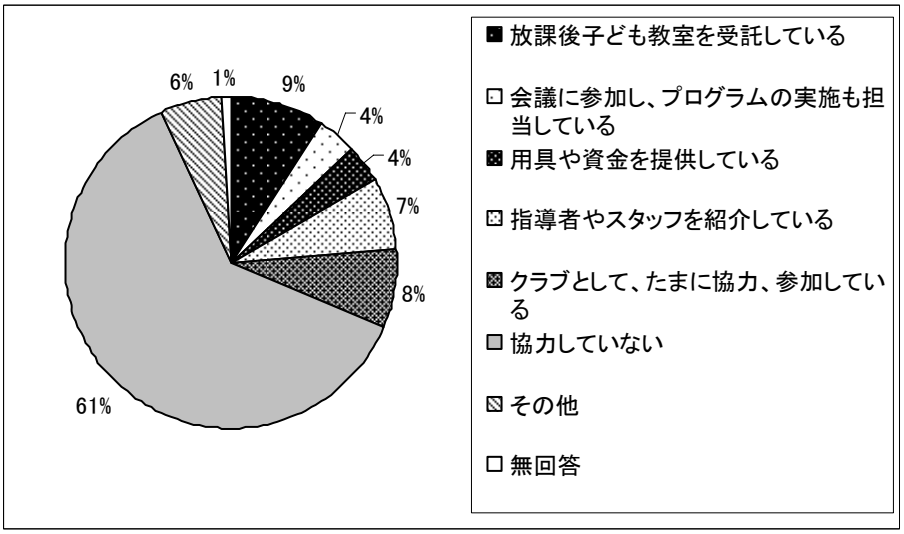
①貴市町村で、放課後子ども教室が実施されていることはご存じでしたか？

・　８２％が放課後子ども教室を知っており、５２％が参加したり見たりしたことがある。
・　１６％が、放課後子ども教室を知らなかった。



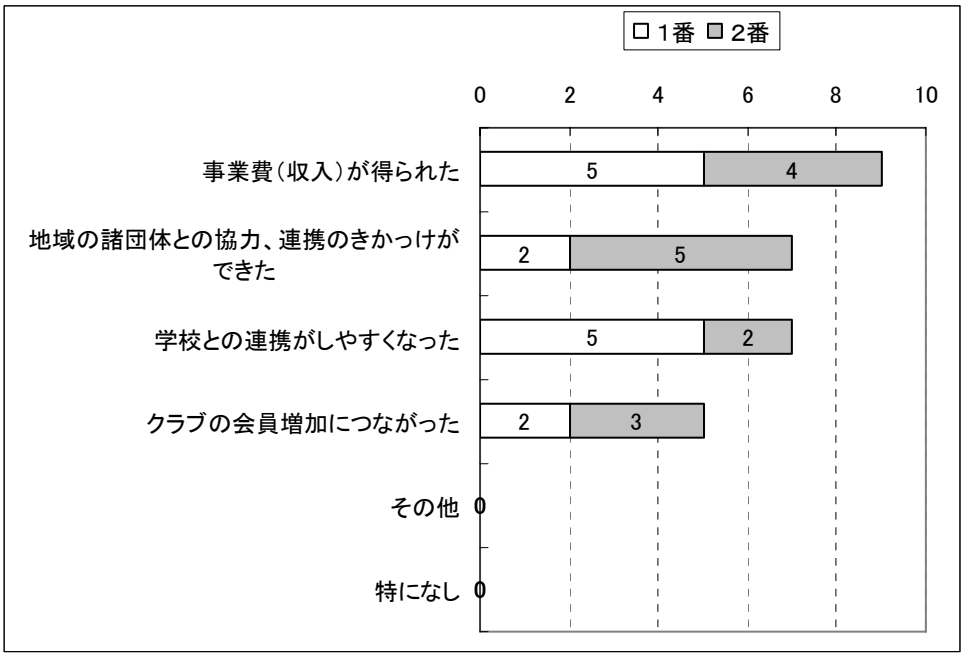
②貴クラブでは、放課後子ども教室に、参加・協力していますか？

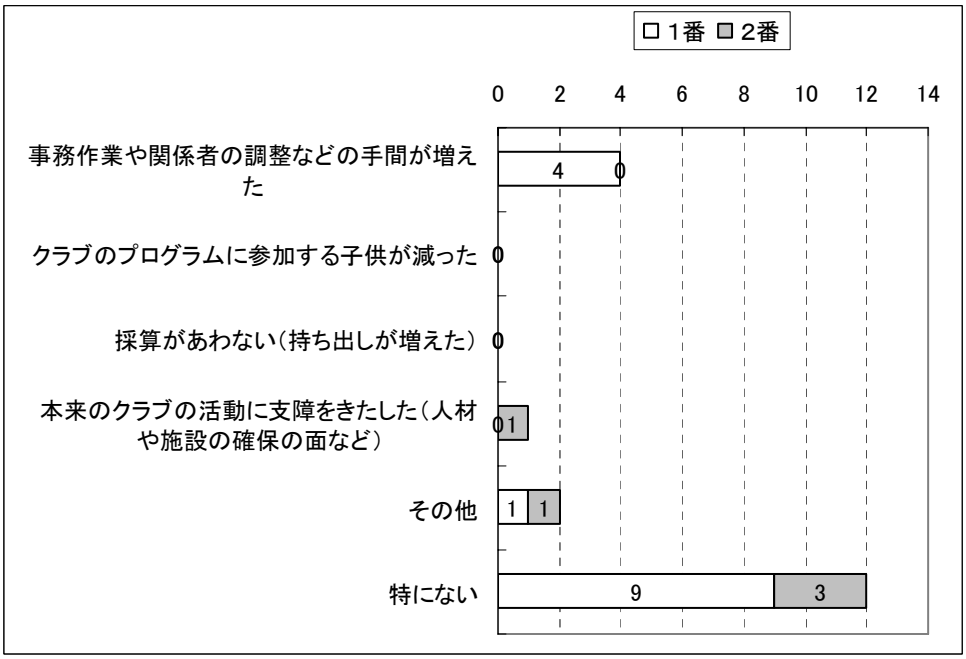
・　放課後子ども教室事業を受託している団体は９％であった。
・　何らかの協力、連携をしている団体は、２３％であった。
・　協力していない団体が６１％であった。



③ 受託団体の方は、受託して良かったと思うこと、良くなかったことは何ですか？（１番、２番を１つずつ選択）

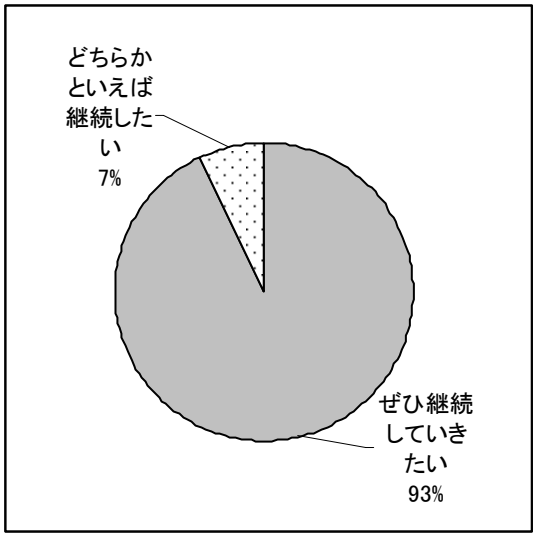
・ 受託のメリットは、「事業費が得られること」、「学校や地域の諸団体との連携がしやすくなること」であった。
・ 受託して良くなかったことは、「特にない」が多かった。





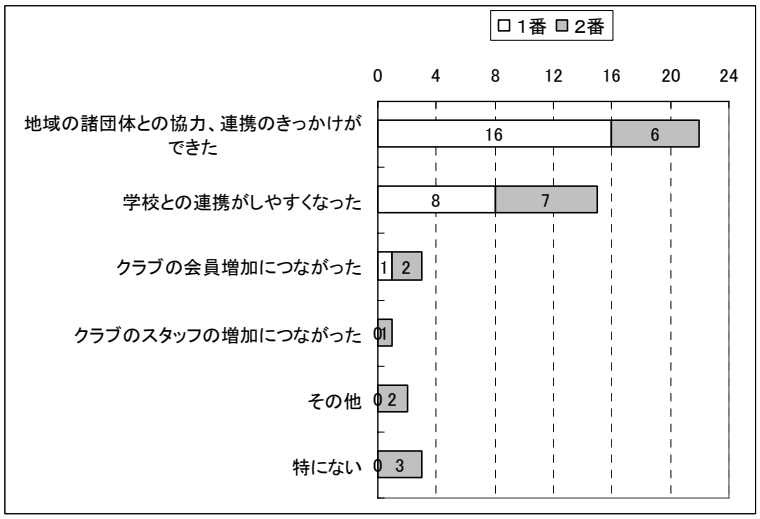
④今後も継続して受託したいと思いますか？

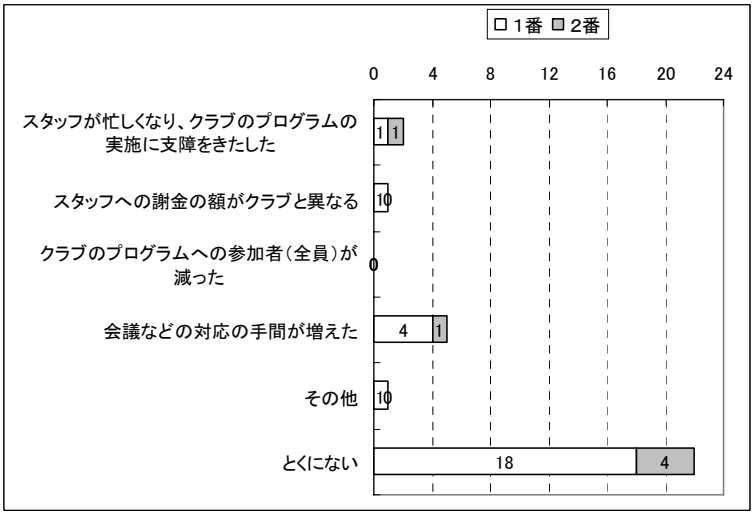
・現在受託している総合型地域ＳＣは、継続して受託したいと考えている。



⑤放課後子ども教室に協力、参加して協力・参加して良かったと思うこと、良くなかったと思うことは何ですか？

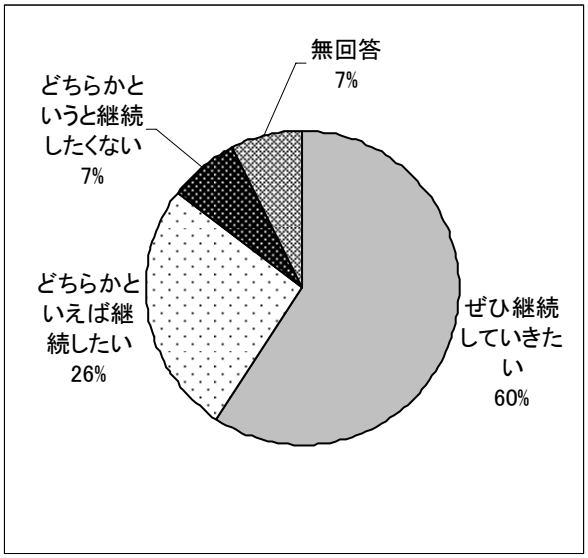
・多くのクラブが、地域の諸団体や学校との連携がしやすくなったと感じている
・ほとんどのクラブが「良くなかったこと」は特にないと感じている





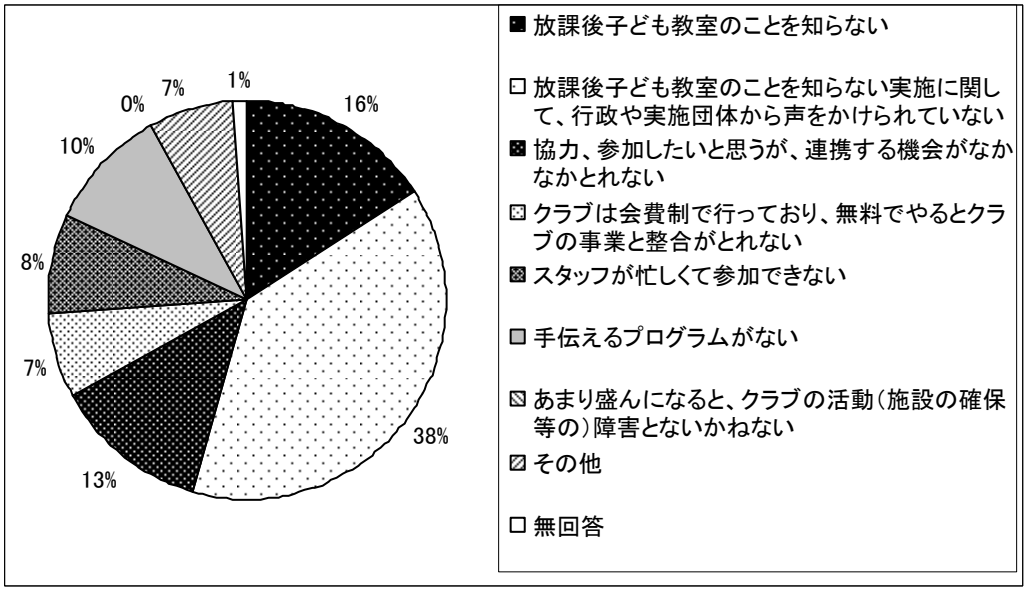
⑥今後も継続して協力・参加したいと思いますか？

・ほとんどのクラブが、今後も継続して協力していきたいと考えている。



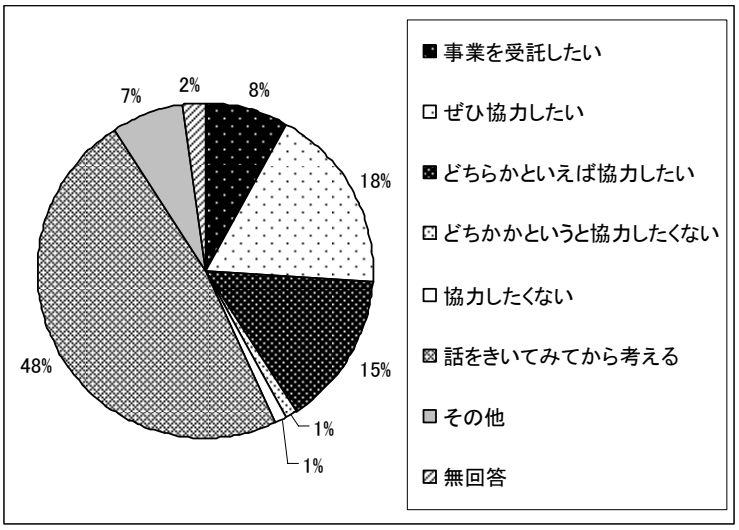
⑦参加・協力していないのはなぜですか？　（参加・協力していないクラブ）

- 放課後子ども教室の事業を知らないが５４％となった
- 連携の機会がなかなかとれないクラブが１３％であった
- クラブの会費との整合を気にしているクラブが７％あった。
- 手伝えるスタッフやプログラムがないというクラブが１５％であった。



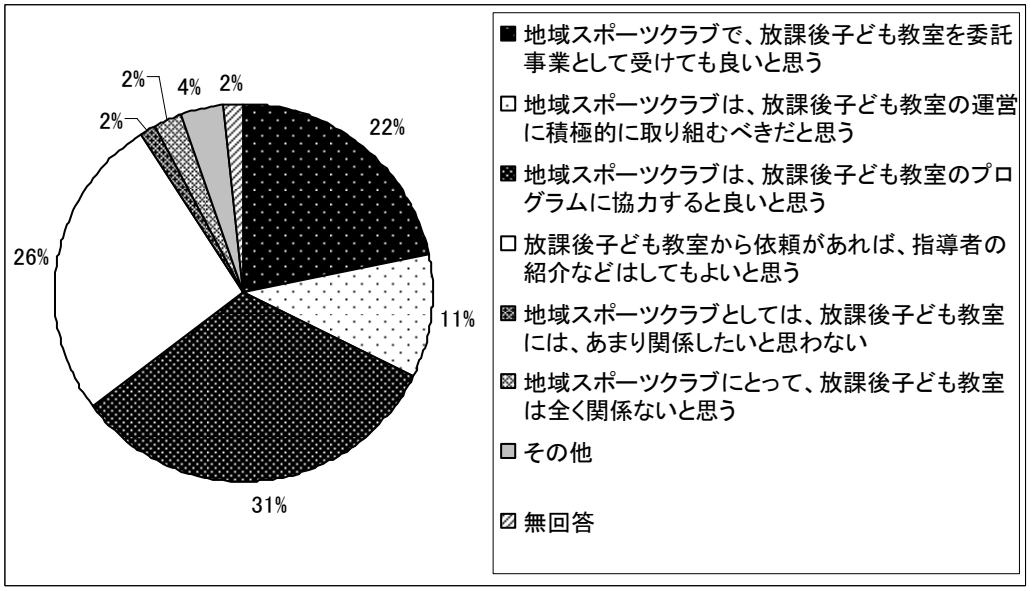
⑧現在、参加・協力していないが、今後、協力・参加したいと思いますか？

・ 事業受託や協力をしたいというクラブが４１％であった。
・ 話をきいてみてから考えるというクラブが４８％であった。
・ 協力したくないと考えるクラブは２％であった。



⑨地域スポーツクラブの立場から、放課後子ども教室について思われていることに近いものを１つだけ選んでください。

・ ３３％のクラブが、事業受託を含めて積極的に取り組むべきだと考えている。
・ 何らかの協力をしていくと良いと考えるクラブをあわせると９０％のクラブになる。
・ ４％のクラブが、放課後子ども教室事業には、関わりたくなかったり、関係ないものと考えていたりする。



２．２．４　連携上の課題の整理

（１）自由記述等で示された課題

アンケート調査の自由記述などで指摘された、放課後子ども教室と地域ＳＣの連携における課題は、以下のとおり整理される。

①放課後子ども教室の受け皿として、地域ＳＣが想定されていない

・放課後子ども教室事業の担当者が、地域ＳＣを知らなかったり、受け皿になれる組織だと思わなかったりしたために、声をかけていない。

・放課後子ども教室を企画する時に、スポーツプログラムの実施を想定していなかった。

・関連する団体が増えると調整が大変なので、声をかけることをしなかった

②それぞれの活動についての情報が伝わっていない

・放課後子ども教室実施団体にとっては、地域ＳＣの内容が良くわからない

・地域ＳＣにとっては、放課後子ども教室の事業がよくわからない

③スポーツプログラムについてのとらえ方の相違

・放課後子ども教室は子ども達の自主性などを育てることを主眼にしており、スポーツ指導者が指導をすることは望ましくない

・子どもによってスポーツの得手不得手があるので、参加しづらくなるのではないか

・１時間程度だから、スポーツの指導などできないのではないか

④地域ＳＣの事業と、放課後子ども教室の事業との整合が難しいと思われている

・総合型地域ＳＣは、中学校区に１つという目安があり、放課後子ども教室と整合がとりづらい。

・活動場所が異なるため子どもの移動が課題となる

・クラブでは有料でプログラムを実施していることから、無料のプログラムの実施は、クラブ事業との整合がとりづらい

・費用的にみあわない

・クラブの指導謝金と放課後子ども教室で決められている謝金が異なるのでやりづらい。

・当地区のＳＣの実施しているプログラムからみて、支援が受けられるとは思わない。

・スポーツ少年団やクラブなどの内容の重複。

⑤地域ＳＣの体制について

・地域ＳＣの体制が不十分である

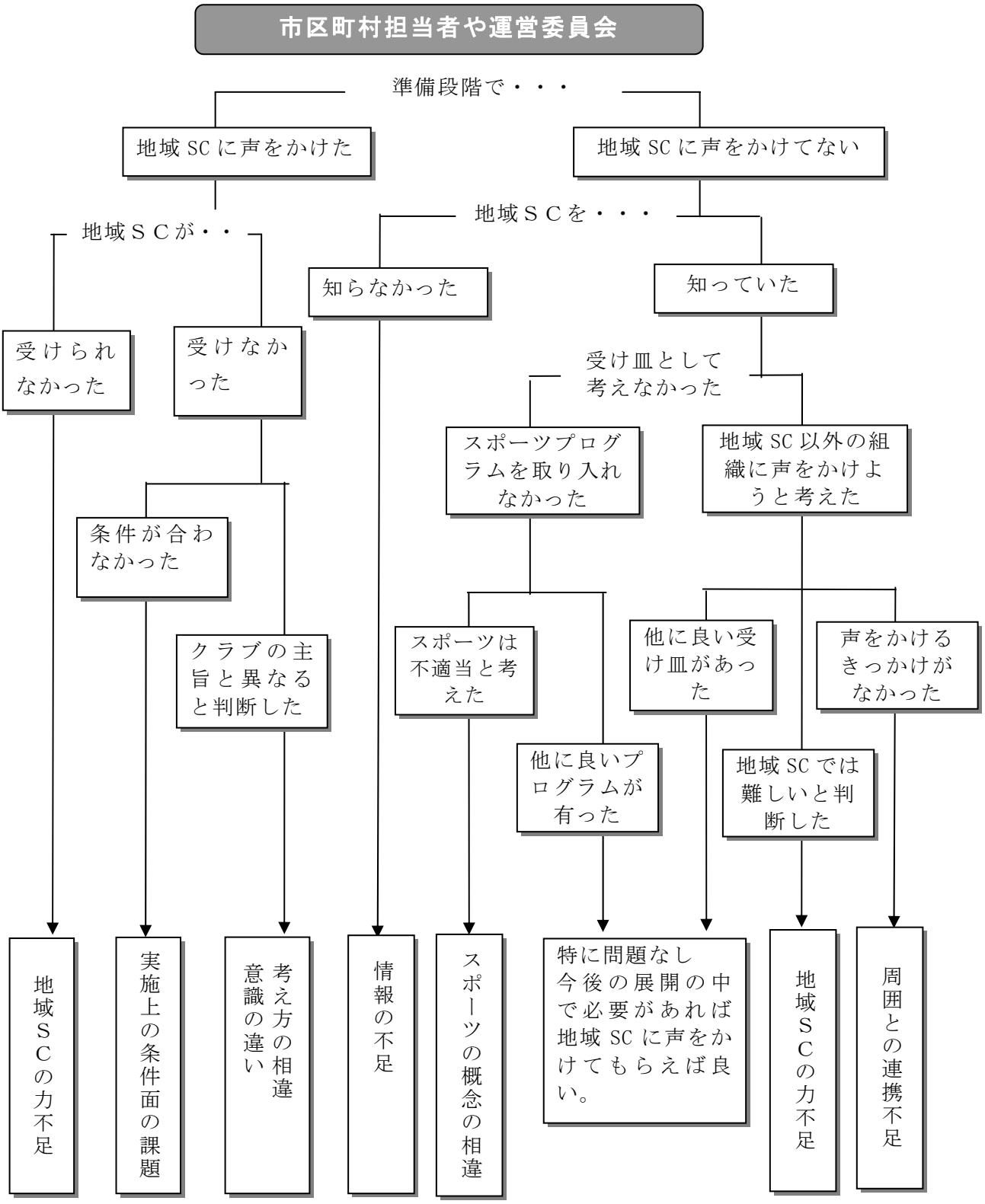
・子ども教室の受託や協力のノウハウがない

・放課後に活動できる指導者やスタッフがいない

・安全管理体制が十分にとれるかどうかわからない

（２）アンケートからみる課題の構図

行政や地域ＳＣ以外が担う運営委員会の立場から地域ＳＣの参加・協力が得られなかった要因を整理すると、以下のようになる。



①情報の不足・周囲との連携不足

放課後子ども教室事業担当者や、地域の運営委員のメンバーに地域ＳＣが認知されていない状態であり、地域ＳＣに関する啓発が不十分と考えられる。

一方で、地域ＳＣから放課後子ども教室関係者に声をかけることも可能であることから、地域ＳＣが放課後子ども教室事業を認知していないことも課題であり、地域子ども教室のさらなる啓発も望まれる。

②スポーツの概念の相違

スポーツプログラムを導入すると、指導が先行し「子ども達が自由に考える力がなくなる」とか、スポーツの不得手な子が参加しづらくなるといった意見がみられた。

競技スポーツや、学校体育としてのスポーツのイメージがあり、ニュースポーツなど、個々の技量や体力にあわせて楽しめるスポーツがあることが理解されていないことが懸念される。

周囲にいるスポーツ指導者が、そのような印象を与えている可能性もある。

③実施上の条件面の課題

謝金や場所や時間などの事業実施上の条件に、地域ＳＣの運営が合致せずに参加を見合わせるケースと考えられる。具体的には、放課後子ども教室の謝金等と地域ＳＣの指導者の通常の謝金などがあわないことなどがあげられる。

④考え方の違い・意識の違い

地域SCの活動主旨や方針として、子ども達の健全育成や体力づくりなどを掲げておらず、いくつかの種目や、高齢者の健康づくりなどを主な活動としている場合などが考えられる。

⑤クラブの力不足

クラブが設立したばかりだったり、会員も少なかったりすることから、事業を受けて運営していくだけの人材等を擁していないと考えていることがある。

スタッフや指導者の不足などで、他の事業に資源を割り当てることが無理であると判断したものと考えられる。

３．関係団体からの情報収集

３．１　調査方法

総合型地域スポーツクラブの中間支援として、全国調査等も実施してきたＮＰＯ法人クラブネッツのネットワークを用い、放課後子ども教室と連携・協力等をしている総合型地域スポーツクラブの情報提供を、メールにて依頼した。

主な、照会先は、以下のとおりである。

① 都道府県体育協会　クラブ育成アドバイザー

② クラブネッツメーリングリスト（全国クラブ関係者　約 500 名が参加）

③ 都道府県　広域スポーツセンター　専任指導員

３．２　クラブやクラブ育成アドバイザーから寄せられた情報

（１）都道府県体育協会クラブ育成アドバイザーからの情報・意見

①縦割りの課題についての意見

- 放課後子ども教室事業に関する情報を持っていない
- 県庁内の広域担当者、県体協事務局、県教委スポーツ健康課、男女共同参画課等から情報を収集したが県内で 80 箇所の「放課後子ども教室」が実施されているという情報しか集まらなかった。
- 助成事業が多様すぎて、何も知らないクラブからしてみれば窓口がわからなかったり申請がややこしかったりすることによって混乱している場面が多いように感じられる。
- クラブからの問い合わせはアドバイザーのもとに来ますが、こちらとしてもどこから案内されているのがわからない事も多く、大変な労力になる。
- クラブに直接案内が行ってしまうので、こちらとしてもできるだけ情報を掴むことができるようにならなくてはいけない。
- 県の教育委員会生涯学習課に、この事業と総合型クラブの関わりについて確認いたしましたが、生涯学習課では大変残念ながら総合型クラブの活動をよく理解しておらず愕然としていた。
- 市町村教育委員会を訪問した際には、「放課後子ども教室推進事業を総合型クラブに発展させることができないか」といった相談はあるが、実際に県教育委員会でスポーツ振興と生涯学習に携わる担当者の連携や理解が十分できておらず、実現していないことを実感した。

⇩

- 地域では、所管部署に関係なく、情報をキャッチし、活かしていこうとしているが、それをサポートする行政組織が、縦割りのために十分な情報を持っていない。
- 受け手側の視点から補助事業等を整理する必要性を感じる。

③放課後子ども教室と地域ＳＣの連携の意義についての意見

- 「放課後子ども教室推進事業」を「放課後学びクラブ」と共に推進する形で、小学校で「放課後ふれあいクラブ」を立ち上げるための準備会に市社会福祉協議会の支部長として参加した中で、この事業に「総合型地域スポーツクラブ」が積極的に関与して連携していくことができれば、双方にたくさんのメリットが出てくると感じた。
  - クラブの存在をアピールできることや存在意義が高まり、クラブの発展に繋がる大きな要素になる
  - 人材の確保、運営面での事務局もできることでふれあいクラブが成功が運営できる
- 県内のクラブにこういった連携を勧めていきたい
- クラブが運営している地域のニーズを把握して実施することで地域づくりの中核になれる大切な活動であった。

⇩

- 総合型地域スポーツクラブが放課後子ども教室に関わることは、双方にメリットがあると考えられている。

（２）クラブからの情報・意見

①参加・協力の意義について

- 身体を動かさない子ども達へスポーツの楽しさを伝えたり、スポーツだけでなく、クラフト活動も実施して地域の大人と子ども達が触れ合ったり、親子で参加できるプログラムを提供できた。
- 総合型地域スポーツクラブを運営するに当たりこの事業と旨く向かい合うことが必要不可欠かと思う。行政との協働として新しい形を作る大事なステップと思います。当クラブはこれで、地域と旨く関わりを持ち行政と一体となり活動をしている。

⇩

- 放課後子ども教室事業は子ども達へスポーツの楽しさを伝える機会として、また、行政や学校との協働が実現するなど、地域ＳＣにとって、有用な事業であると受け止めている。

②事業の継続性について

- 日本レクリエーション協会の委託事業を受託していたが 18 年度で終了しましたのでお手伝い戴く講師の先生にも 19 年からは謝金はなく、ボランテイアで協力をしているのが現状です。
- Ｈ１６年度～Ｈ１８年度に受託していたが、放課後子ども教室事業に変わったことと、市町村合併により市の担当部署が変わり、事業予算を組まなかったことで継続できなかった。

⇩

- 放課後子ども教室事業は継続して行ってほしいと思っている

③事業スキームについて

- このような事業の補助金は、謝金が中心になってしまうが１０万円以内の備品類の購入も補助金対象としてほしい。備品に「文部科学省補助金」と記入することで広く一般の人達に認知されるように工夫もできる。
- 指導者と安全管理員で謝金の額が決められているが、実態とあわないこともある（みなが同じような役割を果たす時もある）

↓

- 予算の使い方には工夫の余地がある（もう少し自由度が高いと良い）と思っている

④事業への参加・協力の情報

- 当地域においては小学校を中心に地域の各種団体（老人会、民生委員、地区推進会等）の協力で行われております。しかしこの事業に参加していない子ども達もいますのでクラブとしてここ数年事業として実施してきたレクリエーションを中心に「あそびの城」を開催、保護者の申し込みにより現在月に２～３回（15 時～17 時）参加人数は 10 名前後で行っています。会場は地区公民館体育室を無料にて提供して頂いています（長崎県）
- 「Ｉスポーツ・文化クラブ」が放課後や長期休暇中に開催するキャンプや花器づくり教室に「子どもペンギンクラブ（Ｉ小学校）」の子ども達が参加している（岐阜県）。
- 市で開催している放課後教育「あそび場」に参加、市より委託されている有給スタッフ２名と、クラブから２名無給が遊びの指導者として毎月第２・４火曜日に参加しています。2 年間活動してきましたが月２回なので学校行事等で参加できない事やスタッフの連絡網の中に入っていないため空振りするときもあり、来年度からの参加は検討中です。（群馬県）
- 月曜日の放課後は、昔遊び教室とし地域ボランティア団体の皆さんの協力をいただき実施している。土曜日は運動遊びとして当クラブのスポーツ指導者が遊びの中から子ども達の身体づくりを行っている。日曜日は当クラブ参加団体のニュースポーツの体験を家族で参加していただきながら地域の皆さんとの交流を図り体験する。３つの特徴ある体験活動を通じて子ども達の心と体の成長を観察する。地域で子ども達と関わりを持ち見守れる仕組みを作り実施継続している。（群馬県）
- クラブが実施している中 3 の子供を対象とした教室があり、これを放課後子ども教室の時間と合わせ、中 3 の子供らが小学生の指導に当たっている。（宮崎県）
- 県の事業名「子どもかがやき教室」として３つのクラブが実施している（富山県）

４．事例調査

４．１　調査概要

（１）事例調査の目的

放課後子ども教室に関わって活動している地域 SC に訪問ヒアリング調査を行い、アンケート調査等で把握できた課題等にどのように対応しているかを調査することを目的として実施した。

（２）調査対象

アンケート調査結果、関係機関調査結果、及びアドバイザー会議の助言に基づき、以下の２０地域を訪問ヒアリング対象として選定した。

市区町村名	事業名	地域ＳＣ名
岩手県　北上市	飯豊子ども教室	NPO　フォルダ
宮城県　七ヶ浜町	汐見ゆめキッズ、松ヶ浜ゆめキッズ、亦楽ゆめキッズ	NPO　アクアゆめクラブ
福島県　南相馬市	石一遊スポット	NPO　はらまちクラブ
群馬県　沼田市	うすねわくわくスクール	NPO　うすねニュースポーツクラブ
埼玉県　さいたま市	わくわく広場	NPO　さいたまスポーツクラブ
東京都　八王子市	浅川小学校放課後子ども教室	浅川スポーツクラブ
静岡県　藤枝市	大洲ジュニアクラブ	大洲スポーツクラブ
富山県　富山市	おおさわのかがやき教室	おおさわのスポーツクラブ
富山県　高岡市	小学生らくらく水泳、ジュニアテニス教室、トランポリン	NPO　遊・Ｕクラブ
富山県　小矢部市	放課後出前教室	NPO　おやべスポーツクラブ
石川県　かほく市	放課後子ども教室	NPO　クラブレッツ
京都府　長岡京市	セブンＵＰすくすく教室	長七みんなのスポーツクラブ
大阪府　八尾市	竹渕小学校放課後子ども教室	竹渕キリンキッズクラブ
徳島県　板野町	放課後子ども教室	板野ぴょん太スポーツクラブ
徳島県　美馬市	放課後子ども教室	スポーツクラブ美馬
高知県　土佐清水市	のびのびスポーツ教室　他	NPO　スポーツクラブスクラム
岡山県　総社市	わんぱくクラブ	きよねスポーツクラブ
広島県　北広島市	放課後子ども教室	スポーツクラブ　どんぐり屋台村
宮崎県　小林市	にっこば子どもクラブ	西小林元気クラブ
熊本県　熊本市	子どもスポーツ教室	出水南どっとネット

（３）調査内容

①ヒアリング事項

アンケート調査等で把握された課題をもとに、アドバイザー会議での助言等をふまえ、ヒアリングにおいては、特に事項に留意することとした。

課題等	ヒアリングにおいて留意すること
情報の不足・周囲との連携不足	放課後子ども教室推進事業と総合型地域スポーツクラブの市区町村内の担当部署
	クラブが参加・協力することになったきっかけ、 クラブの役割
考え方の違い・意識の違い	クラブが参加・協力することにした理由 （それぞれの立場にとって）クラブが参加・協力することのメリット クラブの設立経緯
スポーツへの誤解	クラブが提供しているプログラムとその考え方
実施上の条件面の課題	実施頻度、謝金の処理、人員の配置 クラブの参加・協力の形態（役割）、人員の配置 課題
クラブの力不足	クラブの組織、スタッフ　等

②アンケート調査

教室に参加している子ども達と、参加・協力している地域 SC の会員・スタッフ・指導者等に、アンケート調査を行った。
調査は、ヒアリング訪問時に放課後子ども教室実施団体に配布・回収を依頼した。

主な設問は、以下のとおりとした。

子ども：放課後子ども教室にスポーツプログラムがあった方が良いと思うか
　　ふだん、スポーツをどれくらいしているか

大　人：放課後子ども教室を知っているか、クラブが関わっていることを知っているか
　　参加・協力したいと思うか、クラブが関わることをどう思うか

４．２　調査結果

４．２．１　ヒアリング調査結果

（１）各取り組みの特徴

２０地域において、地域SCの担当者や行政担当者を対象にヒアリングを行った。
各地域の特徴を整理して一覧に示す。

地域名	取り組みの特徴
岩手県　北上市	地域 SC の職員が市の委員会に出席し、居場所づくり事業を担当してきた経験や人材のネットワークを活かして助言等を行っている。
宮城県　七ヶ浜町	居場所づくり事業を経て、放課後子ども教室としては補助金に頼らずに会費制で実現。地域SCの職員が業務として実施。
福島県　南相馬市	会場の責任者を地域SCのスタッフ（職員）が担当。地域SCは、地域福祉や地域振興分野で活動する市民組織の一部門。指定管理も受けており、居場所づくりをミッションに掲げている。
群馬県　沼田市	地域 SC の指導者の研鑽の場として、放課後子ども教室事業を活かし、企画運営能力を高めた人材を増やしている。
埼玉県さいたま市	日舞が人気で発表会まで発展。ボランティアが規定数以上集まる時には、クラブ予算で謝金を補填。
東京都　八王子市	地域のボランティア活動のキーマンが、地域ＳＣの役員をしていた。
静岡県　藤枝市	子どもの可能性を引き出すこと、他学年との交流などを期待してニュースポーツに特化。自治会には、これ以上ボランティア作業を頼めず地域SCに期待。
富山県　富山市	地区の体育施設を活用し、複数の小学校を受け入れ
富山県　高岡市	いくつかの種目に特化し、専門的な指導も行っている。
富山県　小矢部市	地域SC職員がコーディネーターとしてアレンジ。学生の参加なども推進。
石川県　かほく市	地域SCに委託。地域SCの職員の業務として取り組む。
京都府　長岡京市	地域 SC の理事がコーディネーターとして活躍。携帯メールを活用した保護者との連絡システム。教職員の参加を促し、土曜日の教室にも複数の職員が参加。
大阪府　八尾市	小学校の施設利用団体が連携して協力。 綱引きは、高学年も多く参加。大会出場もしている。
徳島県　板野町	市内各校のコーディネーターが地域 SC に関わっており、情報交換することで、悩みの解決、人材の効率的確保が進む。地域 SC でボランティアに応急措置の講習会などもしている。
徳島県　美馬市	各校のコーディネーターを地域 SC から派遣している。クラブ事務局があることで、コーディネーターは仕事をしやすい。
高知県土佐清水市	市内の各分野のＮＰＯ、活動団体が連携し、文化分野、スポーツ分野などを調整分担。遠隔地には、出前教室も実施。
岡山県　総社市	子どもの居場所づくりを目指して、住民主体でつくられたＮＰＯ組織がもともとあった。専従職員もおり、人も集まるハウスがあることでアイデアが集まる。
広島県　北広島市	平日は学童クラブと連携。地域の小学校の距離が遠いため、週末のイベント型を中心に、地域の小学生が集まれるように配慮。
宮崎県　小林市	スポーツ好きの子を育てることを主眼に、体の柔軟性や体幹を遊びながら鍛えられるメニューをプログラミング。
熊本県　熊本市	熊本大学から２名の教職志望の学生が派遣参加。 地域SCの理事への謝金はまとめてクラブの活動費にしている。

（２）各地域の取り組み状況

①北上市

教室名	飯豊子ども教室　（飯豊小学校）	
教室の概要	実施頻度	クラブが関わるのは月に１回　平日放課後
	プログラム	コーディネーションを中心にゲーム性のあるもの
	子どもの参加状況	小学校１年生　約 80 人
	その他 特記事項	
教室の関わり方	実行委員会参加型 ・　市全体の運営委員会への委員参加 ・　月１回の運動指導者の派遣	
ＳＣから参加している人材について	クラブの理事１名が参加	
事業費の取り扱い	謝金	市全体の運営委員会への参加と指導者１名の派遣のため、参加する個人に市から支給されている
	用具	必要に応じてクラブのものを利用することもある
関わる「きっかけ」	クラブの理事として市職員も入っていたことから、子どもの居場所作り事業を紹介した	
参加･協力することとした理由	・　地域ＳＣとして、子どもに関する事業を行おうとした時に、居場所づくり事業があり、取り組みやすかった ・　事業の要項の変更により、平日放課後主体の活動は担当できないと考え、本事業になってからは、全体の委託ではなく、クラブスタッフが一委員として関わる協力体制とした	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・　子どもの運動指導を任せられる ・　運営委員会で、居場所づくりの事業の経験などが生かされる
	クラブ側	・　子ども達の環境や、体力・運動などの現況を知ることができ、クラブにフィードバックできる ・　地域の関係者との顔つなぎができるので、事業展開に役立つ ・　クラブの取組姿勢などを知ってもらう良いチャンス
課題・意見	・　市内の全校に広げようとすると、人材の確保や、市として予算の確保が困難 ・　フォルダは、あくまでもスポーツ振興を目的とした組織であるので、放課後対策を実施するのが目的ではなく、子ども達の体力づくり・運動体験などのために参加している	
クラブの規模（会員数など）	会員数　約 600 人 市の複数のスポーツ施設の指定管理者を受けており、2009 年度は 15 人の職員体制を予定している	

②七ヶ浜町

教室名	汐見ゆめキッズ、松ヶ浜ゆめキッズ、亦楽ゆめキッズ （汐見小学校、松ヶ浜小学校、亦楽小学校）	
教室の概要	実施頻度	各校 週１回
	プログラム	各種スポーツの他、室内での遊び（オセロ、トランプなど）も実施
	子どもの参加状況	１校 25 人前後が登録し、毎回 20～25 人が参加
	その他 特記事項	・ クラブで送迎サービスを開始 ・ 年１回は３校の合同教室を行い、町内の子どもの交流を進めている ・ 募集は、学校をとおして行っている ・ 振り返りシートを作って、子ども達からの意見も集めている
教室の関わり方	自主運営	
	（子どもの居場所づくりの時には補助受けていたが）自主事業として実施	
ＳＣから参加している人材について	クラブ職員が業務として担当している	
事業費の取り扱い	謝金	子どもの居場所事業終了後は、会費制の自主事業で運営しており補助金は受けていない。全額クラブの収入
	用具	自主事業であり、全てクラブのものを利用するが、一部学校の備品等も使用することがある
関わる「きっかけ」	クラブの準備委員会に、学校の先生がいて事業を知っていた	
参加･協力することとした理由	・ 地域のニーズをとらえ、役立つことをしていきたいと考えている ・ 子どもの居場所づくり事業を始めた当初から、将来的な自主事業化を想定し、保護者等にも説明していた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 学童がパンクしている状態で、良い受け皿になっている ・ 自主運営であり、財政的な負担がない
	クラブ側	・ クラブのＰＲになる ・ 保護者に知ってもらえる ・ 事業収入が得られ、収支もあう
課題・意見	・ クラブとして、地域のニーズに応えていきたいと考えており、その中では、スポーツ以外の分野も取り組めるようになると良い ・ 多動症の子や、障害を持った子への対応が必要になってきているが、そのノウハウや人材が不足している ・ 地域の大人の参加を促したい ・ 危機管理、安全対策の充実	
クラブの規模 （会員数など）	会員数約 600 人 町のスポーツセンターの指定管理者を受け、職員３人、パート 10 人で運営	

③南相馬市

教室名	石一遊スポット（石神第一小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間７０回程度（毎週水曜・金曜）
	プログラム	スポーツ、外遊び、とんかちクラブ（工作）など
	子どもの参加状況	参加は登録制で約70人が登録　毎回40人前後が参加
	その他 特記事項	・ 以前は、スポーツプログラムや文芸活動を指導していたが、現在は子ども達の自主性、創意工夫に任せている ・ 教室を卒業した中学生や高校生も手伝いにくる
教室の関わり方	完全委託型	
	人材手配、企画・準備を担当	
ＳＣから参加している人材について	クラブスタッフ１人を管理のために派遣。その他は、会員及びそれ以外からボランティアを募って手配している	
事業費の取り扱い	謝金	謝金は、市から個人に払われている。クラブとしては参加者のリストを市に提出する
	用具	学校の備品と、必要に応じて市が用意するものを使用用具はＳＣと共用している部分もある
関わる「きっかけ」	政府のメルマガをみてクラブから県に問い合わせをした	
参加･協力することとした理由	地域ＳＣの設立主旨の一つに、「子どもから高齢者までの第三の居場所づくり」を掲げており、当然やるべきと考えた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 現場の管理を任せられる人材がそろっている
	クラブ側	・ クラブで実施すべき子ども達の居場所づくり事業に、ある程度の補助金が出る
課題・意見	・ 国・県・市が 1/3 ずつなので、県の財政状況から予算が減額となることで全体が縮小することが懸念される。いずれにしろ、出来る範囲で続けようと思っている ・ 予算の細かい使い方を行政が決めずに、現場に任せると良い。条件はそれぞれだから、うまく活かす方法は現場で考えると良い ・ 手続きが面倒	
クラブの規模（会員数など）	正会員約 70 人 H18.3 設立。地域振興・福祉など幅広く取り扱う。少年団組織等が参画。サンライフ南相馬の指定管理受託	

④沼田市

教室名	うすねわくわくスクール（薄根小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間 31 回（平日、休日とも　月２～３回）
	プログラム	レクリエーションやニュースポーツを中心とした遊び的要素
	子どもの参加状況	登録制 48 人（毎回 40 人程度参加）
	その他 特記事項	・ プログラムは、クラブマネジャーが中心となり指導者会と協議して決定 ・ 薄根地区は、小学校１校、中学校１校で地区のまとまりが良い ・ 参加者からは保険料として 500 円/年。この他、教材費として 1,000 円/月徴集している。お別れ会などの費用にも充てている
教室の関わり方	完全委託型	
	・ ＳＣの指導者会が、自分たちで研修なども行いながら企画、運営に参加 ・ うすね振興協議会に参加する婦人会、老人会等６団体からボランティアが参加	
ＳＣから参加している人材について	指導者バンクに登録している指導者	
事業費の取り扱い	謝金	日によって事業で決められた人数よりも多くの指導者が必要な時もあるので、クラブが一括して受け取り、参加者で頭割り
	用具	クラブや学校のものも利用する 県の体協・レク協等からも借りてくることがある
関わる「きっかけ」	体育課から社会教育課に異動した市職員が紹介した	
参加･協力することとした理由	地域ＳＣとして、子どもたち向けの事業が何かできないか探していた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 運営を任せられる ・ ニュースポーツなどを指導できる ・ 学校側としては、全く負担がなく助かっている
	クラブ側	・ ボランティア養成、事業の企画運営の訓練の場となっている ・ 子どもにスポーツ好きになってもらう事業を行いたいと考えていて、実践できている ・ クラブの存在や考え方を、地域に伝える良い機会となった。実際に、徐々に地域からいろいろな支援を受けられるようになってきた
課題・意見	・ 参加する子ども達がもっと増えた時に受けきれない ・ 地域教育力再生プランの実現に貢献する活動と考えている	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 300 人 H15.12 に地域振興協議会が中心に設立。指導者派遣バンクを設け 40 人が登録	

⑤さいたま市

教室名	わくわく広場（大砂戸東小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間 80 回程度（毎週金曜日の放課後、夏休み）
	プログラム	校庭での外遊び（スポーツや遊び）、農業体験、日舞
	子どもの参加状況	主に低学年で 50 人前後
	その他 特記事項	・ 地域から「○○を教えたい」などの申し出があるが、当面はイベントなどで参加してもらう対応としている ・ 学校開放事業を利用している他の団体に、参加を要請したりはしていない。あくまでも、呼びかけに応じて集まったボランティアで運営
教室の関わり方	実行委員会事務局型	
	事業を受託し、実行委員会の事務局をクラブが担当。ＳＣの役員１名が事業のリーダーをして、実行委員会をまとめている。実行委員会は、地元自治会役員や民生委員など	
ＳＣから参加している人材について	ＳＣスタッフや指導者が教室を担当しているのではなく、地域に声かけをして集まったボランティアが担当している	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが参加者リストを作り、市から一括受け取り、クラブから個人に支給。予算を超える時があるが、クラブが一部補填している
	用具	市から必要に応じて支給される。クラブの用具は利用している
関わる「きっかけ」	居場所づくりのアドバイザーが、クラブのメンバーにいた	
参加･協力することとした理由	池田小の事件を受け、特に子どもの健全育成に関心のある自治会役員や民政委員などが、地域のシニア層の力を活かして何かできないか相談をしていた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 運営を任せられる ・ いろいろな人材がそろっている
	クラブ側	・ クラブの理念と合致している、地域の子ども達の健全育成に貢献できれば良い ・ その他のメリットは望んでいない
課題・意見	・ 指導員１人と安全管理員 10 人以下と決められているが、スタッフがそれ以上集まる時も少なくなく、謝金の調整が手間となる ・ 低学年が主体となっているが、高学年に広げていくには見合った人材の確保に不安がある	
クラブの規模（会員数など）	H15.4 設立のさいたまスポーツクラブと H19.2 設立の見沼スポーツクラブが合体	

⑥八王子市

教室名	浅川小学校放課後子ども教室（浅川小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間 200 回程度（毎週月～金曜日の放課後、夏休み）
	プログラム	校庭での外遊び（スポーツや遊び）、雨天時は体育館
	子どもの参加状況	１～６年生で 40～50 人前後
	その他 特記事項	・ 内容は、参加した子ども達が決めている ・ 登録制にして保険に加入。登録していない子も受け付けるが、事前に全家庭に案内を配布し、保護者に周知 ・ 校庭開放委員会を主催していることから、学校との密接な連携がある
教室の関わり方	－	
	実行委員会の会長と副会長（事務担当）が地域ＳＣと同一であるが、クラブとして参加・協力はまだない。今後、イベント的に参加してもらうことを予定している	
ＳＣから参加している人材について	・ クラブとは直接関係がない、自治会等から募ったメンバー ・ クラブとしてというより地域の顔として、ＳＣから３人が参加	
事業費の取り扱い	謝金	提出リストに基づき、市から個人に支給
	用具	放課後子ども教室用に市が用意したものを利用している。クラブとの共有はない
関わる「きっかけ」	市から学校と地域（自治会）に案内があり、自治会役員とクラブ役員が重複していた	
参加･協力することとした理由	地域ＳＣとして学校を利用していることもあり、頼られたので、受けた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 運営を任せられる ・ 事務処理をしっかりしてくれる
	クラブ側	・ クラブとしてのメリットは特にない
課題・意見	・ ボランティアをしたいという申し出があるが、やたらと人数を増やすと、（予算の都合から）一人あたりの参加回数・頻度が減り、子ども達と疎遠になるなど都合が悪い	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 60 人 H17.9 に、地区の体育指導委員を中心に、既存サークルが集まり設立。７種目のサークルで 60 人	

⑦藤枝市

教室名	大洲ジュニアクラブ（大洲小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間 31 回程度　毎月第２、第４土曜日
	プログラム	ニュースポーツ など
	子どもの参加状況	登録制 30 人程度
	その他 特記事項	・ スポーツプログラムは指導者が参加できる土曜日に小学校で実施 ・ 限られた競技種目の中では子どもの可能性をせばめてしまうことを懸念し、ニュースポーツを中心に実施
教室の関わり方	完全委託型	
	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当	
ＳＣから参加している人材について	クラブの指導者が、教室を実施している	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが一括して受け取り、クラブ内の規定に基づいて処理
	用具	・ クラブで用意したものを使っているが、体協などからも借りる ・ 事前に予算化しておけば、市でも購入してくれるものもある
関わる「きっかけ」	放課後子どもと、地域ＳＣの担当課が隣合わせで、情報が伝わった	
参加･協力することとした理由	地域ＳＣとして、子どもを対象とした事業に取り組むのに適当だと考えた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 運営を任せられる ・ 子ども達の可能性を引き出したり、多年代の交流をしたりが、スポーツであれば実現しやすいと考える
	クラブ側	・ 子どもにスポーツの機会を与えることができる ・ クラブのＰＲになる ・ 子どもを対象としてスポーツを好きになってもらう事業を行いたかったことが実践できている ・ クラブ内の各種目の役員などが共同して取り組む機会ができた
課題・意見	・ 人数がもっと増えたり、回数の要望がもっと多くなったりした時に、現在のスタッフだけでは受けきれない ・ 来年度から回数も増えるので、参加するスタッフを増やしたい ・ 自治会や既存のスポーツ団体の役員などではない、普通の人がボランティアとして参加できる場として考えている。これにより地区の時代を担う人材の発掘もねらっている	
クラブの規模（会員数など）	H19.3 設立、H20.3 に NPO 法人化。地区の体育振興会などが中心	

⑧富山市

教室名	おおさわのかがやき教室 （子どもの居場所づくり時参加　21 年度実施に向け準備中）	
教室の概要	実施頻度	毎週木曜日の３～５時
	プログラム	コーディネーション、キンボール、ドッチボールなど
	子どもの参加状況	約 100 人
	その他 特記事項	・ 公共の体育施設で、平日の放課後に実施していた ・ 子どもの居場所づくりの時に参加協力。現在は実施していないが、来年度実施にむけ協議中
教室の関わり方	実行委員会協力型	
	指導者の手配、派遣を依頼されていた	
ＳＣから参加している人材について	クラブスタッフと指導者のネットワークから、指導者や人材の手配と派遣	
事業費の取り扱い	謝金	居場所づくりの時にはクラブで一括受け取り。放課後子ども教室は、これから調整（H21 以後実施予定）
	用具	以前は、クラブで用意していた。今後はこれから調整
関わる「きっかけ」	放課後子どもと地域ＳＣの担当課が隣合わせで情報が伝わった。ＳＣ関係者が体育指導委員などをしていたので、教育委員会から声が掛かった	
参加･協力することとした理由	地域ＳＣとして、子どもを対象とした事業に取り組むのに適当だと考えた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 地域に事業を任せられる団体が、他になかなか見つからない
	クラブ側	・ 放課後子どもの事業をできる組織としての、地域の期待を果たす ・ クラブのチラシなどを学校で配れる
課題・意見	・ 謝金の設定額が低いので、スポーツ指導者が確保しづらい	
クラブの規模 （会員数など）	会員数約 600 人 市の武道館の指定管理者を受けている	

⑨高岡市

教室名	小学生らくらく水泳、ジュニアテニス教室、トランポリン	
教室の概要	実施頻度	週１回×３～４ヶ月で１タームを６クラス
	プログラム	トランポリン、水泳、テニス
	子どもの参加状況	クラスにより 10～20 人の定員制（登録制）
	その他 特記事項	・ クラブの事業の一つとして位置づけており、会費を徴収している ・ 学校外で行っている ・ 送迎はすべて保護者の責任
教室の関わり方	完全委託型	
	・ 受託し、クラブの事業として位置づけている ・ クラブの教室そのものを、放課後子ども教室と同様に扱っている	
ＳＣから参加している人材について	クラブのプログラムの指導者が中心	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが一括受け取りし、クラブ内の規定に基づいて処理
	用具	クラブのものを利用している
関わる「きっかけ」	旧福岡町の福岡教育センターが子どもの居場所づくり事業の時から取り扱っていた	
参加･協力することとした理由	地域ＳＣとして、子ども向けの活動を展開するためのプラスになると考えた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 事業を実施するのに適当な団体が、地域内にほかにはない ・ 費用やネットワークづくりの点でクラブを支援できると考えた（クラブが安定して活動することが住民にとって良いことと考える）
	クラブ側	・ 子ども向けのプログラムの充実 ・ 事業収入が得られる
課題・意見	・ 放課後の時間帯にボランティアでこれを支え続けられる地域ではない。予算をもっとつけたり参加費をとったりして、しっかりと人材を確保すべきと思う ・ 放課後の時間帯に手配できる指導者がいないため、７時頃からの開始になっている	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 600 人 H14.3 設立。B&G 海洋センターの指定管理を受け活動	

⑩小矢部市

教室名	放課後出前教室 （石動小学校、大谷小学校、津沢小学校、東部小学校、蟹谷小学校）	
教室の概要	実施頻度	全 60 回程度 約 10 回／年・校×（５小学校＋１児童クラブ）
	プログラム	コーディネーショントレーニング、ドッジボール　他
	子どもの参加状況	１教室あたり 40 人程度 （低学年が多いが１～６年を対象）
	その他 特記事項	・　スポ少にない種目などを中心に展開している ・　お迎えにくる保護者の手伝いも受けている
教室の関わり方	完全委託型	
	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当	
ＳＣから参加している人材について	クラブの指導者やスタッフ、及び会員から募っている	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが一括受け取り、クラブの規定に基づいて処理
	用具	ＳＣのものを利用。学校備品もものによっては使う
関わる「きっかけ」	子どもの居場所づくり事業の時に、生涯学習課から体育課に相談があった	
参加･協力することとした理由	子どもの体力・健康づくりを進めるのに、地域ＳＣと学校との連携は重要であり、そのきっかけとなると考えた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・　現場の管理を任せられる人材がそろっている
	クラブ側	・　実施したかった子ども向けの活動に、ある程度の補助金がでる ・　校長会や教頭会で説明の場を設けるなど、関係者との顔のつながりができ、学校へチラシなどが配布しやすくなった ・　体育館が借りやすくなった ・　学生のボランティアスタッフが係わるきっかけとなり、学生の経験を積む良い場にもなっている ・　地域に貢献する組織であることが認知される（施設料の減免や大人の会員の増加にもつながる） ・　クラブメンバーにつなげることは特に考えておらず、学校や子どものことを知るために有効だと考える
課題・意見	・　謝金の額が低い。意義を認めて、予算をしっかりつけていってほしい ・　回数を増やしてほしいという要望が多いが、人材確保が困難 ・　今後は元教員の力も期待したい	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 2,100 人 H12 設立、H18NPO 法人化。市スポーツ文化センターの指定管理を受け活動	

⑪かほく市

教室名	放課後子ども教室（宇ノ気小学校、金津小学校、外日角小学校、七塚小学校、大海小学校、高松小学校）	
教室の概要	実施頻度	平日週１回／校（×６校）　年間約 30 回（１校）
	プログラム	コーディネーショントレーニング他各種スポーツ
	子どもの参加状況	40～50 人／校　（全６校で 260 人）１～３年生
	その他 特記事項	・ 夏期休暇には、教育委員会予備校として大学生の企画による宿泊合宿を実施 ・ 会費として 2,000 円／年を徴収している
教室の関わり方	完全委託型	
	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当	
ＳＣから参加している人材について	クラブスタッフが主。生涯学習課からも参加。	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが一括受け取り、クラブの規定に基づいて処理
	用具	必要に応じてクラブのものを利用することもある
関わる「きっかけ」	生涯学習課の職員にクラブメンバーがいた	
参加･協力することとした理由	子ども対象の活動を充実していきたいというクラブとしての考え方に見合った	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ スポーツ指導者の手配、確保をしてくれる
	クラブ側	・ 小学校に入っていける。顔のつながる関係をつくりやすくなる ・ 社会ニーズに応えられる団体としての地域内での信頼性、貢献が認められる ・ 事業収入が得られる。いくつかの事業を受けることで、職員の雇用を確保できるだけの収入が得られるようになる
課題・意見	・ 謝金の額が低い。ボランティアだけに任せるような施策ではしっかりしたものができないのではと思う。委託費をもう少し高めて、もっと多くのことを地域ＳＣに任せるようになれば、さらに良いものとなる ・ 無償のボランティア中心では、高齢者ばかりが世話役になってしまうが、それは本当に子どもに良いことか。若者が参加するためには、相応の待遇が出せるような仕組みづくりが必要だ ・ もっと発展させて、誰でも集まれる、参加できるフリーの場もつくっていきたい ・ クラブの事業としてなぜ取り組んでいるのかを、全体の中で整理して、会員に伝えていくことも必要と考えている	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 1,200 人 H15 設立。かほく市宇ノ気中学校と併設された市体育センターの指定管理を受け活動。専従職員５人	

⑫長岡京市

教室名	セブンＵＰすくすく教室（長岡第七小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間 50 回程度（水曜・金曜の放課後と土曜の午後）
	プログラム	体育館や校庭、教室でのスポーツ、文化、芸能、伝統技能、漢字検定など
	子どもの参加状況	低学年が中心。プログラムにより 150 人近くが参加することもある（全校生徒約 350 人）
	その他 特記事項	・ 校内の余裕教室を利用して、事務局を開設 ・ 携帯メールを活用し、保護者と出欠について連絡体制を整備 ・ 夏休みは実施していない ・ 少人数でもその子にとっては大切なことと考え、参加人数の多少でプログラムの評価をしない ・ 土曜のプログラムに、子どもとの触れあいの機会を増やそうと、教職員も参加している
教室の関わり方	実行委員会運営型	
	ＳＣメンバーが中心となり、運営会議をとりまとめている	
ＳＣから参加している人材について	コーディネーターはＳＣの副会長。その他は広く地域から募集	
事業費の取り扱い	謝金	市から個人に支給されている
	用具	必要に応じてクラブのものを利用することもある
関わる「きっかけ」	市から学校施設開放委員会に紹介があり、その中心がＳＣのメンバーだった	
参加･協力することとした理由	地域が一つになって、校区の様々な課題の解決にあたっていくべきであり、地域ＳＣは、情報や人材の総合的なネットワークであると考えている	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 現場の管理を任せられる人材がそろっている ・ プログラムを充実させる人材のネットワークを持っている
	クラブ側	・ 地域が一つになるため、いろいろな団体と協力するきっかけとなる
課題・意見	・ 将来的に事業が維持されるかどうかが不安。なくしてはいけないと思う ・ 有償ボランティアという考え方に、理解を広めていくことも必要 ・ 校区の体育振興会を総合型に統合していく予定	
クラブの規模（会員数など）	会員数　個人 75 人、サークル：15 団体（360 人） H18.5 に校区の体育指導委員が中心となり設立。校区単位で地域づくりを進めるための総合的な組織として活動	

⑬八尾市

教室名	竹渕小学校放課後子ども教室（竹渕小学校）	
教室の概要	実施頻度	土・日曜（月～金は大人向け）夏休みは休み
	プログラム	綱引き、ソフトボール、バトミントンなど
	子どもの参加状況	小学校（278 人）の児童の、約１/3 綱引きは、高学年の参加比率が高い
	その他 特記事項	・ 登録制。クラブ員はＩＤカードがある ・ スポーツ安全保険（500 円/年）に加入してもらう ・ ケガは自己責任とした上で、当日参加者も受け入れる ・ バトミントンに中学生（卒業生）も参加するようになってきた ・ ソフトボールなど、大人の部に子どもが参加して一緒にやっている
教室の関わり方	完全委託型	
	ＳＣメンバーが中心となり、運営会議をとりまとめている	
ＳＣから参加している人材について	クラブの会員によるボランティア	
事業費の取り扱い	謝金	無償ボランティアで実施している
	用具	・ クラブのものを利用している ・ 学校の設備・備品も利用することもある。カギの管理も任されている。持ちつ持たれつの関係
関わる「きっかけ」	市から施設開放委員会に紹介があり、施設開放会議はクラブが運営していた	
参加･協力することとした理由	・ 地域ＳＣとして、子ども達の健全育成のためにやるべきだと考えた ・ こども会の会長や、体育指導員をしていたので、もともと子どもの面倒をみてきていて、学校とも仲が良かった ・ 地域に開かれた小学校で、クラブが作りやすい環境だった	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 現場の管理を任せられる人材がそろっている
	クラブ側	・ もともと学校との結びつきが強いので、改めてのメリットはない
課題・意見	・ 指導員不足。近くに短大があるので、そこにボランティアの呼び掛けをする予定 ・ 地域住民は、地域を大事にしてくれるから恩返しをと、ＳＣに対して歓迎的で理解がある ・ 校区が小さいせいかまとまりが良い。ＰＴＡや育成会、子ども会の構成員が重複していて、話が通しやすく、即実行できる ・ 用具や備品は皆で貸し借りしあい使用している	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 100 人 H16 に設立。竹渕小の校庭利用団体によるボランティアで運営	

⑭板野町

教室名	放課後子ども教室（板野東小学校、板野南小学校、板野西小学校）	
教室の概要	実施頻度	１回／月　木曜（×３校）
	プログラム	ニュースポーツ、ドッチビー、工作教室、茶道など
	子どもの参加状況	30 人前後
	その他 特記事項	・ 茶道は、材料費を徴収している ・ 月初めにプログラムを配布し、参加申込をする ・ 少しずつ文科系のプログラムが増えてきた ・ 迎えは基本保護者。近所の子どもは自分で帰宅
教室の関わり方	実行委員会参加型	
	・ ＳＣのメンバーがコーディネーターとして各校の実行委員会に参加 ・ 他の教室のアドバイザーの相談にものっている	
ＳＣから参加している人材について	クラブのボランティアスタッフが、コーディネーターや学習アドバイザーとして平日放課後に小学校に出向く	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが一括受け取りし、クラブから個人へ支給
	用具	学校の備品と、必要に応じて市が用意するものを使用
関わる「きっかけ」	コーディネーターがクラブのメンバーにいたことと、教育委員会の職員とクラブメンバー既知であった	
参加･協力することとした理由	・ 地域ＳＣとして、子どもを対象とした事業の充実を図るために適当であると考えた ・ 地域内で、バラバラに似たようなことをするのは非効率と考え、地域ＳＣがそのネットワークとして適当であると思われる	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 教育委員会の担当は移動してしまうため、知識を継続しにくい。コーディネーター（ＳＣ）のアドバイスが必要だ ・ 人材のネットワークがあり、情報が集まりやすいので効率的になると思われる
	クラブ側	・ 地域ＳＣとして、子どもを対象とした事業の充実を図ることができる
課題・意見	・ 町の窓口への情報が縦割りでバラバラに入ってくるため、現場で理解しづらい ・ 安全管理員の資質を高める必要があるのではないか ・ ３年目でやっと地域が慣れてきたところで、事業の枠組みを変えてほしくない ・ 地域ＳＣが拠点となり、アイデアや問題の情報共有や、人材を適材適所に派遣するなど、助け合える展開にしたい	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 160 人 H18.3 に設立。町立田園パーク・スポーツセンターの指定管理を受け活動	

⑮美馬市

教室名	放課後子ども教室	
教室の概要	実施頻度	平日週１回／学校　　６校
	プログラム	ニュースポーツ など
	子どもの参加状況	学校の規模によってまちまち
	その他 特記事項	・ 運営委員会は各学校にある ・ 登録制。スポーツ安全保険に加入してもらう ・ 地域の特性に合わせて、少人数なら工作など文化系のプログラムも実施 ・ 安全管理員は、校区内の主婦層にお願いしている
教室の関わり方	完全委託型	
	各校（５校）の運営委員会のコーディネーターがクラブから参加	
ＳＣから参加している人材について	クラブのボランティアスタッフが、コーディネーターとして平日放課後に小学校や中学校の活動場所に出向いている	
事業費の取り扱い	謝金	市から個人に支給されている
	用具	学校の備品と、必要に応じて市が用意するものを使用
関わる「きっかけ」	クラブマネジャーが教職員ＯＢで、情報を得ていた	
参加･協力することとした理由	・ 子ども達の健全育成の手伝いができればと考えた ・ 他に受け皿がないと教育委員会が困っていた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 多数のボランティアのスタッフがいて、現場を任せられる
	クラブ側	・ 子ども達とコミュニケーションをとる良い機会となり、クラブに目を向けてもらえる ・ コーディネーター同士が悩みや問題を共有しあえるネットワークができた ・ １度の広報（チラシ）だけでなくＰＲする機会が増え、クラブ会員の増加につながった
課題・意見	・ 国や県が事業を継続するかどうかが最も心配 ・ 場所がない（高学年の授業中には、校内に敷地的余裕がない）	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 300 人 H16.3 設立。美馬公民館の指定管理を受け、ボランティアスタッフで運営	

⑯土佐清水市

教室名	のびのびスポーツ教室　他 （市民体育館や、中央公民館、中浜小学校など各地）	
教室の概要	実施頻度	約 40 回／年　毎週土曜日（9:30-12:00）
	プログラム	野球、サッカー、バトミントン、太鼓、なぎなたなど
	子どもの参加状況	約 20 人、イベントは 100 人ほどの参加もある
	その他 特記事項	・ 市内の各分野のＮＰＯ、活動団体が連携して、「子どもネットワークしみず」を設立。それぞれの得意分野の教室を受け持ち、ＳＣはスポーツ分野を担当 ・ スポーツは体育館で、そのほかは図書館など各々実施している ・ イベント（夏休み宿題セミナー、ミニ運動会、クリスマス会）なども実施している ・ 遠隔地で集まることができない子どものために、「出前スポーツ教室」（水曜日の午後：１学期のみ）を開催し、ドッジビーなどを実施
教室の関わり方	実行委員会参加型	
	運営委員会に参加し、スポーツプログラムの実施を担当	
ＳＣから参加している人材について	クラブの指導者が教室の指導に当たっている 体育指導委員会・体育協会からも参加	
事業費の取り扱い	謝金	市から個人に支給されている
	用具	市民体育館内の用具を使用、クラブで購入した用具も共用している
関わる「きっかけ」	生涯学習課から紹介があった	
参加･協力することとした理由	スポーツが得意な子どもだけではなく、苦手な子どもたちにもスポーツの楽しさを伝えたい、というクラブの理念と合致した	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ スポーツプログラムの運営が任せられる ・ 人材のネットワークを持っていて有利
	クラブ側	・ 教室で卓球やバドミントンを始めたことがきっかけで、クラブに入会する子どもがいる ・ 子どもから高齢者まで交流する機会が増えた
課題・意見	・ 学校と活動拠点の距離があり、移動が困難 ・ 家庭や学校では経験できない、人と人とのつながり・絆の強さ、ふるさとを愛する心、社会的なルールやマナーを身につける場となっている	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 900 人 H16.3 に設立し、H16.11 に NPO 法人化。23 種目 41 サークル。市民体育館の指定管理者	

⑰総社市

教室名	わんぱくクラブ／毎週火曜日の実施事業（清音小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間７０回程度 （毎週火曜、第２水曜、第３土曜の放課後の定期プログラムと、10 回／年程度のイベント）
	プログラム	放課後は、体育館や校庭でのスポーツ・レクリエーション。非定期プログラムは文化活動も含む
	子どもの参加状況	定期プログラムは１～３年生の 27 名が年間登録
	その他 特記事項	・ 定期プログラムは登録制 ・ 前期、後期で会費を徴収 ・ 非定期プログラムは、都度募集し一般からも参加 ・ 「わんぱくクラブ」や夏のイベント等に、川崎医療福祉大学から学生がボランティア参加 ・ ＰＴＡとのつながりが深い
教室の関わり方	完全委託型	
	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当	
ＳＣから参加している人材について	クラブのスタッフと、地域のボランティア	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが一括して受け取り、クラブ内の規定に基づき処理
	用具	クラブのものを利用することもある
関わる「きっかけ」	きよね夢てらす（きよねＳＣの母団体）は、子どもの居場所の運営組織としてつくられたもののため、ふさわしい団体だった	
参加･協力することとした理由	設立の主旨に合致しており、当然自分達がやるべきことと考えた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 現場の管理を任せられる人材がそろっている
	クラブ側	・ 手続きは面倒な点も少なくないが、クラブで実施すべき子どもの居場所づくり事業に、ある程度補助金が出るので活動の幅が広がる ・ ＮＰＯの事業に多様な人が関わり、「夢てらす」の場に多くの人が来ることで、アイデアもボランティアも自然と事務局に集約されてくる。
課題・意見	・ 謝金の額や消耗品の購入方法など、細かく決められすぎており、実態にあわない	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 800 人 NPO きよね夢てらすの中の一部門として H14 設立。きよね夢てらす職員 3 名の他、ボランティアスタッフが多数参加	

⑱北広島町

教室名	放課後子ども教室（豊平南小学校、豊平西小学校、豊平東小学校）	
教室の概要	実施頻度	約 50 回／年（毎週水曜日、他）、イベントの実施
	プログラム	スポーツ、レクリエーション　など
	子どもの参加状況	３校の児童対象　各校 1/3 の参加　10～50 人程度
	その他 特記事項	・ 平日は放課後にクラブの職員がクラブの拠点施設（ウィングとよひら）で対応し、離れた学校の子どもたちも参加できるように週末も実施 ・ 送迎車の運行 ・ 夏休みには、クラブ出身の大学生などが帰省中に手伝う ・ 平日は、学童クラブと連携もしている
教室の関わり方	完全委託型	
	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当	
ＳＣから参加している人材について	クラブスタッフと会員からのボランティア参加。地域外からも指導者を依頼	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが一括して受け取り、クラブ内の規定に基づき処理
	用具	施設の備品を使う。クラブのを利用することもある
関わる「きっかけ」	（合併前に）両事業を同じ課で担当していた	
参加･協力することとした理由	子ども達へのプログラム展開をする良いきっかけと考えた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ いろいろな企画を立てて、創意工夫をしてくれる ・ 行政ではそこまで動けない
	クラブ側	・ 保護者や関係するいろいろな方々に総合型地域ＳＣのことを理解してもらう良い機会となった ・ イベントに親（クラブ会員）がボランティア参加してくれることで、子どもが安心する。親子で参加できる
課題・意見	・ 山間地の地域性による課題点 ➢ 地区内の小学校に対応したいが、各校ごとに実施するのは難しい ➢ 一カ所で行いたいが距離が離れており、子ども達の移動が困難 ・ 複数の小学校の子ども達が一緒に活動することで、子ども同士の交流や、それによる教育効果が期待できる	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 450 人 ウィングとよひらを拠点に、専任の事務局員が３人	

⑲小林市

教室名	にっこば子どもクラブ（西小林小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間 40 回程度（毎週水曜の放課後）
	プログラム	体育館での、各種エクササイズ（遊びながら柔軟性や体幹を鍛える運動）
	子どもの参加状況	１～４年生で 25 人前後
	その他 特記事項	・ 会員制で１～４年生が主体 ・ お迎えは、各家庭の責任とし、特に定めていない ・ 登録制にして、保険に加入 ・ 参加料 100 円/月。クリスマスのプレゼントなどに使用 ・ 障害を持つ子どもも参加している
教室の関わり方	完全委託型	
	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当	
ＳＣから参加している人材について	クラブスタッフ、指導者、会員から調整して担当	
事業費の取り扱い	謝金	クラブが参加者リストを作り、市から一括受け取り、クラブから個人に支給。予算を超える時があるが、クラブが一部補填している
	用具	放課後子ども教室用に、市をとおして購入した用具を使っている。クラブとの共有はない
関わる「きっかけ」	スポーツ振興課から紹介された。小中一貫教育モデル事業に指定されたこともあり、小中をとおしてみられる学外の指導体制なども求めていた	
参加･協力することとした理由	地域ＳＣとして、学校を利用していることもあり、頼られたので受けた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 現場の運営を任せられるボランティアがいる
	クラブ側	・ 地域の子ども達の体力向上に寄与できることで、クラブ理念の具現化が図れる ・ 多年代をとおした生涯スポーツの将来像実現のためのきっかけづくりになる ・ 地域や学校教員にクラブのことを分かってもらう良い機会 ・ とにかく子どもの成長を確認できるのが嬉しい
課題・意見	・ 学校外、例えば、クラブの拠点などでも実施できれば良い ・ 子どもの体調等について、教職員との情報交換がもっとできると良い ・ 保護者に参加してほしいと思うが、進んでいない	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 200 人 地区の体育指導委員が中心となり H20.3 に設立。バドミントン、ミニバレー、エアロビ、トランポリンなど既存のサークルにはなかったものを展開	

⑳熊本市

教室名	子どもスポーツ教室（出水南小学校）	
教室の概要	実施頻度	年間 20 回程度（各週土曜日の午後）
	プログラム	体育館や校庭での運動、子どもの好きなスポーツ
	子どもの参加状況	１～３年生で５０人が登録し、40 人前後が参加
	その他 特記事項	・ 市からの紹介で、熊本大生が２人参加 ・ 登録制にして、保険に加入 ・ 学校は、まったく関わっていない ・ お迎えは、各家庭の責任で、特に定めていない
教室の関わり方	完全委託型	
	受託し、安全管理員として毎回参加し現場管理	
ＳＣから参加している人材について	クラブの役員が数人で安全管理員を担当	
事業費の取り扱い	謝金	クラブに１回２人分が市から支給される
	用具	放課後子ども教室用に、市をとおして購入した用具を使っている
関わる「きっかけ」	・ スポーツの教室の担当課が社会スポーツ課になり、総合型の窓口でもあった ・ 熊本市の担当者の段階で、放課後子ども事業の一つの柱としてスポーツを考えた	
参加･協力することとした理由	・ 地域ＳＣとして、子ども向けの事業を展開するのに適当だと考えた。鍵っ子の受け皿としても必要性を感じていた ・ 「子どもの頃に、いろいろなスポーツをさせて、スポーツ好きな子を育てること、子どもが自分の好きなスポーツを見つけられる環境をつくること」はクラブ理念であり、具体的な活動として良い機会と考えた	
ＳＣが参加･協力するメリット	行政や実行委員会側	・ 現場の運営を任せられるボランティアがいる
	クラブ側	・ クラブの将来像を実現していくための良い機会 ・ 地域の子ども達の体力向上につなげられる ・ 多年代をとおした生涯スポーツの将来像実現のためのきっかけづくり ・ ニュース配布により保護者にクラブのことをわかってもらう機会が増える
課題・意見	・ 高学年まで対象とすることや、学校外での活動を進めたいが、現状の枠組ではできない ・ 備品や消耗品の予算の縛りが強く、現場で必要な物が入手しづらい ・ 保護者の参加促進 ・ モデル的に実施してきており、これから本格化するので、事業の枠組みが変わるのは困る	
クラブの規模（会員数など）	会員数約 100 人 校区の体協委員が中心となり H20.7 に設立。校区内の既存のサークルなどが参加している。専従職員はいない	

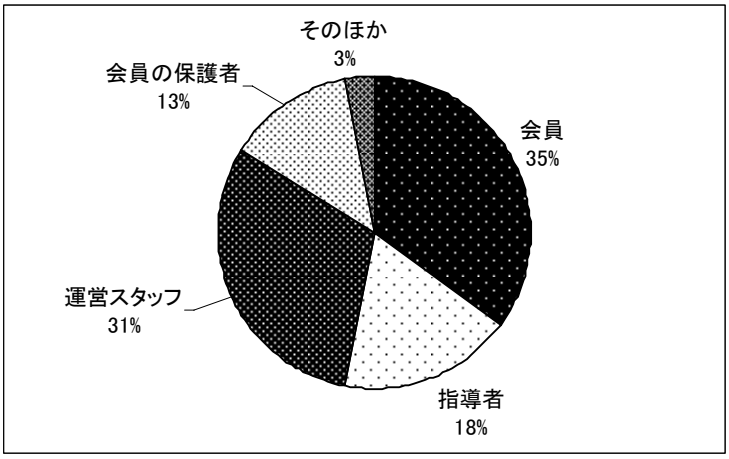
４．２．２　アンケート調査結果

（１）地域 SC 関係者（スタッフ、指導者、会員など）

- 地域 SC のスタッフや指導者は、放課後子ども教室のことを良く知っており、できれば手伝いたいと考えている方が多い。
- 地域ＳＣが放課後子ども教室に関わることは、有意義なことと考えている。

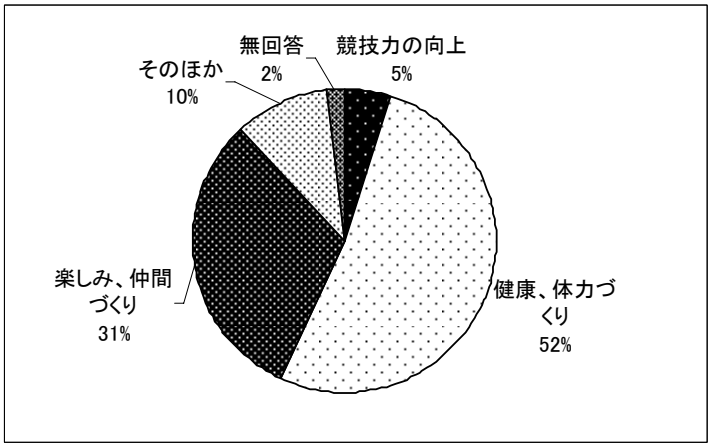
①あなたは、地域 SC にどのように関わっていますか？　一つだけ選んでください。

100 名の方から回答をいただいた。
回答者の地域 SC との関係は､右図のとおりであり、会員が３５％、運営スタッフが３１％などであった。



②クラブに入会した目的は何ですか？　一つだけ選んでください

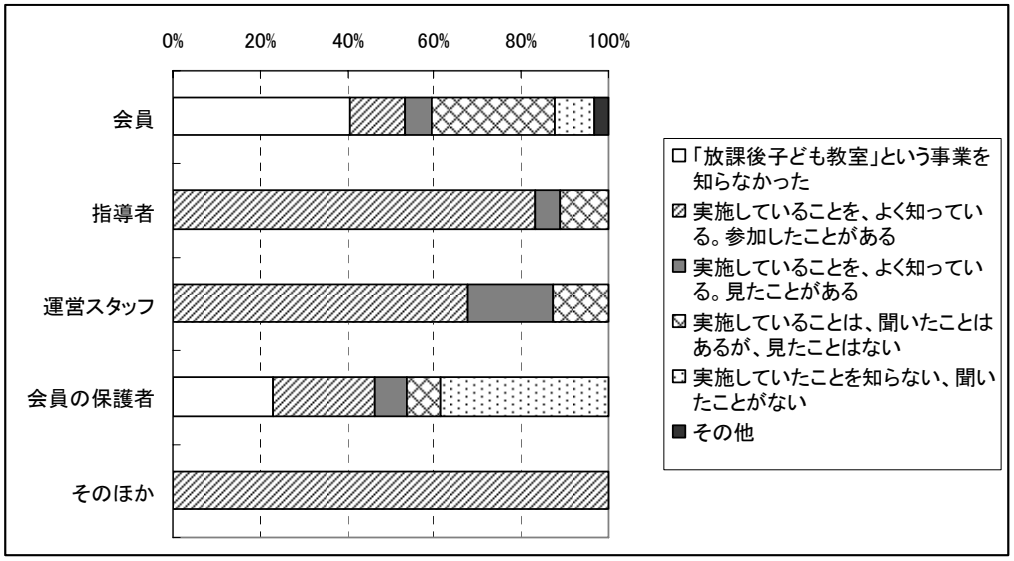
地域 SC への入会目的は、「健康体力づくり」が最も多く５２％、次いで､「楽しみ・仲間づくり」が３１％であった。



③「放課後子ども教室」をご存じですか？

地域ＳＣの会員では、「放課後子ども教室」の事業そのものを知らない方が４０％であった。参加したり見たことがある方は２０％であった。

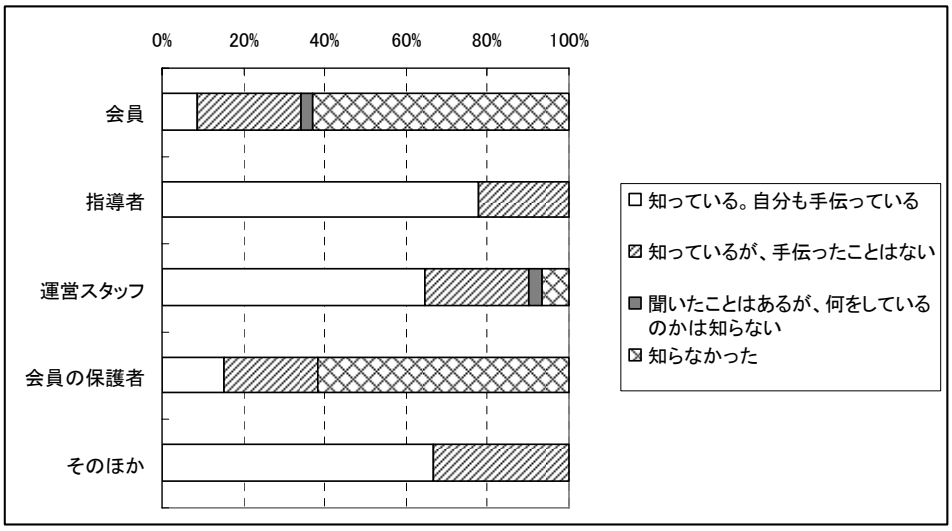
指導者や運営スタッフでは、高い割合で、認知しており参加している。



④あなたは、あなたのクラブが、「放課後子ども教室」に取り組んでいることをご存じですか？

自分の関係している地域ＳＣが「放課後子ども教室」に取り組んでいることを知らない方は、会員では６０％以上であり、会員の保護者でも６０％以上となった。

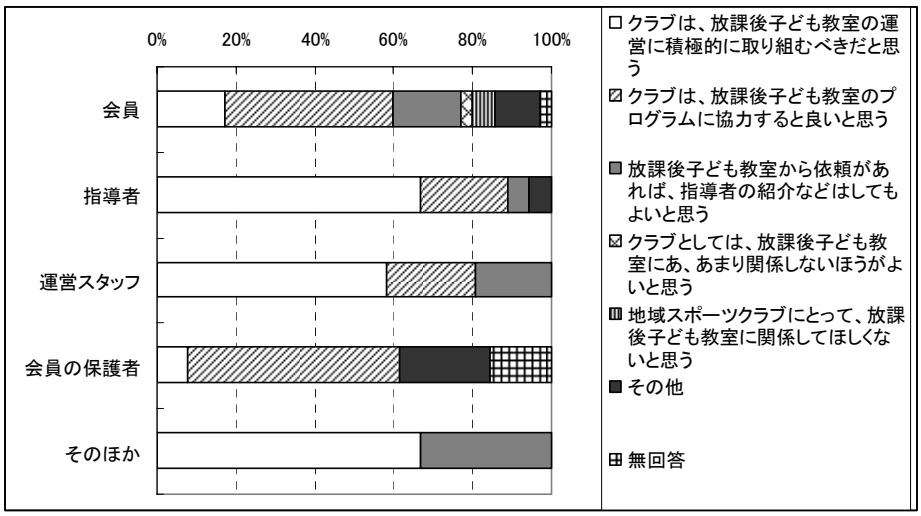
公益性の高い事業であることを考えると、組織内でもアピールが必要なのではないかと思われる。



⑤あなたのクラブが、「放課後子ども教室」に取り組むことについて、どう思われますか？

指導者や運営スタッフでは、積極的に取り組むべきが約６割となり、協力すると良いを加えると８割を超える。

一方、会員や会員の保護者では、積極的に取り組むべきは２割を切り、協力すると良いとあわせても６割程度にしかならなかった。



⑥なぜ、⑤ように思われますか？

1) 取り組むべきだと思っている理由

- 子供の成長に協力したいので
- 子供の体力酸化に良いと思うし、人との関係作りにも良いと思います。
- より地域の住民の連携と、子供たちの健全育成のために
- 子供にとって、社会（地域）との関わりは必要なこと。子供たちからも手伝いをして、みんなで作っていくべき取り組みだと思います。それに伴うお手伝いは当たり前のこと
- 地域の子供たちのために互いに協力するほうが良いと思う
- 子供同士のつながり、子供と指導者とのつながりを通じて体力づくり、コミュニケーション作りに役立っていると思う
- 地域の子供たちをより知るよい機会になるし、手伝う人が多いと子どももたくさん参加できると思われる
- 地域交流を深めることにより、より健全で安全なネットワークが広がると思うからです
- 子どもの体力 UP、楽しみをもっと感じて欲しいから
- 内容がとてもよく、クラブの意図に合っているのでいいと思う
- 子どもにとっていいことだから
- 交流の場を増やし、子ども達の育成に役立てばいいと思います
- 子どもがスポーツする事の楽しさがわかり、これからのスポーツの手助けになればいいと思う
- 放課後子ども教室への取り組みは、子ども達へのスポーツの楽しさ、友達づくりに大変良いことと思います。そのためには指導者（スタッフ）育成も必要と思います。
- 子どもの育成のため
- 運動不足の子どもが多いように思う。放課後に子どもたちが運動する事はいいと思うしクラブも積極的に取り組む事によって子ども達にもクラブにもよいと思う
- 総合型スポーツクラブは、スポーツをする場だけではなく、コミュニケーション力や地域の

様々な情報力など全てが終結する活気ある場所なので、子ども達を地域の力で育てるという意味からも適していると思う

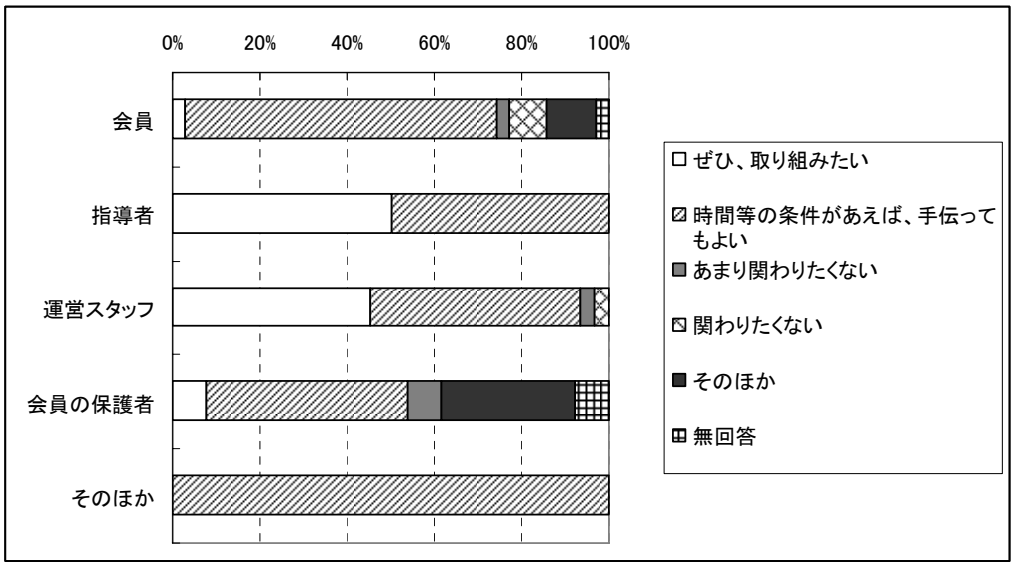
- そのための研修も受け、クラブの長所を生かせるから

2)あまり関係しないで良いと思う理由

- 時間が合わないと思います
- 活動は知っているが手伝いを出来る時間がない
- 内容がまだよく知りません
- なかなか時間に余裕がないので
- 環境的に子どもと接する機会があまりないので
- 自分の子どもが家に帰るから

⑦　あなた自信は、放課後子ども教室の取り組みに参加しようと思いますか？

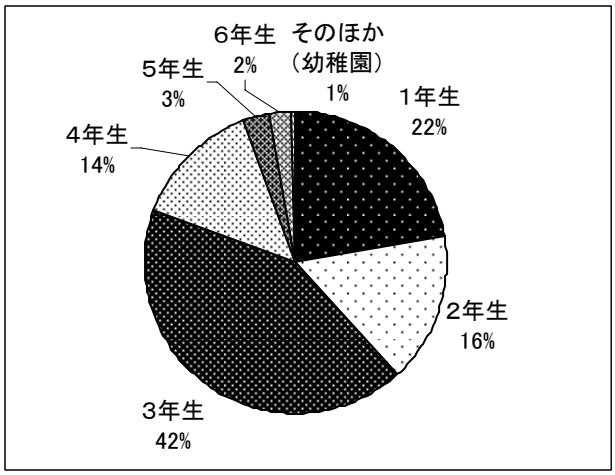
指導者や運営スタッフは、できるだけ取り組みたいと考えている。
時間等の条件があえば手伝っても良いと考える会員も多くいることがわかった。



（２）参加している子どもたちの意見

①何年生ですか

回答総数は１８０名となり、３年生が一番多く４２％となった。



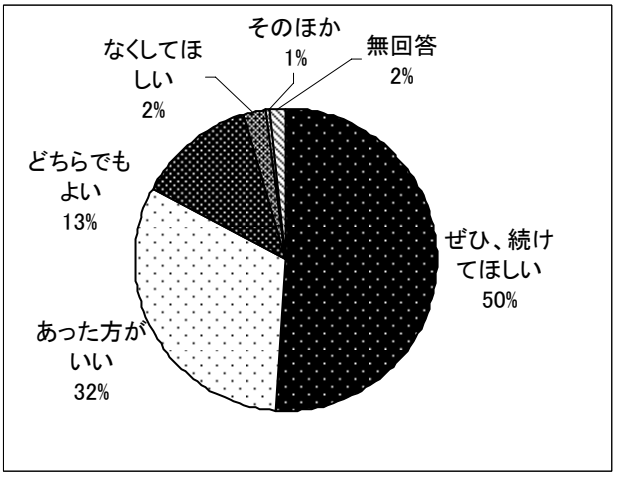
②放課後子ども教室では、何をするのが楽しいですか？　２つまで教えてください。

ドッジボールや鬼ごっこなどが人気の高いプログラムであった。

ドッジボール	74
鬼ごっこ	31
リレー	23
けいドロ	22
サッカー	21
おおなわ	20
なわとび	15
バスケットボール	14
スクーターボート	11
ボール遊び	9
ドッチビー	8
キンボール	5
ラケットベース	5
バランスボール	2

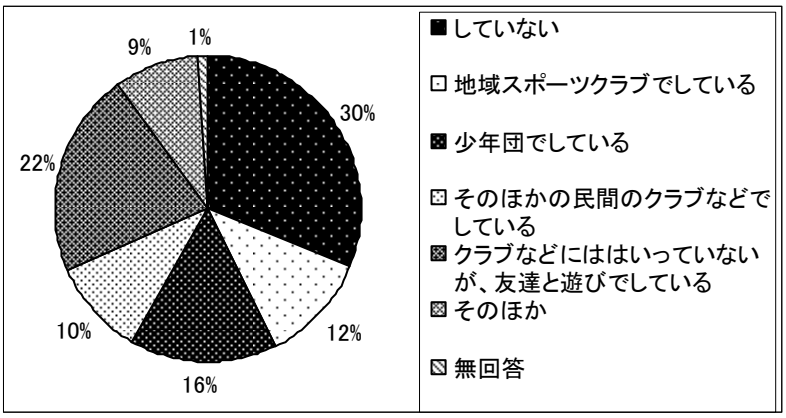
③放課後子ども教室に、スポーツの時間があったほうがいいですか？

８割以上の子が継続を望んでいる。
「なくしてほしい」と思う子も２％いた。
どちらでも良いと併せると１５％になる。



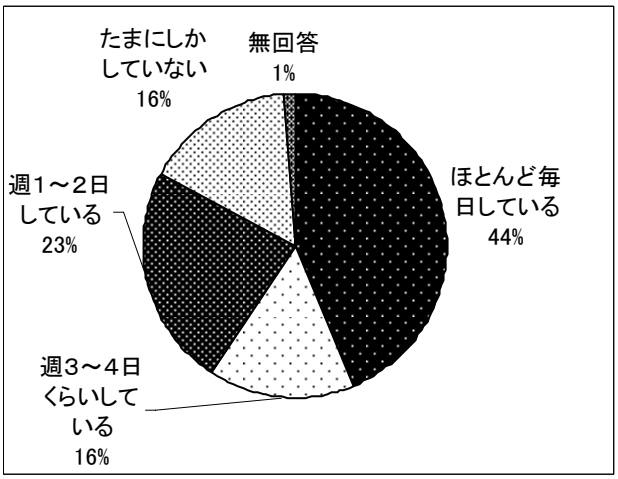
④放課後子ども教室以外で、スポーツをしていますか？（学校の体育の授業は除く）

放課後子ども教室以外にスポーツをしていない子が３０％となった。



⑤週のうち何日くらい、スポーツや外で体を動かして遊んでいますか？（学校の体育の授業は除く）

外遊びも含めて「ほとんど毎日している」子は、４４％になった。



⑥どんなスポーツをしていますか？
よくするスポーツを一つ教えてください

サッカー	35
なわとび	29
野球	22
ドッジボール	18
水泳	11
バスケットボール	6
鬼ごっこ	5
ドッチビー	3
バレーボール	3
ホッケー	3
バドミントン	2
キックベース	2
けいドロ	2

⑦他にやってみたいスポーツは何かありますか？
２つまで教えてください

野球	45
バスケットボール	35
サッカー	26
バレーボール	25
テニス	19
ドッジボール	14
トランポリン	11
跳び箱	9
水泳	8
卓球	8
ホッケー	4
ハンドボール	1

４．３　課題等への対応の状況

４．３．１　各論

（1）「きっかけ」「情報の伝達」について

多くの場合、行政担当者からの紹介であった。両事業の行政担当者間で情報が伝わりやすかった条件にあったものが多い。

また、いくつかのクラブでは、クラブのメンバーが情報をキャッチし、行政に参加を呼びかけたものもある。

地域名	きっかけ
岩手県　北上市	クラブの理事に市職員がおり、情報を紹介した
宮城県　七ヶ浜町	クラブの準備委員会に、学校の先生がいて事業を知っていた
福島県　南相馬市	政府のメルマガをみてクラブから県に問い合わせをした
群馬県　沼田市	体育課から社会教育課に異動した市職員が紹介した
埼玉県さいたま市	居場所づくりのアドバイザーが、クラブのメンバーにいた
東京都　八王子市	市から学校と地域（自治会）に案内があり、自治会役員とクラブ役員が重複していた
静岡県　藤枝市	放課後子どもと地域 SC の担当課が隣合わせで情報が伝わった
富山県　富山市	同上
富山県　高岡市	地区（旧村）の行政センターが両方の事業を取り扱っていた
富山県　小矢部市	生涯学習課から体育課に相談があった
石川県　かほく市	生涯学習課の職員にクラブメンバーがいた
京都府　長岡京市	市から学校施設開放委員会に紹介があり、その中心がクラブのメンバーであった
大阪府　八尾市	市から施設開放委員会に紹介があり、施設開放会議はクラブが運営していた。
徳島県　板野町	コーディネーターがクラブのメンバーにいたことと、教育委員会の職員とクラブメンバー既知であった
徳島県　美馬市	クラブマネジャーが教職員ＯＢで、情報を得ていた
高知県土佐清水市	生涯学習課から紹介があった
岡山県　総社市	きよね夢てらす（きよねＳＣの母団体）は、子どもの居場所の運営組織としてつくられたものであった
広島県　北広島市	（合併前に）両事業を同じ課で担当していた
宮崎県　小林市	行政から紹介された。小中一貫教育モデル事業に指定されたため小中をとおしてみれる学外の指導体制なども求めていた
熊本県　熊本市	スポーツの教室の担当課が社会スポーツ課になり、総合型の窓口でもあった

（２）地域ＳＣが参加・協力することとした理由

地域ＳＣが参加・協力する理由は、主に以下のようなものであった。

・クラブとして子ども向けのプログラムを展開するのに、適当な事業であると考えた
・子どもの健全育成等の受け皿として、やるべきだと考えた
・学校を利用していることもあり、頼まれたので引き受けた

地域名	参加の理由
岩手県　北上市	地域 SC として、子どもを対象とした事業に取り組むのに適当だと考えた
宮城県　七ヶ浜町	同上
福島県　南相馬市	地域 SC の設立主旨に合致しており、当然やるべきと考えた
群馬県　沼田市	地域 SC として、子どもたち向けの事業が何かできないか探していた
埼玉県さいたま市	池田小の事件を受け、特に子どもの健全育成に関心のある自治会役員や民政委員などが、地域のシニア層の力を活かして何かできないか相談をしていた
東京都　八王子市	地域 SC として、学校を利用していることもあり、頼られたので、受けた
静岡県　藤枝市	地域 SC として、子どもを対象とした事業に取り組むのに適当だと考えた
富山県　富山市	地域 SC として、子どもを対象とした事業に取り組むのに適当だと考えた
富山県　高岡市	地域 SC として、子ども向けの活動を展開するためのプラスになると考えた
富山県　小矢部市	子どもの体力・健康づくりを進めるのに、地域 SC と学校との連携は重要であり、そのきっかけとなると考えた
石川県　かほく市	子ども対象の活動を充実していきたいという地域 SC としての考え方に見合った
京都府　長岡京市	地域が一つになって、校区の様々な課題の解決にあたっていくべきであり、地域 SC は、情報や人材の総合的なネットワークであると考えている
大阪府　八尾市	地域 SC として、子ども達の健全育成のためにやるべきだと考えた
徳島県　板野町	地域 SC として、子どもを対象とした事業の充実を図るために適当であると考えた。地域内でバラバラに、似たようなことをするのは非効率と考え、地域 SC がそのネットワークとして適当であると思われる
徳島県　美馬市	子ども達の健全育成のお手伝いができればと考えた 他に受け皿がないと教育委員会が困っていた
高知県土佐清水市	スポーツの苦手な子にも楽しさを伝えるというクラブの理念と合致した
岡山県　総社市	設立の主旨に合致しており、当然自分達がやるべきことと考えた
広島県　北広島市	子ども達へのプログラム展開をする良いきっかけと考えた
宮崎県　小林市	地域 SC として、学校を利用していることもあり、頼られたので、受けた
熊本県　熊本市	地域 SC として、子ども向けの事業を展開するのに適当だと考えた。鍵っ子の受け皿としても必要性を感じていた

（３）関わり方

①事業の受託等の関係

クラブの関わり方については、以下のようなに多様な関わり方が認められた。
それぞれの地域の状況にあわせて、クラブが適当な役割を果たしていることが認められた。

・運営委員会（実行委員会）に委員として参加
・受託し、運営委員会（実行委員会）等を運営し、人材手配やプログラム企画など
・受託し、運営委員会を運営。
・依頼されて指導者を手配、派遣
・人が重複しているだけでクラブの組織的参加はない

地域名	関わり方
岩手県　北上市	運営委員会に社会教育関係者として参加。 月に１回は運動指導者を派遣
宮城県　七ヶ浜町	（子どもの居場所づくりの時には補助受けていたが）自主事業として実施
福島県　南相馬市	受託。人材手配、企画・準備を担当
群馬県　沼田市	同上
埼玉県さいたま市	受託し、実行委員会の事務局をクラブが担当。
東京都　八王子市	実行委員会の会長と副会長（事務担当）が地域 SC と同一であるが、クラブとして参加・協力はまだない
静岡県　藤枝市	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当
富山県　富山市	指導者の手配、派遣を依頼されていた
富山県　高岡市	受託し、クラブの事業として位置づけている
富山県　小矢部市	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当
石川県　かほく市	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当
京都府　長岡京市	ＳＣメンバーが中心となり、運営会議をとりまとめている
大阪府　八尾市	ＳＣメンバーが中心となり、運営会議をとりまとめている
徳島県　板野町	ＳＣのメンバーがコーディネーターとして各校の実行委員会に参加
徳島県　美馬市	各校（６校）の運営委員会のコーディネーターがクラブから参加
高知県土佐清水市	運営委員会に参加し、スポーツプログラムの実施を担当
岡山県　総社市	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当
広島県　北広島市	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当
宮崎県　小林市	受託し、人材手配、企画・準備・運営を担当
熊本県　熊本市	受託し、安全管理員として毎回参加し現場管理

②クラブから参加している人材について

地域により、人材提供の状況は大きく異なっている。クラブ内に限らず、クラブは事務局的な役割を果たし、地域内外の人材のネットワークを活かして放課後子ども教室に関わってくれる人を集めてきていることがわかる。

- クラブスタッフで実施している
- クラブのスタッフや役員などクラブ関係者で実施している
- クラブのスタッフがコーディネーターとなり、周囲からもボランティアを募っている
- クラブスタッフは単独で関わっているだけで、そのほかは地域のボランティア

地域名	関わり方（人材）
岩手県　北上市	クラブの理事１名が参加
宮城県　七ヶ浜町	クラブ職員が業務として担当している
福島県　南相馬市	クラブスタッフ１名を管理のために派遣。そのほかは、会員及びそれ以外からボランティアを募って手配している
群馬県　沼田市	指導者バンクに登録している指導者
埼玉県さいたま市	会員、そのほかからボランティアを募っている
東京都　八王子市	クラブとは直接関係がない。自治会等から募ったメンバー
静岡県　藤枝市	クラブの指導者などで実施している
富山県　富山市	クラブのスタッフと、指導者のネットワークから探している
富山県　高岡市	クラブのプログラムの指導者が中心
富山県　小矢部市	クラブの指導者やスタッフ、及び会員から募っている
石川県　かほく市	クラブスタッフが主
京都府　長岡京市	コーディネーターはクラブの副会長。そのほかは広く地域から募集
大阪府　八尾市	クラブの会員によるボランティア
徳島県　板野町	クラブスタッフと、地域からボランティアを募集
徳島県　美馬市	コーディネーターがクラブのボランティアスタッフ。そのほかはそれぞれの地域で
高知県土佐清水市	クラブの指導者が中心
岡山県　総社市	クラブのスタッフと、地域のボランティア
広島県　北広島市	クラブスタッフと会員からのボランティア参加。地域外からも指導者を依頼
宮崎県　小林市	クラブスタッフ、指導者、会員から調整して担当
熊本県　熊本市	クラブの役員が数名で担当

（４）地域ＳＣが参加・協力するメリット

①行政や実行委員会側のメリット

行政や実行委員会側として、地域ＳＣが参加・協力してくれるメリットを、以下のように考えていた。

・地域ＳＣは、放課後子ども教室の企画や人材手配、運営管理をまかせられる団体である
・子ども達にスポーツの機会を提供できる
・豊富な人材のネットワークをもっている
・多くのボランティアのスタッフがいる

■行政・実行委員会側のメリット

地域ＳＣ名	メリット
岩手県　北上市	子どもの運動指導をまかせられる 運営委員会で、居場所づくりの事業の経験などが生かされる
宮城県　七ヶ浜町	学童がパンクしている状態で、良い受け皿になっている 自主運営であり、財政的な負担がない
福島県　南相馬市	現場の管理をまかせられる人材がそろっている
群馬県　沼田市	運営をまかせられる。ニュースポーツなどを指導できる
埼玉県さいたま市	運営をまかせられる。いろいろな人材がそろっている
東京都　八王子市	運営をまかせられる。事務処理をしっかりしてくれる
静岡県　藤枝市	運営をまかせられる。子ども達の可能性を引き出したり、多年代の交流をしたりが、スポーツであれば実現しやすいと考える
富山県　富山市	地域に事業をまかせられる団体が他にみつからない
富山県　高岡市	同上。地域 SC をできるだけ活かすことが、地域にプラスになる
富山県　小矢部市	現場の管理をまかせられる人材がそろっている
石川県　かほく市	スポーツ指導者の手配、確保をクラブがしてくれる
京都府　長岡京市	現場の管理をまかせられる人材がそろっている プログラムを充実させる人材のネットワークをもっている
大阪府　八尾市	現場の管理をまかせられる人材がそろっている
徳島県　板野町	人材のネットワークがあり、情報が集まりやすいので効率的になると思われる
徳島県　美馬市	多数のボランティアのスタッフがいて現場をまかせられる
高知県土佐清水市	スポーツプログラムの運営がまかせられる
岡山県　総社市	運営をまかせられる
広島県　北広島市	いろいろな企画を立てて、創意工夫をしてくれる 行政ではそこまで動けない
宮崎県　小林市	現場の運営をまかせられるボランティアがいる
熊本県　熊本市	現場の運営をまかせられるボランティアがいる

②クラブ側のメリット

クラブ側として、放課後子ども教室に参加・協力するメリットを、以下のように考えていた。

・クラブの理念、活動主旨を実現するために適当な事業であり、良い機会である。
・クラブで行いたかった事業に補助金がでる
・地域や学校に、クラブのことを理解してもらう良い機会が得られる
・学校や行政の関係者とのネットワークができることで、今後の事業展開に有効である
・地域に貢献するクラブであることを認知してもらうことができる
・事業収入が得られる

■クラブ側のメリット（1）

地域ＳＣ名	メリット
NPO フォルダ	子ども達の環境や、体力・運動などの現況を知ることができ、クラブにフィードバックできる。地域の関係者との顔つなぎができるので、事業展開に役立つクラブを知ってもらう良いチャンス
NPO アクアゆめクラブ	クラブのＰＲになる。保護者に知ってもらえる 事業収入が得られ、収支もあう
NPO はらまちクラブ	クラブで実施すべき子ども達の居場所づくり事業にある程度の補助金がでる
NPO うすねニュースポーツクラブ	ボランティア養成、事業の企画運営の訓練の場となっている 子どもにスポーツ好きになってもらう事業が実践できた クラブの存在や考え方を地域に伝えるよい機会となった。実際に、徐々に地域からいろいろな支援を受けられるようになってきた
NPO さいたまスポーツクラブ	地域の子ども達の健全育成に貢献できれば良い そのほかのメリットは望んでいない
浅川スポーツクラブ	クラブとしてのメリットは特にない
大洲スポーツクラブ	子ども達にスポーツの機会を与えることができる クラブのＰＲになる
おおさわのスポーツクラブ	放課後子どもの事業をできる組織としての地域の期待を果たす クラブのチラシなどを学校で配れる
NPO 遊・Ｕクラブ	子ども向けのプログラムの充実。事業収入が得られる。
NPO おやべスポーツクラブ	実施したかった子ども向けの活動に、ある程度の補助金がでる 校長会や教頭会で説明の場があり関係者との顔がつながった 学校へチラシが配布しやすくなった。体育館が借りやすくなった 学生などのボランティアスタッフが係わるきっかけとなった 地域に貢献する組織と認知される（施設の減免や大人の会員増につながる）

■クラブ側のメリット（２）

地域ＳＣ名	メリット
NPO クラブレッツ	地域内での信頼性、貢献が認められる 事業収入が得られる。いくつかの事業をつぎはぎすることで、職員の雇用を確保できるだけの収入が得られるようになる
長七みんなのスポーツクラブ	地域が一つになるため、いろいろな団体と協力するきっかけとなる
竹渕キリンキッズクラブ	もともと学校との結びつきが強いので、あらためてのメリットはない
板野ぴょん太スポーツクラブ	地域ＳＣとして、子どもを対象とした事業の充実を図ることができる
スポーツクラブ美馬	子ども達とコミュニケーションをとる良い機会となりクラブに目を向けてもらえる
NPO スポーツクラブスクラム	ここでの体験をきっかけにクラブに入会する子がいる 子どもから高齢者までの交流の機会が増えた
きよねスポーツクラブ	クラブで実施すべき子ども達の居場所づくり事業に、ある程度の補助金がでるので活動の幅が広がる
スポーツクラブ　どんぐり屋台村	保護者や関係するいろいろな方々に総合型地域ＳＣのことを理解してもらう良い機会となった
西小林元気クラブ	地域の子ども達の体力向上に寄与できることでクラブ理念の具現化が図れ、多年代をとおした生涯スポーツの将来像実現のためのきっかけづくりになる 地域や学校教員にクラブのことをわかってもらう良い機会
出水南どっとネット	クラブの将来像を実現していくための良い機会。地域の子ども達の体力向上につなげられる。ニュース配布により保護者にクラブのことをわかってもらう機会が増える

（５）地域ＳＣが実施（担当）しているプログラムと考え方

地域ＳＣが実施（担当）しているプログラムは、下表のとおりであり、必ずしもスポーツ種目だけを実施しているわけではないことがわかる。

競技スポーツ種目のようなプログラムを実施しているところは少なく、体力や技量にかかわらず参加できることや、スポーツの楽しさを知ってもらうように配慮していることが、ほとんどのクラブのヒアリングから伺えた。

・コーディネーショントレーニングなど、子どもの運動能力を高めるための基礎的運動
・ニュースポーツなど、はじめての子でも参加しやすいもの
・遊びを中心に、子ども達の活動を見守っているだけの教室もある
・日舞や工作教室、オセロやトランプといったスポーツ以外のプログラムもある
・子ども達に人気のあるドッジボールなどのボールゲームなど
・クラブのプログラムに結びつくもの

地域名	プログラム
岩手県　北上市	コーディネーションを中心にゲーム性のあるもの
宮城県　七ヶ浜町	コーディネーショントレーニング他 たまに、室内での遊び（オセロ、トランプなど）も実施
福島県　南相馬市	スポーツ、外遊びなど、とんかちクラブ
群馬県　沼田市	レクリエーションやニュースポーツを中心とした遊び的要素
埼玉県さいたま市	校庭での外遊び（スポーツや昔遊び）、日舞
東京都　八王子市	主に校庭での遊び（雨天時は体育館）
静岡県　藤枝市	ニュースポーツ　など
富山県　富山市	コーディネーションやドッチボール
富山県　高岡市	トランポリン、バドミントン、水泳、テニス
富山県　小矢部市	コーディネーショントレーニング、ドッジボール
石川県　かほく市	コーディネーション、各種ボールゲーム
京都府　長岡京市	スポーツ、文化、芸能、伝統技能、漢字検定など
大阪府　八尾市	各種スポーツ、遊び（ソフトボール、バトミントン　等）
徳島県　板野町	ニュースポーツ、ドッチビー、工作教室　など
徳島県　美馬市	ニュースポーツ　など
高知県土佐清水市	野球、サッカー、バトミントン、卓球、太鼓、なぎなた　など
岡山県　総社市	スポーツ、外遊び
広島県　北広島市	スポーツ、レクリエーション
宮崎県　小林市	体育館での、各種エクササイズ（柔軟性や体幹を鍛える運動を遊びながら取り入れている）、好きなスポーツ（ドッジボールなど）
熊本県　熊本市	体育館や校庭での、各種エクササイズ（柔軟性や体幹を鍛える運動を遊びながら）、好きなスポーツ（ドッジボールなど）

（６）地域ＳＣの設立理念等

地域ＳＣが、放課後子ども教室に参加・協力する理由やメリットとして、「クラブの理念の実現や具現化」という回答が、多くのクラブからあった。

各クラブの定款等に示された目的や理念をみると、いずれも「子どもの健全育成」や「コミュニティやまちづくりの推進」を掲げている。また、スポーツだけではなく、文化的活動も位置づけているクラブが少なくない。

放課後子ども教室などは、このような目的に合致した事業であることがわかる。

また、地域ＳＣでは、「スポーツを楽しむ」「一人ひとりにあったスポーツ」ことを求めており、競技性の追求ではなく、「スポーツの苦手な子にもスポーツに親しんでもらいたい、好きになってもらいたい」と考え、誰でも楽しめるようにレクリエーションやニュースポーツなどを積極的に取り入れている。

例）はらまちクラブ定款

（目的）
第３条　この法人は、南相馬市民及び隣接する地域の人々に対して、スポーツ活動・文化活動の振興を図るとともに、社会参加を促進する事業を行い、公益の増進に寄与することを目的とする。
（特定非営利活動の種類）
第４条　この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。
（１）スポーツの振興を図る活動
（２）子どもの健全育成を図る活動
（３）まちづくりの推進を図る活動
（４）前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

例）おやべスポーツクラブの役割（ＨＰより）

○一人ひとりの生活に応じたスポーツ環境を整え、住民の健康の保持・増進を図ります。
○子どもから高齢者・障害者までが、継続してスポーツ・文化活動に親しむことができる環境を整えます。
○社会教育の場として地域コミュニティを形成し、子どもたちの健全育成に寄与します。
○様々なスポーツ・文化活動を展開し、活気ある地域づくり、他に誇れるまちづくりを推進します。

例）アクアゆめクラブ理念

○スポーツを楽しめる場所づくりを進めます
○地域の人がふれあい、明るく健全な地域コミュニティの推進を行います
○幅広い年齢層が参加でき、多種目のスポーツを楽しめるようにします
○スポーツを通じて青少年の健全育成をすすめます
○スポーツの専門的な指導者を育成し、指導を受けることによる競技力の向上を進めます

例）スポーツクラブスクラム　スポーツクラブ憲章（抜粋）

○年齢や性別を問わず、地域の誰もが会員になることができ、スポーツ・体力づくり活動および文化活動等に会員がたのしく参加できるクラブです。
○スポーツ・文化活動のなかで、青少年の健全育成を行う視点に立ち、子供たちが多くのスポーツを体験し、たのしく・いきいきと活動するクラブです。
○全ての会員がボランティアシップを発揮し、会員みんなで支えあって発展させていくクラブです。

（７）地域ＳＣの規模等

調査を行った20クラブのうち、９クラブがNPO法人化をしていたが、（３）項で整理したように、法人化と事業受託の関係は特にない。クラブの規模も会員数が100名未満～2,000名を超えるクラブまである。また、設立準備段階の時点で、取り組みやすい事業として始めているところもあり、組織の成熟度とは特に関係のないことがわかる。行政担当者の中には、設立間近のクラブにとって取り組みやすい事業であろうと考えて紹介をしている例もみられた。

地域ＳＣ名	組織・規模・会員数等
NPOフォルダ	会員数約600名。市の複数のスポーツ施設の指定管理者を受けており、2009年度は15名の職員体制を予定している。
NPOアクアゆめクラブ	会員数約600名。町のスポーツセンターの指定管理者を受け、職員３名、パート10名で推進
NPOはらまちクラブ	H18.3設立。地域振興・福祉など幅広く取り扱う。NPO正会員約70名の他、少年団組織等が参画。サンライフ南相馬の指定管理受託。
NPOうすねニュースポーツクラブ	H15.12に地域振興協議会が中心に設立。会員数約300名。指導者派遣バンクを設け40名が登録。
NPOさいたまスポーツクラブ	H15.4設立のさいたまスポーツクラブとH19.2設立の見沼スポーツクラブが合体。
浅川スポーツクラブ	H17.9に、地区の体育指導委員を中心に、既存サークルが集まり設立。７種目のサークルで60名
大洲スポーツクラブ	H19.3設立、H20.3にNPO法人化。地区の体育振興会などが中心。
おおさわのスポーツクラブ	H17.3設立。会員数約200名。旧大沢野町武道センターの指定管理。専従1名。
NPO遊・Ｕクラブ	H14.3設立。会員数約600名。B&G海洋センターの指定管理を受け活動。
NPOおやべスポーツクラブ	H12設立、H18NPO法人化。会員数約2,100名。市スポーツ文化センターの指定管理を受け活動。専従職員有。
NPOクラブレッツ	H15設立。会員数1,200名。かほく市宇ノ気中学校と併設された市体育センターの指定管理を受け活動。専従職員５名。
長七みんなのスポーツクラブ	H18.5に校区の体育指導委員が中心となり設立。会員数個人75名サークル：15団体（360名）。校区単位で地域づくりを進めるための総合的な組織として活動。
竹渕キリンキッズクラブ	H16に設立し、会員数約100名。竹渕小の校庭利用団体によるボランティアで運営。
板野ぴょん太スポーツクラブ	H18.3に設立し、会員数約160名。町立田園パーク・スポーツセンターの指定管理を受け活動。
スポーツクラブ美馬	H16.3設立し、会員数約300名。美馬公民館の指定管理を受け、ボランティアスタッフで運営。
NPOスポーツクラブスクラム	H16.3に設立し、H16.11にNPO法人化。会員数約900名。23種目41サークル。市民体育館の指定管理者。
きよねスポーツクラブ	会員数約800名。NPOきよね夢てらすの中の一部門としてH14設立。きよね夢てらす職員3名の他、ボランティアスタッフが多数参加。
スポーツクラブ　どんぐり屋台村	会員数約450名。ウィングとよひらを拠点に、専任の事務局員が3名。
西小林元気クラブ	会員約200名。地区の体育指導委員が中心となりH20.3に設立。バドミントン、ミニバレー、エアロビ、トランポリンなど既存のサークルにはなかったものを展開。専従職員はいない。
出水南どっとネット	会員約100名。校区の体協委員が中心となりH20.7に設立。校区内の既存のサークルなどが参加している。専従職員はいない。

（８）実施上の諸条件の取り扱い

①謝金の取り扱い

謝金の取り扱いについては、大きく３つに分けられた。

- 自治体から個人に支給される
- 自治体からクラブが一括して受け取り、クラブが調整して個人に支給

プログラムにより行政が事業計画で定めた人数以上に必要な時や、スタッフの都合で多くの人数が参加できる時などもあるため、参加者の同意のもと、頭割りをし直したり、補填をしたりしているクラブもある。

また、委託費として事業収入に組み込み、謝金等はクラブの規定に基づき支給しているクラブもあった。

地域名	補助金・謝金の取り扱い
岩手県　北上市	運営委員会への委員としての参加と指導者１名の派遣のため、参加する個人に市から支給されている
宮城県　七ヶ浜町	子どもの居場所事業終了後は、会費制の自主事業で運営しており、補助金は受けていない。全額クラブの収入
福島県　南相馬市	謝金は、市から個人に払われている。クラブとしては参加者のリストを市に提出する
群馬県　沼田市	日によって事業で決められた人数よりも多くの指導者が必要な時もあるので、クラブが一括して受け取り、参加者で頭割り
埼玉県さいたま市	クラブが参加者リストをつくり、市から一括受け取り、クラブから個人に支給。予算を超える時があるが、クラブが一部補填している
東京都　八王子市	提出リストに基づき、市から個人に支給
静岡県　藤枝市	クラブが一括して受け取り、クラブ内の規定に基づいて処理
富山県　富山市	居場所づくりの時にはクラブで一括受け取り。放課後子ども教室は、これから調整（H21 以後実施予定）
富山県　高岡市	クラブが一括受け取りし、クラブ内の規定に基づいて処理
富山県　小矢部市	クラブが一括受け取りし、クラブ内の規定に基づいて処理
石川県　かほく市	クラブが一括受け取りし、クラブ内の規定に基づいて処理
京都府　長岡京市	市から個人に支給されている
大阪府　八尾市	無償ボランティアで実施している
徳島県　板野町	クラブが一括受け取りし、クラブから個人へ支給
徳島県　美馬市	市から個人に支給されている
高知県土佐清水市	市から個人に支給されている
岡山県　総社市	クラブが一括して受け取り、クラブ内の規定に基づき処理
広島県　北広島市	クラブが一括して受け取り、クラブ内の規定に基づき処理
宮崎県　小林市	クラブが参加者リストをつくり、市から一括受け取り、クラブから個人に支給。予算を超える時があるが、クラブが一部補填している
熊本県　熊本市	クラブに１回２人分が市から支給される

②用具について

クラブの用具を利用しているクラブも少なくなかった。

多くのクラブから、用具の購入等について、クラブ側であらかじめ購入したりすることが認められず、市区町村の担当者が購入して現地に持ってくることについて、効率の悪さを指摘する意見が出された。

地域名	用具について
岩手県　北上市	必要に応じてクラブのものを利用することもある
宮城県　七ヶ浜町	自主事業であり、全てクラブのものを利用するが、一部学校の備品等も使用することがある
福島県　南相馬市	学校の備品と、必要に応じて市が用意するものを使用
群馬県　沼田市	クラブや学校のものも利用する。県の体協・レク協等からも借りてくることがある
埼玉県さいたま市	市から必要に応じて支給される。クラブの用具は利用している
東京都　八王子市	放課後子ども教室用に市が用意したものを利用している
静岡県　藤枝市	クラブで用意したものを使っているが、体協などからも借りる 事前に予算化しておけば、市でも購入してくれるものもある
富山県　富山市	以前は、クラブで用意していた。今後はこれから調整
富山県　高岡市	クラブのものを利用している
富山県　小矢部市	クラブのものを利用している。学校備品もものによっては使う
石川県　かほく市	必要に応じてクラブのものを利用することもある
京都府　長岡京市	必要に応じてクラブのものを利用することもある
大阪府　八尾市	クラブのものを利用している
徳島県　板野町	学校の備品と、必要に応じて市が用意するものを使用
徳島県　美馬市	学校の備品と、必要に応じて市が用意するものを使用
高知県土佐清水市	市民体育館内の用具を使用、クラブで購入した用具も共用している
岡山県　総社市	クラブのものを利用することもある
広島県　北広島市	クラブのものを利用することもある。施設の備品を使う
宮崎県　小林市	放課後子ども教室用に市をとおして購入した用具を使っている
熊本県　熊本市	放課後子ども教室用に市をとおして購入した用具を使っている

③場所や時間について

クラブの職員が業務の一環として対応している場合や、地域の主にシルバー世代のボランティアを中心に活動している場合などは、平日の放課後に、それぞれの小学校に出向いて実施している。が、クラブの指導者や役員が対応できるように、主に週末に実施している地域や、学校ではなく、クラブの活動拠点である公共スポーツ施設で実施している地域もあった。

また、市域が広く小学校までの距離もとおい地域などでは、平日の開催は、交通手段がや実施時間が課題となることから、子どもたちの参加しやすさも考慮して週末に実施している地域もあった。

地域名	場所や時間
岩手県　北上市	クラブの職員が平日放課後に小学校に出向いている
宮城県　七ヶ浜町	クラブの職員が平日放課後に小学校に出向いている
福島県　南相馬市	クラブの職員やボランティアが平日放課後に小学校に出向いている
群馬県　沼田市	スポーツプログラムは指導者が参加できる土曜日に小学校で実施している
埼玉県さいたま市	地域のシニア世代のボランティアが、平日放課後に小学校に出向いている
東京都　八王子市	地域のシニア世代のボランティアが、平日放課後に小学校に出向いている
静岡県　藤枝市	スポーツプログラムは指導者が参加できる土曜日に小学校で実施している
富山県　富山市	公共の体育施設で、平日の放課後に実施していた
富山県　高岡市	指導者が対応できる夕方～夜に、クラブの活動拠点で実施している
富山県　小矢部市	クラブの職員が平日放課後に小学校に出向いている
石川県　かほく市	クラブの職員が平日放課後に小学校に出向いている
京都府　長岡京市	学習アドバイザーの都合等も考慮し、平日放課後や週末などに学校や周辺地域で実施している（学外に出て行くこともある）
大阪府　八尾市	地域のシニア世代のボランティアが、平日放課後に小学校に出向いている
徳島県　板野町	クラブのボランティアスタッフが、コーディネーターや学習アドバイザーとして平日放課後に小学校に出向いている
徳島県　美馬市	クラブのボランティアスタッフが、コーディネーターとして平日放課後に小学校に出向いている
高知県土佐清水市	関係者が対応しやすい土曜日に、スポーツは体育館で、そのほかは図書館など各地で実施している
岡山県　総社市	クラブの職員が平日放課後に小学校に出向いている
広島県　北広島市	平日は放課後にクラブの職員が、クラブの拠点施設で対応し、離れた学校の子どもたちも参加できるように週末も実施している
宮崎県　小林市	クラブのボランティアが平日放課後に小学校に出向いている
熊本県　熊本市	クラブのボランティア（役員など）が対応できる土曜日に小学校で実施している

（９）地域から指摘のあった課題や意見

主に、以下のような課題や意見が、市区町村担当者や地域SCの担当者から出された。

特に、事業の継続性については、いずれの地域でも大きな関心事となっていた。地域内の数校でモデル的に試行してきており、これからさらに拡大していこうとする時に、３年間程度の期間で事業の枠組みなどに変更があるのは、地域としては受けきれずに困るという意見が強く出されていた。

○事業の継続性について

・放課後子ども教室事業となって、地域がやっとなれてきたところで、事業内容などが変わるのは困る。
・地域でのニーズはますます高まっていくと考えられ、この事業は続けなければいけない。

○事業費の枠組みについて

・謝金の額などが固定的で、地域の実態にあわない。
・共働きが多く、放課後に活動できるボランティアの確保が難しい。決められた枠組みで人材が確保できない場合もある。お金の使い方は地域にまかせてほしい。できないよりは、少しでもできる方向に工夫して使いたい
・しっかりとした内容を継続していくためには、人材にみあった単価設定をするべきである。地域ＳＣであれば、こういったいくつかの事業を組み合わせることで、若者の雇用を確保することもできる。ボランティアへの謝金だけでやっていく事業ではないように思われる。
・用具などは、事業ごとに別々に用意したり、保管したりするなど、不合理。使い方は、地域にまかせてほしい。

○予算の確保について

・県や市区町村が財政的に厳しいことで、全体が縮小してしまうことが懸念される。
・実施校を増やしたいが、市の予算がないのでできない。

○実施場所や頻度など

・地域の資源を活かすためには、学校以外の施設を使った方が良いこともある。
・目標として示される回数を、最初から目指そうとすると無理がある
・できることをできるところから実施していくことが、実施しないよりも意味がある。

○学校との関係

・学校と関係がない事業ではない
・子どもの体調、様子など学校の先生と連携をとりたい。

○子どもたちの参加について

・希望者が増えた時に、受け入れきれない（人材、施設などの面で）
・障害を持った子どもへの対応なども考えることが必要

■地域から出された主な課題や意見

地域名	課題
岩手県　北上市	市内の全校に広げようとすると、人材の確保や市として予算の確保が困難
宮城県　七ヶ浜町	障害を持つ子どもへの対応を今後は考えていかなくてはならない
福島県南相馬市	国・県・市が 1/3 ずつなので、県の財政状況から予算が減額となることで全体が縮小することが懸念される 予算の細かい使い方を行政が決めずに、現場にまかせると良い。条件はそれぞれだから、うまく活かす方法は現場で考えると良い
群馬県　沼田市	参加する子ども達がもっと増えた時に受けきれない
埼玉県さいたま市	指導員１名と安全管理員 10 名以下と決められているが、スタッフがそれ以上集まる時も少なくなく、謝金の調整が手間となる 低学年が主体となっているが、高学年に広げていくには、見合った人材の確保に不安がある
東京都　八王子市	ボランティアをしたいという申し出があるが、やたらと人数を増やすと、（予算の都合から）一人あたりの参加回数・頻度が減り、子ども達と疎遠になるのも都合が悪い
静岡県　藤枝市	人数がもっと増えたり、回数の要望がもっと多くなったりした時に、現在のスタッフだけでは受けきれない
富山県　富山市	謝金の設定額が低いので、人材が確保できない
富山県　高岡市	放課後の時間帯にボランティアでこれを支え続けられる地域ではない。予算をもっとつけたり、参加費をとったりして、しっかりと人材を確保すべきと思う
富山県　小矢部市	謝金の額が低い。意義を認めて、予算をしっかりつけていってほしい 回数を増やしてほしいという要望が多いが、そうすると人材確保が難しくなる
石川県　かほく市	謝金の額が低すぎる。ボランティアだけにまかせるような施策ではしっかりしたものができないのではと思う。委託費をもう少し高めて、もっと多くのことを地域 SC にまかせられるようになれば、さらに良いものとなる
京都府　長岡京市	将来的にも、事業が維持されるかどうかの不安。なくしてはいけないと思う 有償ボランティアという考え方に理解を広めていくことも必要
大阪府　八尾市	特にない
徳島県　板野町	町の窓口への情報が縦割りでバラバラにはいってくるため、現場で理解しづらい 安全管理員の資質を高める必要があるのではないか ３年目でやっと地域が慣れてきたところで事業の枠組みを変えてほしくない
徳島県　美馬市	国や県が事業を継続するかどうかが最も心配 場所がない（高学年の授業中には、校内に敷地的余裕がない）
高知県土佐清水市	学校と活動拠点の距離があり、移動が困難
岡山県　総社市	謝金の額や消耗品の購入方法など、細かく決められすぎており、実態にあわない
広島県　北広島市	地区内の小学校に対応したいが、各校ごとに実施するのは難しい 一カ所で行いたいが距離が離れており、子ども達の移動が困難
宮崎県　小林市	学校外、例えば、クラブの拠点などでも実施できれば良い 子どもの体調等について教職員との情報交換がもっとできると良い
熊本県　熊本市	高学年まで対象とすることや、学校外での活動を進めたい 備品や消耗品の予算の縛りが強く、現場で必要な物が入手しづらい モデル的に実施してきており、これから本格化するので、事業の枠組みが変わるのは困る

４．３．２　まとめ

（１）情報の伝達

放課後子ども教室事業の担当者から総合型地域ＳＣの担当者に話しが伝わり、そこから地域ＳＣへの呼びかけが行われた例が多い。

なかには、地域ＳＣのメンバーが、いち早く情報を収集し、行政側に働きかけたものもあった。

（２）地域ＳＣが参加・協力することについて

行政側としては、地域のボランティア活動の受け皿組織として、他に適当な団体がないことや、近年課題となっている子どもたちの体力不足のことなどを勘案し、地域ＳＣに参加をよびかけようと考えた。

また、ある程度の事業費がでて、地域ＳＣの活動主旨に沿ったものであると考え、地域ＳＣの活動の支援として紹介している事例もある。

地域ＳＣとしては、理念に青少年の健全育成や、子どもたちの健康・体力づくり、スポーツの苦手な子達の参加を促すなどの目的を掲げているところが多く、事業主旨と合致するものと考えて参加・協力を進めている。

また、地域ＳＣとしては、活動主旨を地域に知ってもらうことも大きなメリットと考えている。

（３）参加・協力の形態について

参加・協力の形態は、様々で、市区町村が開催している運営委員会の委員としての参加から、事業を受託して、企画～人材手配～現場運営まで行っているクラブまで様々であった。

地域ＳＣのスタッフや会員だけで担っているわけではなく、ネットワークを活かして地域の様々なボランティアの手配なども行っている例が少なくないことがわかった。

（４）担当しているプログラム等について

必ずしもスポーツ種目を実施しているわけではない。また、実施している場合でも、競技スポーツ種目のようなプログラムを実施しているところは少なく、体力や技量にかかわらず参加できることや、スポーツの楽しさを知ってもらうように配慮していることがわかる。

スポーツプログラムを導入しても、指導の行き過ぎによる子どもの自主性が損なわれたり、スポーツの不得手な子どもの参加が得にくくなったりすることを防ぐことは、十分に可能であると考えられる。

（５）地域ＳＣの規模等について

設立準備段階の時点で、取り組みやすい事業として始めているところもあり、地域ＳＣの規模と事業への参加・協力は特に関連性がないものと思われる。

（６）実施条件面での課題について

謝金の設定をもう少し高めてほしいという意見が多かった。

各クラブとも、予算の中で調整をして実施している。クラブとして補填しているところもあり、総合型として地域の大人が子どもたちの育成環境を支える自負が感じられるものであった。

保護者、関係者の同意のもと、若干の会費を集め、クリスマス会の開催費用や活動のさらなる充実に用いている事例もみられた。

クラブの用具の共用などもふまえ、用具の購入費用などについても予算の使い方に柔軟性を求める意見が多く出されていた。

実施日については、曜日により参加対象を変えるなど、現実的に子どもたちが参加できるよう考慮しながら設定している。また、指導者やスタッフのそろいやすい週末に実施したり、平日でもやや遅くにクラブの拠点施設で実施するなど、無理なく継続して実施できるようにしていることがわかった。

５．連携推進のための検討

５．１　放課後子ども教室と地域ＳＣの連携の現状

５．１．１　参加・協力状況

- 多くの放課後子ども教室でスポーツプログラムを導入しているが、適当な指導者の不足や怪我への不安といった課題を抱えている。
- スポーツプログラム導入により「子どもたちのコミュニケーションの向上」が効果として認められている。
- 放課後子ども教室に、何らかの協力・参加をしたいと考えている地域ＳＣは、とても多い（アンケートでは９割が相当）
- しかし、実際に参加・協力している地域ＳＣは３割程度にすぎなかった。

①放課後子ども教室におけるスポーツプログラムの導入状況

- アンケート調査の結果、回答のあった１３４カ所の放課後子ども教室のうち、７３％にあたる９８カ所でスポーツプログラムを実施していた。
- このうち「適当な指導者の不足」を課題としたのが４４カ所、「怪我がこわい」を課題としたのが４２カ所あった。
- スポーツプログラムには、「子ども達のコミュニケーションの向上」や、「体力づくり」「礼儀やルールを覚える」ことなどが期待されていた。
- スポーツプログラムを導入していない３６カ所の教室のうち、その理由として「面倒をみることができるスタッフや指導者がいない」としたのは１８カ所であった。

②地域のスポーツ団体の参加・協力の状況

- 地域にある少年団や大人のスポーツサークルが、放課後子ども教室に協力的であると考える受託団体は２９％であった。
- 総合型地域SCが、放課後子ども教室に協力的であると考える受託団体は４３％であった。
- 放課後子ども教室への協力が進まない原因としては、情報が不足していると考えられている。

③総合型地域ＳＣの参加・協力状況

- 放課後子ども教室を受託、もしくは何らかの形で参加・協力している総合型地域ＳＣは、アンケート回答１３１団体のうち、４１団体、３２％にすぎなかった。
- 事業受託をしたいと考えている地域ＳＣは３３％、何らかの形で「参加・協力すべき」をあわせると、９０％の地域ＳＣが、放課後子ども教室に関わっていくことを望んでいた。
- 放課後子ども教室に参加・協力してきた地域ＳＣは、「地域の諸団体との協力、連携のきっかけができた」ことを効果として感じており、「良くなかったことは特にない」とするクラブが多か

った。

- 放課後子ども教室に参加・協力していないのは、「放課後子ども教室のことを良く知らない」、「行政から声をかけられなかった」などが主な理由であった。
- 事例ヒアリング調査では、放課後子ども教室の実施における実行組織の受け皿として、行政側としても総合型地域ＳＣに大きな期待を寄せていることが伺えた。
- 多くの自治会、町会組織等は新たなボランティア活動を負いづらい状況にあり、子どもの健全育成などに対して積極的に取り組む組織としての地域ＳＣの存在意義があると認識されていた。
- 単にスポーツプログラムを指導するだけではなく、地域のボランティアのとりまとめ役としての機能を果たしていることもわかった。

５．１．２　連携における地域ＳＣの役割

事例調査等から、放課後子ども教室に参加・協力している地域スポーツクラブの役割は、おおよそ４つのタイプに分類された。

	タイプ名	地域ＳＣの役割
A	完全委託型	放課後子ども教室の企画､運営を地域ＳＣが主として行っている。指導者やスタッフの手配も、主に、地域ＳＣの中でまかなっている。
B	実行委員会運営型	地域の諸団体と実行委員会をつくり、そのコーディネーターや事務局として地域ＳＣが機能している。
C	実行委員会参加型	地域の諸団体からなる実行委員会に、委員の一員として地域ＳＣが参加し、一部のプログラムの企画や人材手配を担っている。
D	プログラム協力型	地域の実行委員会や市区町村の要請で、人材を派遣したり、用具を提供したりする。

地域ＳＣが参加・協力していても、スポーツプログラムを指導するのではなく、ボランティアスタッフがコーディネーターを担っていたり、会員がボランティアとなり子どもたちの遊びを見守る安全管理員になっていたりする。

クラブのよっては、複数のコーディネーターが参加し、コーディネーターのネットワークがクラブ内でできあがっている例などもみられた。

５．２　放課後子ども教室と総合型地域スポーツクラブの連携の効果

５．２．１　市区町村行政の立場から

放課後子ども教室に、地域ＳＣが参加・協力することについて、市区町村の放課後子ども教室推進事業の立場からみた効果・評価は、主に次ぎのように整理できる。

（１）新たな地域活動の受け皿の確保

- 自治会、町会といった既存の地域自治組織に、新たな地域活動を依頼するのが、困難な状況になっている。
- そのような中で、地域ＳＣは、事務機能等も備え、新たな世代も参加しやすい、地域住民を結ぶ組織としての機能を期待されており、事例調査を行った各地では、実際にその役割を果たしている。

（２）地域の人材や知恵の新たなネットワークづくり

- 地域ＳＣは、自治会や町会などの義務的なものではなく、自分の好きなことに関わることで参加しやすいという面も持っている。
- このため、年齢や職業などに関わらず地域のいろいろな方が参加しており、その中にはいろいろな資格や得意技をもった人材がいることが期待できる。
- 特に、スポーツやレクリエーションといった放課後子ども教室のプログラムとして活用できる分野の人材がそろいやすい。
- それぞれのスポーツ種目でのネットワークも擁しており、他の地域の人材なども手配することができる。

（３）子どもの健康・体力づくりの推進

- 子どもたちの体力低下問題が指摘されている中、スポーツや遊びのプログラムを提供でき、子どもたちの健康・体力づくりが進められる。
- 特に地域ＳＣは、スポーツの楽しさや参加のしやすさを伝えることを、理念として掲げていることが多く、技量や体力が異なる子どもたちでも参加しやすいプログラムを実施することが期待できる。

５．２．２　地域のコーディネーター（放課後子ども教室を運営する）の立場から

放課後子ども教室に、地域ＳＣが参加・協力することについて、地域の放課後子ども教室の実行委員会等の立場からみた効果・評価は、主に次ぎのように整理できる。

（１）新しいプログラムの導入が可能となる

- 地域ＳＣが参加、協力することで、スポーツやレクリエーションなどの新しいプログラムを増やしていきやすくなる。
- そのための指導者や、用具の手配が容易となる
- また、地域ＳＣには世代や職業に関わらないたような人材が参加していることから、スポーツにかかわらず新しいプログラムの導入が期待できる。

（２）安全管理の充実

- 応急措置などの講習を実施している地域ＳＣは少なくない
- このため地域ＳＣのスタッフや会員は基本的安全管理への知識を有していることが期待できる。
- したがって、安全管理員が確保しやすくなることが期待できる。

（３）地域に事務局機能が確保できる

- 地域ＳＣは、クラブハウスなどの事務局機能を有していることが多い。
- また、補助金の申請や、事業の企画づくりなどにもなれた人材がいることが期待できる。
- 若い世代でＩＴに詳しいメンバーなどがいることも期待できる

（４）新たな地域人材の発掘

- 自治会や町会などには、時間的制約などから参加しづらい世代も、地域ＳＣには参加している。
- スポーツの普及・振興、子どもたちの健全育成などを理念として集まっている組織なので、スポーツプログラムの実施や子どもたちの健全育成のためであれば、力を貸してくれる方が少なくない。

５．２．３　地域ＳＣの立場から

放課後子ども教室に、地域ＳＣが参加・協力することについて、地域ＳＣの立場から見た効果・評価は、主に次ぎのように整理できる。

（１）理念の実現

- 青少年の健全育成や、スポーツ好きな子どもを増やすことなどを、活動の理念として掲げている地域ＳＣが多い。
- 放課後子ども教室の主旨は地域ＳＣの理念と共通する部分が多い。
- したがって、放課後子ども教室に参加・協力することは、自分たちの理念の実現につながり、自らの存在価値を高めることであると考えられる。

（２）存在のＰＲ・ネットワークづくり

- 行政関係者や、地域の種々の団体との調整等をとおして、地域ＳＣの存在や、その活動をしってもらうことができる
- 地域ＳＣの日常的な活動の展開においても、施設の利用調整などで理解を得やすくなり、活動しやすくなる。

（３）会員や指導者の意識が高まります

- クラブのプログラムに参加するだけであった会員が、ボランティアとして地域に貢献するとともにクラブの理念の実現に貢献する場ができ、会員の意識が高まります。
- クラブの指導者が種目の枠を超えて交流したり、指導者と会員が一緒になって事業を成功させる機会などが得られることで、地域ＳＣの一員としての自覚が深まります。

（４）会員や収入の増加

- 事業受託することにより、事業収入を確保できる。
- 放課後子ども教室で体験することで、関心をもったり、指導者との人的つながりができたりすることで、クラブのプログラムに参加する会員の増加につながることも期待できる。

５．３　放課後子ども教室と地域ＳＣ連携上の課題の解決にむけて

５．３．１　連携上の課題の整理

アンケート調査及びヒアリング調査等から、放課後子ども教室と地域ＳＣの連携を推進する上での課題は、次のように整理できる。

①放課後子ども教室の情報が、地域ＳＣに伝わっていない

- 子どもの健全育成やスポーツ好きの子どもを増やすための普及活動に取り組みたいと考えている地域ＳＣが多い。
- 放課後子ども教室は、こういった活動の展開には適していると考えられ、何らかの参加・協力をしたいと考える地域ＳＣは、かなりの割合になる（アンケートでは９割の地域ＳＣが参加協力意向を示していた）
- しかしながら、放課後子ども教室の事業内容について知らなかったり、実施に際して声がかからなかった地域ＳＣが少なくなかった。

②「スポーツ」に誤ったイメージがもたれている

- スポーツプログラムは、子どもの自主性が損なわれることや、苦手な子が参加しにくくなることなどが懸念されるとして、地域ＳＣの参加を望まないという意見があった。
- しかし、地域ＳＣの参加、協力＝必ずしもスポーツプログラムの実施ではなく、地域ＳＣは、いろいろな役割を果たしていた。
- また、スポーツであっても、競技スポーツと異なり、誰でも参加しやすいニュースポーツやレクリエーションなどもあり、多くの子が参加しやすくすることはできる。

③地域ＳＣが加わることのメリットが理解されていない

- 地域ＳＣが、地域住民の新たな社会参加の形であり、事務局や人材のネットワークなど、既存の地域活動にはあまりなかった機能を有していることが理解されていない
- また、地域ＳＣも、放課後子ども教室事業に参加することのメリットがわからず、面倒な調整ごとばかり増えるという意識がある。

④放課後子ども教室事業の実施条件面での制約

- アンケートからは、謝金や用具購入などの予算面、実施頻度（回数）や場所などの条件が、地域ＳＣの活動とあわないことを懸念する意見が数多く出された。
- 事例ヒアリングの各地域では、それぞれ地域の実態にあわせて工夫をしながら実施していることもわかった。

５．３．２　課題解決のための方策

（１）事業情報の共有化

＜課題＞

- 総合型地域ＳＣに、放課後子ども教室への参加協力の打診がない。
- 総合型地域ＳＣがどのようなことをする組織なのか、十分に知られてはいない。
- 総合型地域ＳＣのメンバーが放課後子ども教室の内容（諸条件）を良く知らない。

＜原因＞

- 市区町村の事業担当部署が異なり、部局まで違うことがあるため情報が伝わらない。
- 総合型地域ＳＣや放課後子ども教室そのものの、情報が不足している。

＜考え得る対策＞

- 都道府県や市区町村への放課後子ども教室推進事業に関する事業説明の段階で、想定しうる地域の受け皿組織として「総合型地域スポーツクラブ」を紹介する。
- 校長会、新卒職員研修、ＰＴＡ研修などにおいて、総合型地域スポーツクラブの紹介する時間を設ける。
- 市区町村の総合型地域スポーツクラブの担当及び、総合型地域スポーツクラブ育成支援事業を受託してきた（財）日本体育協会から都道府県体育協会および、関係地域ＳＣに、放課後子ども教室事業の情報を提供する。

市区町村の事業担当者の段階で、放課後子ども教室の地域の受け皿として地域ＳＣがあることを認識しているかどうかにより、地域ＳＣに声がかかるかどうか、大きく影響している。

また、地域ＳＣは、都道府県体協や都道府県の広域スポーツセンターなどと連携しているところが多く、このラインをとおして事業の情報を伝えていくことができる。各都道府県では、クラブマネジャー講習会などを開催しており、こういった講習会などで、活用できる事業して紹介してもらうようにしておくことも可能と思われる。

（２）「スポーツ」への誤ったイメージの払拭

＜課題＞

- スポーツプログラムは、子どもの自主性が損なわれることや、苦手な子が参加しにくくなることなどが懸念されるとして、地域ＳＣの参加を望まないという意見がある。

＜原因＞

- 従来の競技スポーツ種目のトレーニングなどのイメージが持たれている。
- 小さい頃から体を動かす（運動）をすることの重要性が理解されていない。

＜考え得る対策＞

- 市区町村のスポーツ振興部局や、体育指導委員、地域ＳＣなどが協力し、ニュースポーツや従来のスポーツ種目であっても、楽しく参加できるスポーツの普及啓発を行う。市民が気軽に参加できるスポーツイベントなどを実施することなどが考えられる。
- 小学校の授業等において、地域のスポーツ指導者の協力によりニュースポーツ等を行い、子どもたちに楽しさを覚えてもらう機会を設ける
- 地域ＳＣ内の指導者等への研修等により、子どもたちに体を動かすことの楽しさの伝え方、他人と競うものではなく運動能力の開発に効果的なプログラム、自分たちで工夫して考えることなどを促す指導方法について啓発する
- 子どもの体力低下問題や、健康・体力づくりの重要性について、ＰＴＡの研修や広報などで保護者や関係者への啓発につとめる。

（３）地域ＳＣの参加のメリットの理解醸成

＜課題＞

- 行政担当者や地域の運営委員の方々に、地域ＳＣが協力、参加することのメリットが伝わっていない。
- 地域ＳＣも、放課後子ども教室事業に参加することのメリットがわからず、面倒な調整ごとばかり増えるという意識がある。

＜原因＞

- 地域ＳＣが、地域住民の新たな社会参加の形であり、事務局や人材のネットワークなど、既存の地域活動にはなかった有用な機能を有していることが理解されていない
- 放課後子ども教室の意義や、効果が良く理解できていない

＜考え得る対策＞

- 広報等を用いて、地域ＳＣの活動やその主旨について住民にひろく啓発、ＰＲをしていく。
- 行政は、スポーツイベントや健康体操教室など、小さな事業から、地域ＳＣに委託するモデル事業等をつくり、地域ＳＣの育成と公益的事業への参加実績を増やしていく。
- 地域ＳＣは、地域住民が参加できるスポーツイベント等を実施し、地域ＳＣの考え方の理解を広める
- 放課後子ども教室への地域ＳＣ参加の効果を、事例等を用いて地域ＳＣや放課後子ども教室の運営者につたえる。
- 地域ＳＣへの研修機会などをとおして、地域ＳＣの社会的意義を確認、認識する機会をもち、放課後子ども教室事業等の公益的活動への参画を促すようにする。

（４）実施面での条件の調整

＜課題＞

- 細かい条件がわからないので、声をかけていいかどうか迷う
- 回数や時間帯、実施場所、謝金の額の設定などが、クラブの運営状態にあわなそうなので、手をあげにくい

＜原因＞

- 事業予算の枠組みを行政が先に決めているため、計画にあわせて実行しなければならない
- 事業実施のスキームが固定的にとらえられている

＜考え得る対策＞

- 市区町村の担当部署と各地域の実態にあわせて、実現可能な方法を協議した上で、事業の実施スキームや、謝金の条件等を決めていくようにする。
- 初年度から、回数を増やさず、ケーススタディとして実施し、結果をフィードバックしながら、より充実させる方向を検討していくようにする。（ゼロよりは、少しでもあった方が良い）

６．まとめ

６．１　連携のすすめ

放課後子ども教室と総合型地域スポーツクラブの連携状況を調査したところ、放課後子ども教室に協力・参加したい、するべきだと考えている総合型地域スポーツクラブは多いものの、実際の連携はまだ進んでいないことがわかった。

連携が進まない主な原因としては、情報の不足などが考えられた。

総合型地域スポーツクラブは、地域の自立的運営が提唱されているものの、公共施設を活用し、地域の多様な住民が関わることから、公益的活動の側面が強く、本来的に行政や地域との協働が欠かせないものと考えられる。

したがって、行政からの情報の提供・交換は、民間企業・組織と比べて比較的容易に行える状態にあり、それぞれの事業の関係者が、事業の意義や効果への理解を共有することで、総合型地域スポーツクラブが、放課後子ども教室のさらなる推進に貢献していくことができるものと考えられた。

（１）市区町村の事業担当者の方へ

放課後子ども教室を始めたい。

でも・・・・

- 地域で中心的に進めてくれる人たちがみつからない
- 町会だけでは、大変そうだ
- ボランティアの方々がなかなかみつからない
- 地域で具体的にどう運営してもらえばいいのか、わからない。
- 子どもの体力や運動能力の低下の改善につなげたいが、スポーツは怪我なども心配だ

と困ったら・・・

お近くの総合型地域スポーツクラブに
声をかけてみてください

- 総合型地域スポーツクラブには、事務局機能が備わっているので、地域の実行委員会の事務局なども行えます。
- 老若男女、地域の様々な人が参加しているので、人材も情報も豊富です。
- スポーツ以外のいろいろなことを教えられる人もいます。
- 各種スポーツの指導者や、経験の豊富なメンバーがいます。
- 子どもたちの放課後の教室などの経験を有しています。
- 救急講習や安全管理の知識をもったスタッフがいます。
- 子どもたちにスポーツの楽しさを伝え、スポーツを好きな子を増やしたいと考えています。

例えば、各地の地域ＳＣでは、放課後子ども教室にこのように関わっています。

－地域ＳＣが事務局として、地域の様々なボランティアを活用①－

教室名：『わくわく広場』（大砂土東小学校）

地域：埼玉県さいたま市

地域ＳＣの関わり：ＮＰＯさいたまスポーツクラブが実行委員会の事務局を運営。

実施日・頻度：毎週金曜日の他、夏休み等は任意で年間 80 回程度。

内容：校庭や体育館での遊び、日舞、農業体験など

特徴：地域のシニア世代がボランティアスタッフとして 40 名登録し、自治会や民生委員などと一緒に多様なプログラムを実施。

クラブハウスがあるので、会議の開催もできるし、連絡窓口を設けることができるので運営ができる。

クラブの活動に参加している会員もボランティアとして活躍してくれている。

－地域ＳＣが事務局として、地域の様々なボランティアを活用②－

教室名：『セブンＵＰすくすく教室』（長岡第七小学校）

地域：京都府長岡京市

地域ＳＣの関わり：長七みんなのスポーツクラブの役員がコーディネーターとなり、学校内に事務局（余裕教室を活用）を設けている。

実施日・頻度：平日と週末で約 50 回（100 教室／同時複数教室実施することあり）

内容：スポーツ、文化・芸能、伝統技能、漢字検定　など

特徴：携帯メールを活用し保護者との連絡体制を整備

クラブに関わる人のネットワークを活かし、地域性を反映した地域の史跡巡りや、友禅染め体験など、幅広く実施。

土曜日のフリースポーツには、教職員も自主的に参加し、子ども達や地域の人たちとの交流を深めている。

－市内５校のコーディネーターが地域ＳＣのボランティスタッフ－

教室名：市内５校の『放課後子ども教室』

地域：徳島県美馬市

地域ＳＣの関わり：スポーツクラブ美馬が会員のネットワークを活かし、コーディネーターのなり手を捜し、各校の実行委員会を運営。

実施日・頻度：平日週１回（曜日は学校により異なる）

内容：校庭や体育館での遊びやスポーツなど様々。宿題をさせることもあり。

特徴：複数のコーディネーターが、全てクラブのボランティアスタッフ。

クラブハウスでコーディネーター同士の情報交換をしたり、事務作業などをこなしたりしている。

主婦のネットワークを活かし、安全管理員のボランティアなども確保。

（２）放課後子ども教室を地域で運営しているコーディネーターや実行委員会の方へ

放課後子ども教室をやってきた。

でも・・・・

- ボランティアの方々がなかなかみつからない
- 自宅でいろいろな作業をするのは大変だ
- 相談相手がほしい
- スポーツもしてみたいけど、運動の苦手な子は参加しづらくなってしまうことも考えられる
- スポーツ指導が過ぎると、子どもたちの自主性や自由な発想が失われることが心配だ。
- 道具の手配などが大変だ。新しく買う予算の余裕はなさそうだ。

と困ったら・・・

お近くの総合型地域スポーツクラブに
声をかけてみてください

- 総合型地域スポーツクラブには、地域の様々な人が参加しているので、人材も情報も豊富です。
- スポーツ以外のいろいろなことを教えられる人もいます。
- 人材や知識が集まるので、いろいろな相談ができます。
- 各種スポーツの指導者や、経験の豊富なメンバーがいます。
- 人、モノ、カネ、情報があるので、いろいろな企画を一緒に考え、実行に結びつけることができます。
- 救急講習や安全管理の知識をもったスタッフがいます。
- 子どもたちにスポーツの楽しさを伝え、スポーツを好きな子を増やしたいと考えています。
- 地域の子どもの健全育成を真剣に考えています。

例えば、各地の地域ＳＣでは、放課後子ども教室にこのように関わっています。

－地域ＳＣが市の委員会に参加し、子どもを対象とした事業の経験を伝えている－

教室名：『飯豊子ども教室』他（飯豊小学校他）

地域：岩手県北上市

地域ＳＣの関わり：ＮＰＯフォルダの職員が市の委員会に社会教育関係者として参加する他、月１回の運動指導に指導者を派遣

実施日・頻度：クラブからの運動指導は月１回

内容：遊びの要素を取り入れたコーディネーショントレーニング。

特徴：子どもの居場所づくり事業を運営していた経験や子どもたちへのスポーツ指導の経験・専門知識に基づき、体力づくりや健康づくりに必要なことのアドバイスをしている。

プログラムの実施では、子どもたちの基礎的運動能力の向上を、遊びの中で図れるように配慮している。

－地域ＳＣがナレッジマネジメント－

教室名：町内３カ所の『放課後子ども教室』

地域：徳島県板野町

地域ＳＣの関わり：複数のコーディネーターが板野ぴょん太スポーツクラブの会員。人材や情報も集まるので、効果的な進め方などをクラブの関係者とも相談。クラブが行政の相談役にもなっている

実施日・頻度：クラブとしては月１回スポーツ指導

内容：ニュースポーツ、茶道、工作、遊び。

特徴：３校のコーディネーターが、クラブ内で相談するようになり、人材発掘・プログラム開発などを効率化。スポーツ用具の手配などもクラブが協力することで、バラバラに用意する必要がなくなる。クラブがあることで、行政担当者が異動しても、ナレッジが共有、伝達できている。スタッフへの応急措置の講習などもクラブで実施。

－スポーツをあまりしなかった子にスポーツの楽しさを伝える－

教室名：『大洲ジュニアクラブ』（大洲小学校）

地域：静岡県藤枝市

地域ＳＣの関わり：大洲スポーツクラブのスタッフでニュースポーツ体験の場を運営。

実施日・頻度：第２・第４土曜日の午前

内容：ニュースポーツ

特徴：少年団にはいっていないような子どもたちを対象に、体を動かすことの楽しみを知ってもらうことを主眼に、いろいろなニュースポーツのプログラムを実施。

クラブ内の各種目のリーダー達にも参加を促し、競技だけではないスポーツの振興・普及への理解醸成をはかっている。

（３）総合型地域スポーツクラブの皆さんへ

- クラブの理念として、子どもたちの健全育成を掲げているが、具体的な事業として何から取り組めばいいかわからない。
- 地域の学校や町会などともっと連携したい
- 地域に貢献する事業をしたい
- クラブをもっと地域の人に知ってほしい
- 子どもの体力の低下問題をどうにかしたい
- スポーツ離れをどうにかしたい。小さい時から運動習慣をつけてほしい

と考えたら・・・

放課後子ども教室に参加･協力してみませんか

- 子どもの健全育成や、子どもたちにスポーツを好きになってもらうというクラブの理念を具体化した事業に取り組めます。
- 学校や地域との連携が密になり、今後のクラブ運営がやりやすくなります。
- 地域に貢献する組織として、クラブの知名度があがります。
- 会員のボランティア参加など、活躍の場が広がります。
- 指導者の意識が高まります。
- 委託事業の場合は、クラブの事業収入が得られます。
- クラブの会員増加につながります。
- 設立したばかりのクラブでも、設立準備中のクラブでも実施できます。
- スポーツプログラム以外のプログラムでもかまいません。
- 事業の実施上の詳細な条件は、行政の担当者と相談して、できることから始める・やりやすい方法を工夫していくことなどもできます。

例えば、各地の地域ＳＣでは、放課後子ども教室にこのように関わっています。

－市の委託事業として受け、職員が活躍している－

教室名：市内６小学校『放課後子ども教室』

地域：石川県かほく市

地域ＳＣの関わり：ＮＰＯクラブレッツは、市内６小学校の放課後子ども教室の企画・運営を委託されて実施している。

実施日・頻度：平日週１回（年間 30 回/校×６校）

内容：遊びの要素を取り入れたコーディネーショントレーニングやボールゲーム。

特徴：市から年間委託費２３０万円で、指導員１名と補助として１～２名の職員が参加。このような事業をいくつか受けることで、職員の雇用にもつながっている。

長期休暇期間には、大学生の企画によりキャンプなどを実施し、放課後子ども教室に来ている子達が参加している。

もっと運動がしたい子向けに、放課後教室の後にクラブの自主事業も実施し、子どもたちのニーズに応えるとともに、会員の確保につなげている。

－放課後子ども教室の企画・運営をとおして指導者がレベルアップ－

教室名：『うすねわくわくスクール』（薄根小学校）

地域：群馬県沼田市

地域ＳＣの関わり：うすねニュースポーツクラブが市の委託を受け運営委員会を運営

実施日・頻度：平日・週末とあわせて月２～３回。年間約 30 回。

内容：ニュースポーツやレクリエーション。

特徴：クラブの指導者達が、運営委員会に参加し、地域事業の組み立てに関わることで、活躍・成長の場につながっている。小学校、地域とともに一つの事業をつくりあげていることも、クラブの存在を知ってもらうことに役にたっている。

－設立準備段階に、クラブが取り組みやすい事業として始まる－

教室名：『子どもスポーツ教室』（出水南小学校）

地域：熊本県熊本市

地域ＳＣの関わり：出水南どっとネットが、市からの委託を受け、安全管理員として毎回参加し現場管理を担当。

実施日・頻度：各週土曜日の午後（年間約 20 回）。

内容：各種エクササイズや、ドッジボールなどのスポーツ。

特徴：設立準備中に、クラブの考え方を具体化し、行政も協働で取り組める事業として市から紹介。「子どもの頃にいろいろなスポーツをして、自分の好きなスポーツをみつけてもらうこと、スポーツ好きな子を育てること」をクラブの目標に掲げており、自分たちでできることから始めるのにちょうどよかった。

教室のニュースなどを、クラブが発行することで、保護者にも広くクラブのことを知ってもらうことができている。

６．２　今後にむけた地域からの意見

アンケート調査やヒアリング調査を行った全国各地で放課後子ども教室や総合型地域スポーツクラブに取り組んでいる関係者から､｢放課後子ども教室推進事業｣の今後にむけて、以下のような意見や要望が出されていた。

「放課後子ども教室は続けなければいけない！」

- 本事業への地域のニーズはますます高まっており、この事業は続けなければいけない
- 子どもの居場所づくり事業から放課後子どもプランへの移行で、地域が混乱した。地域が進め方になれてこれから広げようという時に、事業スキームを変えることが困る。地域は３年程度の単位では変わっていかない。

「事業として確立していくことがよりよい環境づくりにつながる」

- しっかりとした内容を継続していくためには、人材にみあった事業費をかけるべきである。
- ボランティアへの謝金だけでやっていける事業ではなくなっていくと思われる
- 地域ＳＣであれば、こういったいくつかの事業を組み合わせることで、若者の雇用を確保し、職業としてより充実した取り組みを進めることができる

「事業費の使途の細かな制約をなくし、地域の工夫を活かせるように」

- 共働きが多く、放課後に活動できるボランティアの確保が難しいなど、決められた枠組みで人材が確保できない場合もある。お金の使い方は地域にまかせてほしい。
- 用具を教室ごとに別々に用意したり、保管したりするなど、不合理。
- 理想を求めてできないよりは、少しでもできる方向に工夫して使いたい。

「やれることから始める雰囲気づくり」

- 地域の資源を活かすためには、学校以外の施設を使った方が良いこともある。
- 目標として示される回数を、最初から目指そうとすると無理がある
- できることをできるところから実施していくことが、実施しないよりも意味がある。

「学校との関わりの見直し」

- 放課後子ども教室は、原則学校の教職員とは関係ない事業とされているが、そうはいかない。
- 子どもの体調、様子など学校の先生と連携をとる必要がある。
- 先生方が関われるスキームを整備すべきである。

「事業拡大＝子どもの増加への対応を考えておくことが必要」

- これからさらに参加希望者は増えていくことが考えられる。
- 今の事業の枠組みでは受け入れきれなくなる可能性もある。
- 多くの子どもたちを平等に受け入れられるようにしないといけなくなる。
- 障害を持った子どもへの対応なども考えることが必要である。

（参考）

１．アンケート調査について

（１）アンケート調査先

全国２３４の市区町村にアンケートを郵送配布した。

北海道	札幌市	栃木県	鹿沼市	石川県	輪島市
	上富良野町		日光市		加賀市
	網走市		高根沢町		かほく市
	帯広市		佐野市		津幡町
	釧路市		宇都宮市		金沢市
青森	鶴田町	群馬県	前橋市	福井県	福井市
	むつ市		沼田市		大野市
	大間町		渋川市		鯖江市
	八戸市		片品村		越前市
	青森市		みなかみ町		越前町
岩手	遠野市	埼玉県	熊谷市	山梨県	中央市
	北上市		所沢市		北杜市
	金ケ崎町		志木市		笛吹市
	一関市		久喜市		都留市
	盛岡市		さいたま市		甲府市
宮城	多賀城市	千葉県	我孫子市	長野県	飯田市
	岩沼市		野田市		阿智村
	大崎市		袖ヶ浦市		安曇野市
	美里町		千葉市		飯綱町
	仙台市		船橋市		長野市
秋田	横手市	東京都	世田谷区	静岡県	伊東市
	湯沢市		渋谷区		富士市
	由利本荘市		練馬区		掛川市
	八峰町		八王子市		牧之原市
	秋田市		三鷹市		磐田市
山形	寒河江市	神奈川県	寒川町	岐阜県	岐南町
	戸沢村		大磯町		神戸町
	米沢市		横浜市		関市
	鶴岡市		川崎市		恵那市
	酒田市		相模原市		岐阜市
福島	二本松市	新潟県	三条市	愛知県	大口町
	田村市		村上市		半田市
	白河市		上越市		小牧市
	会津坂下町		聖籠町		豊橋市
	南会津町		新潟市		豊田市
茨城県	取手市	富山県	高岡市	三重県	鈴鹿市
	つくば市		射水市		松阪市
	稲敷市		南砺市		明和町
	大洗町		立山町		志摩市
	東海村		富山市		伊勢市

滋賀県	大津市	岡山県	岡山市	佐賀県	佐賀市
	栗東市		玉野市		唐津市
	甲賀市		津山市		多久市
	野洲市		美作市		鹿島市
	東近江市		奈義町		有田町
京都府	向日市	広島市	福山市	長崎県	佐世保市
	長岡京市		呉市		平戸市
	京田辺市		北広島町		壱岐市
	京丹波町		尾道市		五島市
	福知山市		庄原市		新上五島町
大阪府	茨木市	山口県	下関市	熊本県	熊本市
	寝屋川市		宇部市		玉名市
	八尾市		周南市		南阿蘇村
	大阪市		田布施町		天草市
	堺市		山口市		菊陽町
兵庫県	神戸市	徳島県	徳島市	大分県	豊後高田市
	宝塚市		美馬市		国東市
	神河町		海陽町		佐伯市
	太子町		板野町		豊後大野市
	南あわじ市		三好市		玖珠町
奈良県	橿原市	香川県	高松市	宮崎県	宮崎市
	桜井市		さぬき市		日南市
	川西町		東かがわ市		都城市
	奈良市		三豊市		小林市
			三木町		延岡市
和歌山県	橋本市	愛媛県	松山市	鹿児島県	鹿児島市
	有田市		四国中央市		伊佐市
	田辺市		今治市		瀬戸内町
	紀美野町		松前町		和泊町
	和歌山市		宇和島市		与論町
鳥取県	鳥取市	高知県	高知市	沖縄県	那覇市
	倉吉市		土佐市		浦添市
	岩美町		宿毛市		うるま市
	北栄町		土佐清水市		南城市
	湯梨浜町		いの町		伊是名村
島根県	松江市	福岡県	北九州市		
	出雲市		福岡市		
	雲南市		久留米市		
	大田市		春日市		
	益田市		八女市		

（２）アンケート調査票

行政（市区町村）の放課後子ども教室事業担当者、放課後子ども教室受託団体（地域に事業を受託している運営組織がある場合）と地域ＳＣの３者にアンケート調査を実施した。

対象別のアンケート調査票３種を以下に示す。

アンケート調査票（放課後子ども教室推進事業ご担当者）

本調査票に直接回答を記入し、１月２０日までに、返信用封筒でご返送ください。

Ｑ１　貴自治体名とご回答者名をご記入ください。

自治体名：
回答者名：

Ｑ２　総合型地域スポーツクラブについてお答えください。

（１）貴自治体内で「総合型地域スポーツクラブ」が活動している（もしくは準備中である）ことをご存じですか？　（１つ選択）

１．「総合型地域スポーツクラブ」という言葉を知らなかった、聞いたことがなかった
２．活動しているクラブをよく知っている。参加したことがある（参加している）
３．活動しているクラブを知っている。見たことがある
４．活動していることを聞いたことはあるが、見たことはない
５．活動しているクラブがあることを知らない、聞いたことがない
６．その他（　　）

（２）放課後子ども教室の実施に関し、総合型地域スポーツクラブに事業の紹介や協力を呼びかけたことはありますか？　（１つ選択）

１．委託先として期待して声かけをした
２．中心的な役割を担うことを期待して呼びかけをした
３．協力、参加を期待して声かけをした
４．案内は送ったが、積極的に声かけはしなかった
５．声かけ等は何もしなかった
６．その他（　　）
７．わからない

（３）総合型地域スポーツクラブが放課後子ども教室に、関わることについて、どう思いますか？（１つ選択）

１．事業の委託団体として期待したい
２．積極的に関わっていくことを期待したい
３．現在の実施団体に協力していってほしい
４．あまり関わらないで良いのではないか
５．どちらでも良い
６．わからない
７．その他（　　）

市区町村が
放課後子ども教室を
実施している場合
ｐ２へ

団体に委託して
放課後子ども教室を
実施している場合
ｐ４へ

【市区町村が放課後子ども教室を実施している場合】

調査対象として選定した「放課後子ども教室」についてお答えください（委託で実施している場合には、「受託団体向け」のアンケート用紙を当該団体にお渡しいただき、Ｑ９以後にお答えください。）

Ｑ３　放課後子ども教室の現場で、主力として活躍している年齢層は、下記のうちのどの年代が多いですか？　（１番目、２番目を１つずつ選択）

１．10 代　　２．20～50 代　　３．60～70 代　　４．80 代以上

回答欄　　１番目＿＿＿＿＿＿　　２番目＿＿＿＿＿＿

Ｑ４　参加している子ども達の学年構成を教えてください。全体を１０としておおよその割合でお答えください。（整数で記入）

低学年	中学年	高学年	合計
			１０

Ｑ５　放課後子ども教室のプログラムは、主にいつ実施していますか。（１つ選択）

１．平日の放課後　　２．週末の日中　　３．週末の夜　　３．夏休みや冬休み

Ｑ６　放課後子ども教室では、スポーツのプログラムを実施していますか？　（１つ選択）

１．実施している　　２．実施していない

「１．実施している」を選んだ方 ＞ Ｑ７へ

「２．実施していない」を選んだ方 ＞ Ｑ８へ

選択 ≪Ｑ６で「１．実施している」を選んだ方にお聞きします≫

Ｑ７　スポーツプログラムを**実施している**教室にお伺いします。

（１）どんなスポーツですか？　（実施する頻度が高いものから、３つ記入）

１．＿＿＿＿＿＿　２．＿＿＿＿＿＿　３．＿＿＿＿＿＿

（２）放課後子ども教室のスポーツプログラムに期待することはありますか？
（期待する方から、１番、２番を１つずつ選択）

１．子ども達の体力づくりの効果を期待する
２．子ども達の運動能力や技能が向上することを期待する
３．子ども達のコミュニケーションの向上を期待する
４．子ども達に礼儀やルールを守ることなどを覚えてほしい
５．その他（　　）
６．特に期待することはない

回答欄
１番目＿＿＿＿＿＿
２番目＿＿＿＿＿＿

（３）スポーツのプログラムを実施する中で、何か課題を感じていますか？

（１番、２番を１つずつ選択）

１．適当な指導者が不足している
２．用具代などがかかり苦労している
３．怪我がこわい
４．その他（　　）
５．特に課題はない

回答欄	１番目	２番目

（４）実施している効果は感じますか？（１番、２番を１つずつ選択）

１．子ども達がとても喜んでいると思う
２．子どもの体力づくりに役立っていると思う
３．子ども達の運動能力や技能の向上に役立っていると思う
４．子ども達同士のコミュニケーションが高まっているように思う
５．その他（　　）
６．特に感じる効果はない

回答欄	１番目	２番目

選択 ≪Ｑ６で「２．実施していない」を選んだ方にお聞きします≫

Ｑ８　スポーツプログラムを**実施していない**教室にお伺いします。スポーツプログラムを実施していない理由は何ですか？　（１番、２番を１つずつ選択）

回答欄
１番目
２番目

１．子ども達から、スポーツをしたいという意見がない
２．スポーツに適した場所（施設）がない
３．面倒をみることができるスタッフや指導者がいない
４．怪我などのリスクが高いので行えない
５．用具などが買えない
６．もともと考えていなかった
７．他のスポーツ団体（少年団等）に配慮（遠慮）して行っていない（会員の取り合いなどになってはいけないから　など）
８．その他（　　）

【団体に委託して放課後子ども教室を実施している場合】

Ｑ９　貴自治体内で実施されている放課後子ども教室におけるスポーツプログラムの導入について、お考えに近いものを選んでください。

（１）放課後子ども教室でスポーツプログラムを実施してほしいと思いますか？（１つ選択）

１．スポーツのプログラムを積極的に導入してほしい
２．スポーツのプログラムは、あまり導入してほしくない
３．どちらでも良い
４．わからない
５．その他（　　）

（２）放課後子ども教室のスポーツプログラムに期待することはありますか？
（期待する方から、１番、２番を１つずつ選択）

１．子ども達の体力づくりの効果を期待する
２．子ども達の運動能力や技能が向上することを期待する
３．子ども達のコミュニケーションの向上を期待する
４．子ども達に礼儀やルールを守ることなどを覚えてほしい
５．その他（　　）
６．特に期待することはない

回答欄
１番目＿＿＿＿＿＿
２番目＿＿＿＿＿＿

（３）放課後子ども教室においてスポーツプログラムを実施する上で課題だと思うことはありますか？
（特に思う方から、１番、２番を１つずつ選択）

１．怪我等への安全管理に不安がある
２．正しい指導が行われるかどうか不安がある
３．用具や施設の管理に不安がある
４．その他（　　）
５．特に不安や課題はない
９．わからない

回答欄
１番目＿＿＿＿＿＿
２番目＿＿＿＿＿＿

Ｑ１０　放課後子ども教室の活動に総合型地域スポーツクラブが参加することについて、メリットやデメリットは何か感じますか？（自由記述）

ご協力、ありがとうございました。

アンケート調査票（放課後子ども教室　受託団体）

本調査票に直接回答を記入し、１月２０日までに、返信用封筒でご返送ください。

Ｑ１　子ども教室実施団体名をご記入ください。

Ｑ２　実施団体の中で、主力として活躍している年齢層は、下記のうちのどの年代ですか？
（１番、２番を１つずつ選択）

１．10 代　　２．20～50 代　　３．60～70 代　　４．80 代以上

回答欄　　１番目＿＿＿＿＿＿　　２番目＿＿＿＿＿＿

Ｑ３　参加している子ども達の学年構成を教えてください。全体を１０としておおよその割合でお答えください。（整数で記入）

低学年	中学年	高学年	合計
			１０

Ｑ４　放課後子ども教室のプログラムは、主にいつ実施していますか。（１つ選択）

１．平日の放課後　　２．週末の日中　　３．週末の夜　　３．夏休みや冬休み

Ｑ５　放課後子ども教室では、スポーツのプログラムを実施していますか？　（１つ選択）

１．実施している　　２．実施していない

「１．実施している」を選んだ方　→　Ｑ６へ

「２．実施していない」を選んだ方　→　Ｑ７へ

選択 ≪Ｑ５で「１．実施している」を選んだ団体にお聞きします≫

Ｑ６　スポーツプログラムを**実施している**団体にお伺いします。

（１）どんなスポーツですか？　（実施する頻度が高いものから、３つ記入）

１．＿＿＿＿＿＿＿＿　２．＿＿＿＿＿＿＿＿　３．＿＿＿＿＿＿＿＿

（２）スポーツのプログラムを実施する中で、何か課題を感じていますか？
（１番、２番を１つずつ選択）

１．適当な指導者が不足している
２．用具代などがかかり苦労している
３．怪我がこわい
４．その他（　　）
５．特に課題はない

回答欄　１番目＿＿＿＿＿＿＿＿　２番目＿＿＿＿＿＿＿＿

（３）実施している効果は感じますか？　（１番、２番を１つずつ選択）

１．子ども達がとても喜んでいると思う
２．子どもの体力づくりに役立っていると思う
３．子ども達の運動能力や技能の向上に役立っていると思う
４．子ども達同士のコミュニケーションが高まっているように思う
５．その他（　　）
６．特に感じる効果はない

回答欄　１番目＿＿＿＿＿＿＿＿　２番目＿＿＿＿＿＿＿＿

ｐ３へ
進んでください

選択 ≪Ｑ５で「２．実施していない」を選んだ団体にお聞きします≫

Ｑ７　スポーツプログラムを**実施していない**団体にお伺いします。スポーツプログラムを実施していない理由は何ですか？　（１番、２番を１つずつ選択）

１．子ども達から、スポーツをしたいという意見がない
２．スポーツに適した場所（施設）がない
３．面倒をみることができるスタッフや指導者がいない
４．怪我などのリスクが高いので行えない
５．用具などが買えない
６．もともと考えていなかった
７．他のスポーツ団体（少年団等）に配慮（遠慮）して行っていない
（会員の取り合いなどになってはいけないから　など）
８．その他（　　）

回答欄
１番目＿＿＿＿＿＿＿＿
２番目＿＿＿＿＿＿＿＿

ｐ３へ

【ここからは、全ての団体にお聞きします】

Ｑ８　あなたのいる地域で「総合型地域スポーツクラブ」が活動している（もしくは準備中である）ことをご存じですか？　（１つ選択）

７．「総合型地域スポーツクラブ」という言葉を知らなかった、聞いたことがなかった
８．活動しているクラブをよく知っている。参加したことがある（参加している）
９．活動しているクラブを知っている。見たことがある。
１０．活動していることを聞いたことはあるが、見たことはない
１１．活動しているクラブがあることを知らない、聞いたことがない
１２．その他（　　）

Ｑ９　総合型地域スポーツクラブ以外の地域のスポーツ団体(少年団や大人のスポーツサークルなど)は、放課後子ども教室に協力的ですか？　（１つ選択）

１．概して協力的である
２．協力的な団体とそうでない団体がある
３．学校を使っている団体は協力的である
４．概してあまり協力的ではない
５．わからない
６．その他（　　）

Q10　「協力的でない」団体は、なぜ協力的でないと思いますか？　（１つ選択）

１．放課後子ども教室のことを知らないようだ
２．放課後子ども教室のことが理解されていないようだ
３．放課後子ども教室のプログラムを実施している時間には参加できないようだ
４．放課後子ども教室には関心がないようだ
５．その他（　　）
６．わからない

Q11　あなたの地域で活動している総合型地域スポーツクラブは、放課後子ども教室に協力的ですか？　（１つ選択）

１．積極的に協力してくれる
２．まぁまぁ協力的である
３．あまり協力的ではない
４．全く協力していない
５．その他（　　）

Q12　「協力的でない」場合、その理由はなぜだと思いますか？　（１つ選択）

１．放課後子ども教室のことを知らないようだ
２．放課後子ども教室のことが理解されていないようだ
３．放課後子ども教室のプログラムを実施している時間には参加できないようだ
４．放課後子ども教室には関心がないようだ
５．その他（　　）
６．わからない

Q13　放課後子ども教室の活動に、総合型地域スポーツクラブが協力し、
スタッフや指導者が参加することについてどう思いますか？

（1）どのようなメリットがあると思いますか？　（1番、2番を1つずつ選択）

1．スポーツプログラムを実施しやすくなる
2．参加する子どもの確保に役立つ
3．スタッフの確保に役立つ
4．用具の確保などに役立つ
5．施設の利用調整がしやすい
6．その他（　　）
7．特にメリットがあると思わない
8．わからない

回答欄	1番目	2番目

（2）デメリットは何か感じますか？（自由記述）

Q14　放課後子ども教室と地域のスポーツ団体との連携について、
ご意見がありましたらご記入ください。

差し支えなければ、**回答者の方のお名前とご連絡先**をご記入ください。
（いただいた個人情報について、本調査以外の目的で使用することはございません）

ご協力、ありがとうございました。

アンケート調査票（総合型地域スポーツクラブ）

本調査票に直接回答を記入し、１月２０日までに、返信用封筒でご返送ください。

Ｑ１　貴クラブ名をお答えください。

Ｑ２　活動拠点についてお答えください

（１）定期的に利用する活動拠点はどこですか？　（多い方から１番、２番を選択 ※複数選択可）

１．小学校　２．中学校　３．高等学校
４．大学　５．公共スポーツ施設　６．企業施設
７．民間施設　８．公民館等　９．自前の施設
10．その他（　　）

回答欄
１番目
２番目

（２）学校を使用している場合は、学校名をお答えください。

Ｑ３　貴クラブのある市町村で、放課後子ども教室が実施されていることはご存じでしたか？

１３．「放課後子ども教室」という事業を知らなかった
１４．実施していることを、よく知っている。参加したことがある（参加している）
１５．実施していることを、よく知っている。見たことがある
１６．実施していることは、聞いたことはあるが、見たことはない
１７．実施していたことを知らない、聞いたことがない
１８．その他（　　）

Ｑ４　貴クラブでは、放課後子ども教室に、参加・協力していますか？　（１つ選択）

１．放課後子ども教室を受託している
２．会議に参加し、プログラムの実施も担当している
３．用具や資金を提供している
４．指導者やスタッフを紹介している
５．クラブとして、たまに協力、参加している
６．協力していない
７．その他（　　）

事業を受託しているクラブの方 → Ｑ５へ

協力・参加されているクラブの方 → Ｑ６へ

協力・参加されていないクラブの方 → Ｑ７へ

選択 **≪事業を受託しているクラブの方はＱ５にお答えください≫**

Ｑ５　放課後子ども教室を受託・実施して感じたことについてお答えください。

（１）　受託・実施して良かったと思うことは何ですか？
（良かったと思う方から１番、２番を１つずつ選択）

１．事業費（収入）が得られた
２．地域の諸団体との協力、連携のきっかけができた
３．学校との連携がしやすくなった
４．クラブの会員増加につながった
５．その他（　　）
６．特にない

回答欄
１番目＿＿＿＿＿＿
２番目＿＿＿＿＿＿

（２）受託・実施して、良くなかった、課題だと思うことは何ですか？（１番、２番を１つずつ選択）

１．事務作業や関係者の調整などの手間が増えた
２．クラブのプログラムに参加する子どもが減った
３．採算があわない（持ち出しが増えた）
４．本来のクラブの活動に支障をきたした（人材や施設の確保の面など）
５．その他（　　）
６．特にない

回答欄
１番目＿＿＿＿＿＿
２番目＿＿＿＿＿＿

（３）今後も継続して受託したいと思いますか？　（１つ選択）

１．ぜひ継続していきたい
２．どちらかといえば継続したい
３．どちらかというと継続したくない
４．継続したくない
５．その他（　　）

（４）なぜそう思われますか（Ｑ５（３）の回答の理由）

Ｑ８へ
進んでください

選択 **≪協力・参加されているクラブの方はＱ６にお答えください≫**

Ｑ６　放課後子ども教室に協力、参加して感じたことについてお答えください。

（１）　協力・参加して良かったと思うことは何ですか？
（良かったと思う方から１番、２番を１つずつ選択）

１．地域の諸団体との協力、連携のきっかけができた
２．学校との連携がしやすくなった
３．クラブの会員増加につながった
４．クラブのスタッフの増加につながった
５．その他（　　）
６．特にない

回答欄
１番目＿＿＿＿＿＿
２番目＿＿＿＿＿＿

（２）協力・参加して、良くなかった、課題だと思うことは何ですか？（１番、２番を１つずつ選択）

１．スタッフが忙しくなり、クラブのプログラムの実施に支障をきたした
２．スタッフへの謝金の額がクラブと異なる
３．クラブのプログラムへの参加者（会員）が減った
４．会議などの対応の手間が増えた
５．その他（　　）
６．とくにない

回答欄
１番目＿＿＿＿＿＿
２番目＿＿＿＿＿＿

（３）今後も継続して協力・参加したいと思いますか？　（１つ選択）

１．ぜひ継続していきたい
２．どちらかといえば継続したい
３．どちらかというと継続したくない
４．継続したくない
５．その他（　　）

（４）なぜそう思われますか？（Ｑ６（３）の回答の理由）

Ｑ８へ
進んでください

選択 **≪協力されていないか、参加していないクラブの方はＱ７にお答えください≫**

Ｑ７　協力・参加されていないことについて、以下の設問にお答えください。

（１）協力・参加しないのはなぜですか？　（１つ選択）

１．放課後子ども教室のことを知らない
２．放課後子ども教室の実施に関して、行政や実施団体から声をかけられていない
３．協力、参加したいと思うが、連携する機会がなかなかとれない
４．クラブは会費制で行っており、無料でやるとクラブの事業と整合がとれない
５．スタッフが忙しくて参加できない
６．手伝えるプログラムがない
７．あまり盛んになると、クラブの活動の（施設の確保等の）障害となりかねない
８．その他（　　）

（２）今後、協力・参加したいと思いますか？　（１つ選択）

１．事業を受託したい
２．ぜひ協力したい
３．どちらかといえば協力したい
４．どちらかというと協力したくない
５．協力したくない
６．話しをきいてみてから考える
７．その他（　　）

（３）　なぜそう思われますか（Ｑ７（２）の回答の理由）

Ｑ８へ
進んでください

【以下は、全てのクラブの方がお答えください】

Ｑ８　地域スポーツクラブの立場から、放課後子ども教室について思われていることに近いものを１つだけ選んで○をつけてください。

１．地域スポーツクラブで、放課後子ども教室を委託事業として受けても良いと思う。
２．地域スポーツクラブは、放課後子ども教室の運営に積極的に取り組むべきだと思う
３．地域スポーツクラブは、放課後子ども教室のプログラムに協力すると良いと思う
４．放課後子ども教室から依頼があれば、指導者の紹介などはしてもよいと思う
５．地域スポーツクラブとしては、放課後子ども教室には、あまり関係したいと思わない
６．地域スポーツクラブにとって、放課後子ども教室は全く関係ないと思う。
７．その他（　　）

Ｑ９　放課後子ども教室について、地域スポーツクラブの立場からご意見があればご自由にご記入ください

差し支えなければ、**回答者の方のお名前とご連絡先（電話やメールアドレスなど）**をご記入ください。
（いただいた個人情報について、本調査以外の目的で使用することはございません）

ご協力、ありがとうございました。

２．アドバイザー会議

（１）アドバイザー名簿

氏名	所属
黒須　　充	福島大学教授（中教審　スポーツ振興に関する特別委員会委員）
水上　博史	日本大学教授（日体協　総合型地域スポーツクラブ育成委員会委員）
東方美奈子	成蹊大学非常勤講師（志木放課後子ども教室コーディネーター
植田　尚史	（財）日本レクリエーション協会　生涯スポーツ推進部
抜井　晶子	財団法人　東京都体育協会　クラブ育成アドバイザー
柳川　尚子	財団法人　健康・体力づくり事業財団　調査情報部　調査役
谷塚　　哲	行政書士（スポーツ法務事務所）

（２）アドバイザー会議開催状況

回	時期	内容
1	11/7	調査スキーム、アンケート調査内容について
2	1/26	詳細（ヒアリング）調査対象とヒアリング要素について
3	3/9	調査結果のとりまとめについて

第１回　アドバイザー会議

１．日時　　２００８年１１月７日　１８時半～２０時半

２．場所　　新宿第一生命ビル　１７０３会議室

３．出席

（アドバイザー）黒須、水上、谷塚、植田、東方、柳川、抜井

（事務局）小野崎、立川、近藤、山崎

４．議事概要

事務局より調査の概要及びアンケート案について説明後、意見交換を行った。

（１）調査の進め方について

・ アンケート調査だけで、ヒアリング対象となる事例がうまく出てくるとは限らない

・ ヒアリングを行い事例について情報収集を行っておくと良いが、アンケート調査が終わってからではスケジュール的にきつくなるので、一部作業を平行して行った方が良いのではないか。

・ この調査結果については、広域ＳＣや体協のクラブ育成アドバイザーなどにも知らせていくと良いと思うが、公表についてはどうか（報告書はＨＰでの公開が原則であり、知らせることは問題ないと思われる。それを意識して啓発資料の案も作成することとしている）

（２）アンケートについて

・ 「放課後こども教室関係者」にむけたアンケートに、いきなり「総合型地域スポーツクラブ」という名称が出ているが、放課後こども教室の現場で「総合型」を知っている、聞いたことがある人は少ないと思う。

・ 「総合型」→スポーツ関係者（体指とか）が運営の核であり、「放課後こども」→「学校関係者（PTA とか）」が運営の核となっているため接点が少ないであろう。

・ 実際に、志木市の放課後子ども教室実行委員会で、「総合型」という用語でわかる人はほとんどいなかった。

・ まずは、「総合型～」という用語をしってもらうことから必要ではないか

・ 放課後こども教室関係者に「総合型」を知ってもらう、いい機会かもしれない。

・ 同じことが、逆でもいえる。「総合型」ほどわかりにくくはないかもしれないが、「放課後こども教室」も広く認知されているわけではないので、「学童保育」と混同されていることもある。

- 総合型の人たちに放課後子ども教室のことがわかるようにした方がよい。
- 総合型の社会的存在価値について、意識がまだ育っていないのではないか。
- 公的助成がはいっている意味、公共施設を使っている意味などを考えた時、これからの総合型は、このような事業に積極的に参加していかないといけないのではないか。
- このアンケートは、啓発の意味も大きいと思われる
- こういったことに連携することを、これまで考えていなかったクラブや、教室の担当者にとっては、きっかけになると良いと思う。
- 「放課後こども」も、「総合型」と同様に、１００現場があれば、１００の個性があると思われる。
- 個性と個性の掛けあわせがうまくいくと　「事業連携」　もうまくいくと思う。
- 参加、協力している総合型には、その意義や効果をきけると良い。
- 行政の担当窓口も、最近は「子ども・・・」という部署が多く、スポーツや教育委員会とは違うところで扱っていることがある。
- 行政担当への総合型の認知度もはかってみると良い
- 知っていて声をかけないとすれば、その理由をきくことも必要であろう。
- 反対に、総合型には、知っていても参加しない理由をきくと良い。

以上の助言をふまえ、アンケート設問をつめることとした。

（以上）

第２回　アドバイザー会議

１．日時　　２００９年1月２６日　１８時半～２０時半

２．場所　　新宿第一生命ビル　１７０３会議室

３．出席

（アドバイザー）黒須、水上、谷塚、植田、東方、柳川、抜井

（事務局）小野崎、立川、近藤、山崎

４．議事概要

アンケート調査の回答状況を報告し、ヒアリング対象の選定及びヒアリング要素について意見交換を行った。

（１）ヒアリング対象について

・ 規模の大きい、良く知られている地域ＳＣばかりだと、「あそこだからできたんだ」というような受け取られ方をしてしまうことが考えられる。

・ いろいろなパターンがあった方が良い

・ アンケートやこれまでの情報収集で、関わり方がいくつか整理できると思うが、それぞれに応じて事例があって良いと思う。

・ 地域的にも各地があった方が、良いのではないか。いわゆる先進県的なところばかりだと、同じような議論になると思う。

・ アンケート結果からも「受託している」というところばかりではなく、自由回答などで前向きに記述をされているところなどは、話をきくと良いのではないか。

（２）ヒアリング要素について

・ アンケート結果からみると、「情報が伝わっていない」ことが、連携の進まない大きな課題なのではないか。

・ 地域ＳＣが関わることとなったきっかけが大事である

・ 放課後子ども教室は、地域ＳＣにとって関係ないと考えているクラブや関係者がいるのが気になる。

・ クラブの地域でどのような役割を果たそうとしているのか。

・ 地域ＳＣが、どのような理念、ミッションを掲げているのか。その中で、放課後子ども教室などを、なぜ実施しているのかをぜひきいてほしい

・ クラブにとってどういう効果があるのか、デメリットはないのか

・ 子どもの居場所づくり事業に取り組んでいたクラブが、放課後子ども教室になって続けていないところがあると聞いた。原因がわかると良い。

- 謝金などの条件があわないというクラブがある一方で、委託事業としてクラブの収入になっているクラブもあるが、そのような違いが何で生じているのか。
- クラブが地域でどのような役割を果たしているのか、放課後子ども教室でどのような役割を果たしているのかを把握したい。
- ドイツのクラブは、その価値が社会に広く認められているから、クラブとして登録すると、補助がしっかりされる仕組みになっている。
- 日本国内では、そのような制度にはなっていないが、国の事業費を立ち上げに用いたところも少なくないし、公共施設を使っているクラブが圧倒的に多い中では、クラブも自らの役割を考えなくてはいけない。
- そういう社会的な使命を持っていることを自覚したクラブが育っていくようにしたいが、放課後子ども教室への取り組みなどは、クラブなどが取り組むべき問題だと認識していかないといけない
- 地域でがんばって実行委員会をつくっていらっしゃるが、それを継続していくためには、しっかりした組織としていくことが必要である。ひとりのボランティアのがんばりは、続かない。
- 地域支援本部のようなものが、その組織かもしれないが、クラブはそういった中の一つの側面ともとらえられる。特に、日本の場合、学校施設を拠点とすることも多いので、よけいにそういったニュアンスが強いであろう。

（以上）

第３回　アドバイザー会議　概要

１．日時　　２００８年３月９日　１８時半～２０時半

２．場所　　新宿第一生命ビル　１７０３会議室

３．出席

（アドバイザー）黒須、東方、抜井

（事務局）小野崎、近藤、山崎

３．出席　　黒須、東方、抜井

４．議事概要

ヒアリング調査結果ととりまとめの経過について報告した後、とりまとめの考え方について意見交換を行った。

・ クラブ側にとっての課題だけではなく、行政やコーディネーターからの視点での課題を解決する方策も整理しておくことが必要だと思われる

・ ヒアリングからみると、行政の担当者同士が情報交換したところばかりである（一部、クラブから言い出したところもあるが）。うまく情報が流れたかそうでないかではないか。

・ 解決策は「情報を伝えればいい・・・」ではなくて、例えば、「体協のクラマネ講習会の時に・・・」など、具体的なものもあると良い

・ クラブからコーディネーターを何人も送り出しているというのは、おもしろいケースではないか。

・ メリットを伝えるべきであろう

・ 何がなんでも総合型・・・ということではなくて良いと思う。今、現在、総合型が全くかかわっていなくても、できているところはたくさんあるのだし。

・ ただ、総合型と連携すると、こんないいことがあるよ・・・という見せ方も必要であろう。

・ 反対に、総合型にとっての課題を、どうクリアしていけば良いかも示していく。

・ 課題に対して、うまくやっている事例については、わかりやすく示した方がいいのではないか。見る方にとって参考になると思われる。

・ 今回、当初、学校へもアンケートをしようということであったが、放課後子ども事業については学校は基本的に関与しないということで、対象からはずしたかと思う。しかし実際に、事例をみていくと、うまくやっているところは、校長先生や職員と連携しているところが多いのではないか。

・ 子どものことなので、ふだんその子をみている学校の先生と全く無関係というわけにはいかない。

・ 一方で、学校の先生の負担感が高まることは、現状からみてつらいと思う。

- 学校とのどういう連携が望ましいのかが、今後の課題となるのではないか
- 謝金として薄く広く使っていて、全部で何十～百万近い事業費がかかっているところもあるが、一方でそれを受託事業として若いスタッフの雇用確保に役立てているところもある。
- コミュニティとしてのほんわかした良さであれば、シルバー世代がみんなで手伝いながらやっているというのが美しくみえるかもしれないが、はたしてそれで本当に良いのか。
- 放課後の子どもの遊び場が、以前のように安全に確保されないので、地域の人たちが見守っているということだけで考えれば、それでも良いように思える。
- ほとんどが低学年主体であり、高学年は参加しなくなっている実態もみえる。受験とか習い事が忙しいのかもしれないが、高学年の子どもたちこそ、そういう場が必要なのではないか。
- 他の学年との交流などは、スポーツプログラムが進めやすいのではないかと思う。
- 室内の学習活動のようなものは「個」になりがちで、遊びの方が他者との関係が増えると思う。
- スポーツをやっても、今の子は、下の面倒をみるという感じがない。力のそろったメンバーでやりたがる。それではトレーニングになってしまう。
- 体を動かすことを好きになってもらう、スポーツを好きになってもらうというのは、ニュースポーツやコーディネーションなどで実現していくと思うが、「思いやり」「小さい子の面倒をみる」とか、昔は自然とできていったこと、そういうことがまだうまくできていないのではないか。
- そのあたりまでは、今回の調査では、ケアしていない。
- 諸条件は、結局、その市町村の行政担当者がどのように考えていくかであろう。
- 参考になると思われる事例等を伝えながら、より良い事業手法を、一緒に話し合っていくことが必要。
- 総合型地域ＳＣが、何をできるのか、どこまでできるのかなど、外からみていたらわからない。
- 結局は、良く話し合って・・・・というのが、答えか。
- 地域では情報が限られているので、やはりこういうところで整理した事例などを、伝えていってあげれば、考えが広がるのではないか。
- うのみにするのではなく、事例を参考としながら、「自分たちのところでは、こういう工夫ができる」ということを考えていける力を養うことも必要。
- 事業の枠組みが変わってしまうと、また、そこで混乱したり、せっかく考えたことが無駄になってしまうと感じるのではないか
- 七ヶ浜の例などは、３年目からは受益者負担でクラブのプログラムにしてしまうことを、最初から目指していたということだが、偉いなと思う反面、何でも受益者負担でいいのかということも気になる。
- 地域ＳＣの本体が、こういった活動を費用的にも支援しているような事例はなかったか？

- 謝金が一部不足する分を、クラブが補填していたり、用具をクラブから供出したりすることはしているところがあった。
- クラブとして、こういった活動を支えていこうという雰囲気がでてくると良い。
- 多くのクラブがそういった状態になるまでには、時間がかかるのではないか。
- 全国で2000を超えるクラブができてきているが、質といった点で、考えていかないと、クラブそのものの社会的信用度が高まらない。

以上

放課後子ども教室

総合型地域スポーツクラブの協力・参加促進のために

放課後子ども教室に取り組む総合型地域スポーツクラブの事例

◆◆総合型地域スポーツクラブは、様々な形で、放課後子ども教室に関わっています◆◆

埼玉県さいたま市
ＮＰＯさいたまスポーツクラブ

～クラブハウスが拠点となり、地域の多様な人材を活用～

クラブの呼びかけで、地域のシニア世代のボランティアが集まり、日舞や農作業まで多様なプログラムを実施しています。

広島県北広島町
どんぐりクラブ屋台村

～恵まれた自然環境を活かした豊富なプログラム～

一つの小学校単独の教室実施が難しい中、山間地の特性に合わせ、地域内の子どもたちが集まりやすい週末を中心に、恵まれた環境を活かし、本格的沢登りや川遊びなどの体験教室も実施しています。

京都府長岡京市
長七みんなのスポーツクラブ

～余裕教室を放課後子ども教室の事務局に活用～

クラブ役員がコーディネーターとなり、地域の様々な人材を活用。史跡巡りから友禅染めまで多彩なプログラムを実施しています。

静岡県藤枝市
大洲スポーツクラブ

～スポーツをあまりしなかった子にスポーツの楽しさを伝える～

少年団に入っていないような子どもたちを対象に、体を動かすことの楽しみを知ってもらうことを主眼に、いろいろなニュースポーツのプログラムを実施しています。

群馬県沼田市
ＮＰＯうすねニュースポーツクラブ

～放課後子ども教室の企画・運営から学び、指導者がレベルアップ～

クラブの指導者達が運営委員会に参加し、事業の組み立てに関わることで、意識の向上につながっています。

富山県小矢部市
ＮＰＯおやべスポーツクラブ

～クラブの理念の実現のために～

大人の活動から始まったクラブですが、子どもの健全育成を進めるためには、子どもたちのことを知ることが必要と考えて、市の委員会にも参加しています。学校との関係づくりも進みました。

徳島県板野町
板野ぴょん太スポーツクラブ

～クラブが情報をマネジメント～

町内の３小学校のコーディネーターがクラブに参加し、クラブのスタッフが一緒に相談しています。
クラブで安全管理講習なども実施しています。

徳島県美馬市
スポーツクラブ美馬

～クラブがコーディネーターの供給源～

クラブがコーディネーターの発掘と育成をしています。現在、５人のコーディネーターが、クラブハウスで情報交換をしたり、作業をしたりしています。

富山県高岡市
ＮＰＯ　遊・Ｕクラブ

～無理せずクラブの活動拠点で実施～

共働きが多い地域で、放課後の時間帯ではボランティアの確保が難しいため、夕方の時間帯にクラブの活動拠点である公共スポーツ施設で実施しています。

高知県土佐清水市
ＮＰＯスポーツクラブスクラム

～地域の組織が連携し、得意分野で活躍～

市内のスポーツ、文化団体が協力し「子どもネットワークしみず」を設立。週末を中心に「体験・文化・スポーツ」をキーワードに、それぞれの得意分野の教室を実施しています。

熊本県熊本市
出水南どっとネット

～設立準備中に、取り組みやすい事業として始める～

「子どもの頃にいろいろなスポーツをして、自分の好きなスポーツをみつけてもらうこと、スポーツ好きな子を育てること」の目標を果たすために、自分たちで出来ることから始めています。

宮崎県小林市
西小林元気クラブ

～クラブの指導者・会員・スタッフがボランティアとして参加～

クラブの理念「地域の子どもを地域で育てる」を実現するために、指導者も会員もスタッフも、全員が同じボランティアの立場で参加しています。

こんなことで悩んでいませんか？

そんな時は…

市町村

地域で中心的に進めてくれる人が見つからない

町会の役員さんに頼むのは難しいし、他にどこに頼めばいいかわからない。

住民主体で、具体的にどう運営していけばいいかアドバイスしづらい

地域主体で進めてほしいが、新しい取り組みなので、地域の人もとまどっているみたいだ。

子どもの体力向上につなげたいが・・・

子どもの体力低下が問題になっており、改善していかなければいけない。

コーディネーターや地域の実行委員会

ボランティアの方々がなかなかみつからない

出てくれる人は、いつも一緒で大変そう。
新しいボランティアの人材をみつけたい。

プログラムを増やしたい

少しマンネリ化して、子どもたちがあきてきたみたい。新しいことも始めたい。

スポーツのプログラムもしてみたいけれど・・・

思い切り運動することも良いと思うけれど、適当な学習アドバイザーが見つからない。

一緒に考えたり、アドバイスしてくれる仲間がほしい

学校との連絡調整、人材確保、活動プログラムの作成など、一人では大変なので、相談する相手や手伝ってくれる人がほしい。

総合型地域スポーツクラブ

地域に貢献できることを始めたい

クラブの事業として、自分達の活動以外にも何か取り組んでいきたい。

スポーツ好きの子どもを増やしたい

子どもの頃から、体を動かす喜びを体験させたいけれど、クラブには子ども向けのプログラムがない。

クラブのことを地域の人に知ってほしい

総合型地域スポーツクラブのことを、もっと周囲の人に知ってほしいし、理解してほしい。

未来の大人たちのために、いまできること
「子どもの居場所づくり」キャンペーン
文部科学省

「放課後子どもプラン」ホームページ

全国の「放課後子ども教室推進事業」の事例などの情報が毎月更新されております。
活動事例については、常時募集しております。

ホームページアドレス　http://www.houkago-plan.go.jp/

文部科学省 生涯学習政策局 生涯学習推進課 放課後子どもプラン連携推進室
〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2　TEL 03-5253-4111内線（3260）

あなたの地域にある
総合型地域スポーツクラブに
声をかけてみませんか！

放課後子ども教室に
参加してみませんか！

こんないいことがあります！

運営会議をまかせられます！
総合型地域スポーツクラブには事務局があり、組織や会議の運営を手がけています。地域の運営会議の中心となってもらえます。

コーディネーターの人材がいます！
クラブでは、教室などの企画・運営をしており、コーディネーターに適した人材がいます。

子どもたちを対象にした事業の経験があります！
子どもの居場所づくり事業や、クラブの自主事業などで、子ども相手の事業の経験を積んでいます。

地域の人材や知恵のネットワークがあります！
クラブには、職業や年齢に関係なくいろいろな方が参加しています。中には色々な特技や経験をもった方がたくさんいます。

新たな人材発掘ができます！
自治会・町会活動などにあまり参加していない住民でも、総合型地域スポーツクラブには参加している方がたくさんいます。

プログラムが増えます！
スポーツやレクリエーションなど、子どもが喜ぶ新しいプログラムが増えます。

子どもの健康・体力づくりが実現します！
スポーツや遊びのプログラムの導入により、子どもたちの健康・体力づくりが進みます。

クラブの理念が実現します！
放課後子ども教室と総合型地域スポーツクラブの主旨は、共通している部分が多いようです。

クラブのＰＲが進みます！
地域の皆さんに、クラブのことを知ってもらえるチャンスが増えます。

地域とのつながりが強くなります！
自治会・町会や学校との連携が増え、クラブへの理解が進みます。

会員の増加や事業収入につながります！
もっとスポーツをしたい子が入会したりすることも期待できます。委託事業を受けて、クラブの事業収入を確保することも可能です。

だけど…

こんなことが心配。。

- 指導が過ぎて、子どもの自主性が失われるのが心配
- スポーツの苦手な子どもが参加できないのではないか
- クラブは受益者負担と聞いたから・・・
- 怪我が心配だ・・・
- 細かい条件が合うかどうかわからない
- うちのクラブで本当にできるのか心配だ

でも大丈夫！！

スポーツだけをするわけではありません
クラブに関わっている人の特徴を活かして、文化活動まで幅広いプログラムが実施できます。

スポーツをとおして自主性を育てます
下の学年の子の面倒をみたり、自分たちでルールを工夫したり、考える力や思いやりの心を育てることができます。

スポーツの苦手な子どもでも楽しく参加できます
体を上手に動かすことができるようにしていくプログラムもあります。

子どもの新しい可能性を広げます
ニュースポーツをいろいろ体験して、自分の好きな種目をみつけることができます。

大人の活動が支えます！
子どもの健全育成は、総合型地域スポーツクラブのミッションです。クラブに参加する大人が活動を支えることもできます。

安全管理が充実します
クラブでは救急救命講習などを開催しており、指導者やスタッフは安全管理に配慮しています。

行政担当者と相談して、よりより方法を見つけよう
無理なく実施できるよう、事業計画を考えましょう。

できることから始めよう！
できないよりは、あったほうがいい！少しずつからでも始めてみましょう。

設立したてのクラブでも取り組んでいます
規模の大小ではありません。子どもたちを思う気持ちがあれば始められます。

会員のボランティア参加の良いきっかけになる！
クラブの会員に活躍してもらえる場にもなります。

H20 総合的な放課後対策推進のための調査研究事業
『放課後子ども教室における地域スポーツ団体との連携方策に関する調査』
報告書

調査機関　パシフィックコンサルタンツ株式会社
社会政策本部　総合計画部

〒163-0730　東京都新宿区西新宿２丁目７番１号　新宿第一生命ビル 20Ｆ
電話　03-3344-1390　FAX　03-3344-1549
URL　http://www.pacific.co.jp/

調査協力　ＮＰＯ法人クラブネッツ
URL　http://www.clubnetz.or.jp/